



東京上野本店 (The シカゴビル)

OPEN:12:00~20:00 (年中無休)
 〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7
 TEL.03-5818-1123 FAX.03-5818-1124
 E-mail: chicago@regimentals.jp



シカゴブログ連載中!! <http://regimentals.jugem.jp>
 モバイルブログは右のQRコードからアクセスして下さい。

東京上野本店一階に古式銃専門店 The Chicago Gallery もございます。



大阪店 (瓦町二丁目ビル 4階)

OPEN:12:00~20:00 (お正月休みを除く年中無休)
 〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-5-14
 TEL.06-6223-9070 FAX.06-6223-9071

www.regimentals.jp

弊社発行物及び弊社ウェブサイトに掲載の商品画像の著作権は、商品販売権者であるシカゴレジメンタルズに帰属します。
 先物かつ後継品目や使用年数も異なる、その為他社製品により取り扱われる場合があります。特に、本シカゴレジメンタルズの許可
 を受けた、複製、公衆送信、改変、切取、お客様のウェブサイトへの転載等の行為は著作権法により禁止されています。

Copyright © Chicago Regimentals & Co., Ltd. All Rights Reserved.

定価 300円(税込)

Gazette Vol.15

The Annual Booklet for Deactivated Weapons and
 Antique Firearms Collectors

Deactivated Weapons, Deaktivierter Waffen, Armes neutralisées

System-Wilbank-Linsler: Umwandlung des schweizer Infanterie-Gewehrs



Chicago Regimentals Co., Ltd.

株式会社 シカゴレジメンタルズ

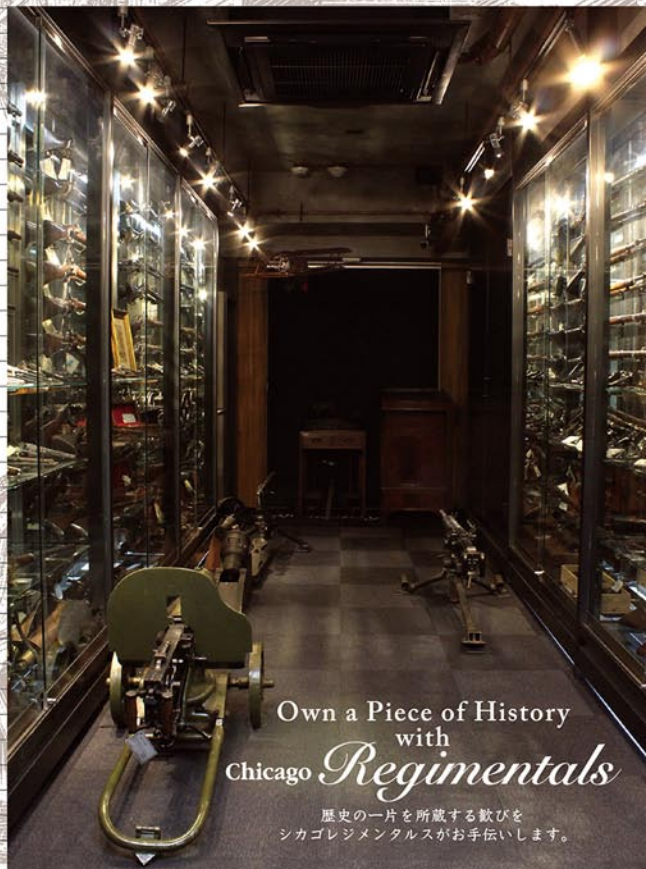
2017.12.31

Table of Contents - 目次

Japanese Small Arms and Militaria	Page 03-04
German Firearms and MG Mount Pre-1945.....	Page 05-06
Variants of the Maschinpistole 40	Page 07-08
Lafette Mounts for MG34 & MG42.....	Page 09-10
Maschinengewehr Scharfenlafette 34.....	Page 11-12
Carcano Mod. 91 Bolt Action Rifles & Carbines	Page 13-14
US Firearms Pre-1945	Page 15-16
British Firearms Pre-1945.....	Page 17-18
Berthier Bolt Action Carbines & Rifles	Page 19-20
Soviet Russian Firearms Pre-1945.....	Page 21-22
シカゴレジメンタルズ在庫品に見る軍用小銃の歴史	Page 23-24
シカゴレジメンタルズ在庫品に見る重機関銃の歴史	Page 25-26
Yugoslav Military Rifles and Sub Machineguns Post-1945.....	Page 27-30
Crvena Zastava Automat M49/57	Page 31
7,62mm Samopal 24	Page 32
Direct Impingement Gas System Self-loading Rifles	Page 33
Derivatives of Kalashnikov Rifles	Page 34
Beretta Fucile Automatico Leggero BM59	Page 35
Beretta Pistola Mitragliatrice 12.....	Page 36
Suomi Konepistooli M/31	Page 37
Sterling Sub-Machine Gun 9-mm. MK 4 (L2A3).....	Page 38
5,45 mm Karabinek wzor 1988 Tantal	Page 39
Ultimax 100 Mark III Section Assault Weapon	Page 40
Singapore Rifle 88A	Page 41
FN P90 Personal Defense Weapon.....	Page 42
Steyr Arme Universal Gewehr A3	Page 43
Heckler & Koch MR223A1 Self-loading Rifle.....	Page 44
B+T AG, The Swiss Quality Firearms.....	Page 45-46
Available in Early 2018.....	Page 47-48
Revolving Pistols of the U.S. Civil War	Page 49-50
US Remington New Model Army Percussion Revolver【5571】.....	Page 51
US Whitney Pocket Model Revolver, 2nd Model, 3rd Type【5203】.....	Page 52
Carbines of the U.S. Civil War.....	Page 53-56
US Winchester M1866 Carbine, 2nd Model【5207】.....	Page 57
Starr M1865 Carbine【5208】.....	Page 58
US Starr Breech-Loading Carbines.....	Page 59-60
Spencer Repeating Rifles	Page 61-64
US Lindner Carbine, Early Production【5036】.....	Page 65
English Green Brothers Patent Carbine【4639】.....	Page 66
Belgian made Pinfire Fist Pistol by J. Chaipeux【3197】.....	Page 67
English Transitional Percussion Revolver【5206】.....	Page 68
Enfield Muzzle Loaders & Breech Loaders	Page 69-71
System Martini	Page 72-74
Turkish Single Shot Pinlock Pistol【5201】.....	Page 75
Spanish Miquelet Type Percussion Pistol by J.F. VERGARA【4513】.....	Page 76
Remington Rolling Block System	Page 77-78
Swiss Breech Loading Rifles of the 19th Century.....	Page 79-80
Austrian Breech Loading Rifles of the 19th Century.....	Page 81-84
European Sporting Rifles	Page 85-86

Helmet of the World	Page 87-88
西郷從盛の時代に使用された実物古式銃	Page 89-90
Dummy Cartridges and Gun Maintenance Supplies	Page 91-92
弊社協力記事掲載専門誌のご案内 月刊Gun Professionals.....	Page 93-94
弊社協力記事掲載専門誌のご案内 月刊アームズマガジン.....	Page 95-96
Chicago Regimentals 25th Anniversary.....	Page 97-98
シカゴ Q&A	Page 99-100
買取り/下取りのご案内：ご来店/通信販売をご利用のお客様へ... ..	Page 101-102
古式銃の買取り、下取りについての流れ	Page 103
無可動実銃/被弾刀剣類登録証付古式銃について.....	Page 104
Chicago Regimentals Tokyo Headquarters	Page 105-106
The Chicago Gallery.....	Page 107-108

※表紙の銃はスライズ M1856/59/67 後装式銅兵銃
Y315-500X BCS (4303) (無可動古式銃、売却不可)です。



Own a Piece of History
with
Chicago *Regimentals*

歴史の一片を所蔵する歓びを
シカゴレジメンタルズがお手伝いします。

Weapons from the Land of the Rising Sun Japanese Small Arms and Militaria



Type 30 Infantry Rifle
三十年式歩兵銃



Type 38 Infantry Rifle
三八式歩兵銃



Type 99 Long Rifle
九九式長小銃



Type 2 Paratrooper Rifle
二式小銃



Type 99 Sniper Rifle
九九式狙撃銃



Type 99 Short Rifle, Last Production
九九式短小銃 最末期型

日露戦争で使用された三十年式歩兵銃は機構的には完成された小銃でしたが、中国大陸の厳しい自然環境の中で幾つかの欠点がありました。このため遼東戦など三十五年式海軍銃の特徴を真の入れた三八式歩兵銃が開発され、騎兵向けに全長を短縮した三八式騎兵銃など各種バリエーションも製造されました。1930年代後半に入ると口径を7.7mmに拡大する等の改良を行った九九式小銃が開発され、九九式短小銃をベースとして空挺向けに銃本体を二分割できる構造とした二式小銃や、スコープを載せた九九式狙撃銃等も製造されました。



Type 3 Heavy Machinegun
(No.129)Y2.052.000 (R25)
三年式重機関銃



銃身の入った箱は2018年購入するもので、加工後の状態です。
（一）品名に大抵した加工品は使用してあります。

Navy Type 1 "Special Type"
Parachute Harness
¥86,400 (税込) [7161]
海軍一式落下傘
(特型) 特帯



Navy Officer's Tachi-style Military Sword
¥291,600 (税込) [7325]
海軍士官太刀型軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本人身、在銘石堂光信花押)



Order of the Golden Kite,
5th Class with Case
¥140,400 (税込) [5848]
功五級金鷲勳章(箱付)



Type 97 Turn and Slip
Indicator
¥86,400 (税込) [7868]
九七式旋回指示器



Sight for Type 92 Battalion Gun
¥86,400 (税込) [4911]
九二式歩兵砲 照準器



Type 38 Carbine
三八式騎兵銃



Type 44 Carbine
四四式騎兵銃



Type 100
Grenade Discharger
¥540,000 (税込) [7333]
一〇〇式擲弾器

薬室上面の菊花紋章印が完全に残った品も、今後入荷予定です。



写真の銃はすべて無動作状態です。



German Firearms and MG Mount Pre-1945

Kar.98k Rifle
(No.58499)¥97,200 (税込)
Kar.98k 小銃

MG15 Water-cooled Machinegun
(No.F145701)¥486,000 (税込)

MG15 水冷式軽機関銃
地上転用型

MG15 サドル・マガジン 3個セット
(例定)¥270,000(税込)【447】

第二次世界大戦時に航空機用機銃として威力不足となったMG15機銃銃の一部を地上用に転用したモデルです。銃身の冷却方式が空冷式から水冷式に改められ発射速度が低くされた他、パイプ型のストックが取り付けられています。銃床はサドル・マガジンと呼ばれるセンパイ式のドラム・マガジンを使用します。ドイツ空軍地上部隊や傘降部隊のルーマニア軍が使用したとされ、別名「ZG15」とも呼ばれます。

Grenade Launcher "Schießbecher"
for Kar.98k with Wrench & Case
¥108,000 (税込) 【4425】
Kar.98k用グレネード・ランチャー
"シースベッヒャー" (レンチ&ケース付)

MP28II Sub Machinegun
(No.19039)¥861,000 (税込)
MP28II 短機関銃

Bergmann MP35/I Sub Machinegun
(No.1888)¥1,620,800 (税込)
ベルグマン MP35/I 短機関銃

Erma EMP Sub Machinegun
(No.1732)¥340,000 (税込)
エルマ EMP 短機関銃

エルマEMP短機関銃は第二次世界大戦前にエルマ社が開発した左側面に箱型マガジンを備えた比較的新鋭な短機関銃で、1931年から1939年の間に約10,000組が生産されました。タンジェントサイトが付いた短筒型の多くはスペイン内戦で使用され、その後のフランス海軍で制式となりました。エルマEMPは戦前の中国やユーゴスラビア、メキシコ等に輸出された他、ドイツの武装親衛隊でも使用されました。

ハーネル社が開発した地上設置型の特殊な機関銃で、歩兵の戦況観測の際に、ワイヤーによる遠隔操作によって方位を照射し、直視機銃床を併用するために使用されました。通常の機関銃のような引き金を付属していません。代わりにワイヤーを巻くリグがリコーダー・メカニズムの前後に設けられています。当初から防空用として開発されたため、自動方式は単純なブローバック方式となっています。

ZF Gerät 38 Machinegun
(No.5247)¥378,000 (税込)
ZF ゲラート 38 機関銃

MP38 Sub Machinegun
(No.5851/5851)¥918,000 (税込)
MP38 短機関銃

MP40I Sub Machinegun
(No.9286k/9286k)¥518,400 (税込)
MP40I 短機関銃

MP41 Sub Machinegun
(No.7807)¥302,400 (税込)
MP41 短機関銃

MG42 Machinegun
(No.3703d)¥507,600 (税込)
MG42 汎用機関銃

MG34の後継型の汎用機関銃で、溶接及びプレス加工により生産性が高められています。また、ハイダー内のリコイルスプリングによる毎分1,200発という高い発射速度も特徴です。ローラー・ロッキング方式の閉鎖機構を含め完成度が高く、使用弾薬を7.62mm NATO弾に変更する等の改良を加えたMG42が現在もドイツ連邦軍で使用されています。他、ユーゴスラビアでは戦後第2次としてMG42の製造機械を譲り受け、M53機関銃を製造しました。

Lafette 42
for MG42 Machinegun
(No.2063a)¥345,600 (税込)
MG42用 ラフエッテ42 三脚

Lafette Mounts for MG34 & MG42



ハンドル操作によって銃口を左右に振る事が可能で、左右11度まで高低の調節が可能となっています。また射撃スライドをストッパーによって制限する事で、複数の機関銃と協力して効率的な防衛弾幕を張ることが可能です。



0-10度で、1度射撃する毎に約1度上と下角を変更する事が可能で、弾はタイヤルを10度で固定して、10度射撃するまで発射に拘束し、少しずつ上と下角を、更に10度射撃するまで角度は約1度ずつ調整します。



ラフェット34はMG34を重機関銃として固定した射撃できるようにした専用の汎用銃座です。MG34用とMG42用のラフェットは接続部分が違いますが、基本構造は同じです。



本体支柱に予備のボルトを保管する為のケースが備え付けられています。継続的な射撃によってボルトが破損した場合でも、直ぐさま復旧する事が可能です。



MG34用ラフェットでは、ハンドルを操作する事でバレルジャケットを開放する事が可能で、ラフェットから銃本体を外す事なく銃身交換を行う事が出来ます。



タイヤルによって上と下角を調節し、弾丸の弾道を調整する事が可能です。左右11度と前後10度によって上と下角を制限する事で、定められた範囲のみに弾丸の弾道が射撃方向に調整出来ます。



ラフェット用の型番MG34/40にはレティクルを発光させるイルミネーターが存在し、イルミネーター用のバッテリーケースを射撃スライドに取り付ける事が出来ます。



山岳用ラフェットには後部に各2方向の可動部が追加されています。根元のヒンジでは脚の開き具合を調整する事が可能で、先端部は伸縮し山岳部の複雑な地形にも対応する事が出来ます。

MG34 ラフェット
¥345,600～¥378,000(税込)

MG42 ラフェット
¥324,000～¥345,600(税込)

MG42 山岳用 ラフェット
¥453,600～¥464,400(税込)



射撃の際、アブソーバーによって銃本体が後座することで発生する振動を軽減し、安定した照準を行う事が出来ます。後座機能は可変射撃機能と連動しており、後座の際銃本体と連動したアームが可変射撃機能を動作させます。

Maschinengewehr Scharfenlafette 34

MG-Scharfenlafette 34
Y1.94.4.000(R&S)[7796]
MG34 ブンカー・マウント



製造時の防錆は非常に厚く、高い強度を持っています。

MG-Scharfenlafette 34と呼ばれる、トーチカ等に設置されていたMG34機関銃用のブンカー・マウントです。本マウントにはMG34本体の他、専用の光学照準器を装備して使用されました。また、発射筒に薬莖を収納するアモ・シュートをマウント下方に装備する事も可能となっています。車載用のMG34が搭載可能となっている他、通常のMG34についても対空サイト基部のピンを二本抜き取り、銃本体から取り外す事で、マウントに据え付ける事が可能となっています。本品は第二次世界大戦中にドイツが構築した「大西洋の壁」の一環として、オランダの海岸沿いのトーチカに設置されていた品です。全体にOD色の塗装が施されており、マウント基部には「TB 342 1940」の刻印の他、三つの輪を組み合わせたクルップ社の社章が確認出来ます。TB型のブンカー・マウントは1940年に降に大西洋の壁等に配備されたタイプで、本品の来歴とも一致しています。



射手は、外部に露を晒すことなく射撃を行う事ができます。



装填の際、フィード・カバラーに下移しないようベリスコープをオフセットする事ができます。



刻印から、1940年クルップ社製である事が判ります。



ウィンドー・ベースでは射界を限定する事ができます。



基部のハンドルを操作する事で、ブンカー・マウントを引きおろす事ができます。



マウントに搭載したまま、銃身交換ラッチを操作可能でです。



銃本体の上部には、ベリスコープ用の窓が開けられています。



ブンカー・マウントには、スムーズに装填できるよう内部に複数の仕切りを設けた250発弾薬箱を用います。



写真の組は無可能美談です。

田 Carcano Mod. 91 Bolt Action Rifle & Carabines

カルカノM1891小銃は、ベテューリ及びベテューリ・ビタリ小銃の後継として1892年5月に採用されたイタリア軍初の無煙火薬を使用する制式小銃で、トリノ陸軍工廠でサルヴァトーレ・カルカノ技師によって開発されました。



カルカノ M1891 歩兵銃
¥118,800～¥129,600(税込)

使用弾薬は従来のベテューリ小銃で使用されていた10.4mm弾に比べて大幅に小口径化された6.5mm×52 マンリッカー・カルカノ弾で、小口径化に伴い歩兵が携行可能な弾薬量を増大できるといったメリットもありました。機関部の構造はドイツのGew.88から強く影響を受けたコックオン・オーピング方式で、弾倉はエンブロック・クリップを使用するマンリッカー方式を改良した物が用いられており、このような機構はカルカノ式と呼ばれます。カルカノM1891小銃に使用する6発装填可能なクリップは上下対称のデザインとなっており、上下どちらの向きでも装填が可能でした。装填時にクリップから最終弾が引き抜かれると、空のクリップは自動的にマガジン・ハウジングの下部から排出される構造となっていました。また、マガジン・ハウジング内のトリガー前方にはクリップのリリース・ボタンが設けられており、マガジン内に残ったクリップや弾薬を本体上方から取り出す事が可能となっていました。

ボルト・スリーブには板状の安全装置が設けられており、安全装置を押し込みながら反時計回りに回転させる事により、ファイリング・ピンおよびボルトをロックする構造となっています。なお、カルカノM1891歩兵銃の銃身内には4条のライフルリングが施されていますが、ライフルリングのツイスト・レートは薬室側が483mm (19in) なのに対して、銃口側では203mm (8in) とピッチが増大する特殊な構造となっていました。

イタリア軍は第一次世界大戦時の対オーストリア戦やエチオピア戦争、第二次世界大戦時のアフリカ戦線や東部戦線の他、イタリア戦線においてもカルカノM1891小銃を広く使用しました。1943年のイタリア降伏後は、ドイツ軍がカルカノM1891小銃を大量に接収し自国の国民突撃隊に配備した他、戦後も中東各国での戦争において正規軍や非正規軍を問わず使用されました。

カルカノM1891小銃には通常の歩兵銃の他に、全長を短縮した騎兵銃モデルも開発されました。



カルカノ M1891 騎兵銃
¥108,000～¥151,200(税込)

カルカノM1891騎兵銃は第一次世界大戦時のイタリア軍の主力騎兵銃で、銃を背負った際に他の表具に引っ掛からない様に、ボルト・ハンドルがストック方向に折り曲げられているのが特徴です。

1938年以降にはM1891騎兵銃の後継モデルとして、使用弾薬を新型の7.35mm×51弾に変更し、リア・サイトを固定式に変更する等の改良を行ったM1891/38騎兵銃と呼ばれるモデルも



カルカノ M1891/38騎兵銃の
固定式
リア・サイト

製造されました。しかしながら第二次世界大戦が勃発すると、イタリア軍では新型の7.35mm弾の供給が不足したため、再び小銃の口径を6.5mmに戻す事になり、6.5mm口径仕様のM1891/38騎兵銃が製造される事となりました。この6.5mmタイプのM1891/38騎兵銃は歩兵銃に比べて取り回しが容易であった他、製造に必要なコストや材料が少なかった事から、1940年から1943年にかけて約1,618,000挺が製造されてイタリア軍の様々な部隊に配備される事となり、大戦中にイタリアで最も多く製造された小火器となりました。

カルカノM1891騎兵銃の銃剣のロック機構には製造時期によってバリエーションが存在します。初期型のM1891騎兵銃では銃剣本体にスライド式のロック機構が組み込まれていましたが、中期型ではロック機構が銃剣基部に移され、レバー式に変更されました。最も一般的な後期型のタイプでは、銃剣基部にボタン式のロック機構が装備されています。



カルカノ M1891 騎兵銃の銃剣ロック機構
(写真左) 初期型
(写真中) 中期型
(写真右) 後期型

カルカノ小銃には通常の騎兵銃モデルとは別に「TS (Truppe Speciali)」と呼ばれる、砲兵や工兵、輜重兵といった部隊向けにM1891歩兵銃を短縮したモデルが存在し、海軍部隊や民兵組織等に供給されました。

通常のM1891騎兵銃とは異なり、TSモデルではフロント・バンド下部に着剣ラックが設けられているのが特徴です。

通常のM1891騎兵銃はTSモデルの最終型で、1938年から1940年にかけて7.35mm弾仕様のタイプが製造されていましたが、1940年以降はM1891/38騎兵銃と同様に、口径を6.5mm仕様としたモデルが製造されました。リア・サイトについてもM1891/38騎兵銃と同様に固定式のタイプが装備されており、リア・サイト前部には使用弾薬の口径を示す「CAL. 6.5」の刻印が入っています。6.5mm仕様のM1891/38 TS騎兵銃の製造はベレッタ社及びF.N.A. Brescia社のみで行われ、約198,000挺が製造されたと言われています。



カルカノ M1891/38 TS 騎兵銃

イタリア軍では1938年にM1891歩兵銃の後継として、口径をより強力な7.35mm×51に変更し、全長を短縮して携行しやすく改良したM1938短小銃を開発しました。



カルカノ M1938 短小銃
¥86,400(税込)[4439]

M1938短小銃は大口徑化および全長の短縮の他に、リア・サイトを300mm固定式の物に変更することにより、生産の簡略化も図られていました。また、ボルト・ハンドルが騎兵銃モデルと同様に下方に折り曲げられたデザインとなっているのも特徴です。尚、初期のM1938短小銃の中には、M1891歩兵銃の銃身を切り詰めて7.35mmにボア・アップした上で再利用した個体も存在します。第二次世界大戦が勃発すると7.35mm弾の供給不足に伴い、M1938短小銃についてもM1891/38騎兵銃と同様に口径を6.5mmに戻したタイプが製造されました。6.5mm仕様のM1938騎兵銃では弾道の変化に伴い、リア・サイトが200mm固定式へと変更されています。7.35mm仕様のM1938短小銃は、その後イタリア軍の二線戦部隊に配備された他、フィンランドにも94,500挺が輸出されました。

写真の銃はすべて無動可動状態です。



US Firearms Pre-1945

US Browning Caliber .50 M2 Heavy Barrel Machinegun
(No.1342873) ¥1,296,000 (税込)
.50口径 M2 ブローニング 重機関銃



UD M42 Sub Machinegun
(No.11681) ¥972,000 (税込)
UD M42 短機関銃

アメリカ政府最大の銃器製造会社である1940年代初期に設立されたヘイズ・タッカー社に接し、マーリン社によって製造された短機関銃です。第二次世界大戦中はCIAの前身である連邦捜査局(FBI)の採用に、製造コストの削減からトンプソン短機関銃に代わって供給された。レンジ・シミュレーション等にも使用されました。米軍による制式化は行われなかった。約15,000挺が生産された珍しい珍しい品です。



US M50 Reising Sub Machinegun
¥410,400 (税込) [1560]
M50 レイジング 短機関銃

第二次世界大戦中に米海軍陸隊におけるトンプソンM1A1短機関銃の供給不足を解消するため、ハーランド・リチャードソン社が1940年に開発した。1941年に採用された短機関銃です。安価で高性能な短機関銃でしたが、初期の構造の過剰な複雑さに起因する不具合が頻りに発生し、そのためにトンプソンM1A1の大半を生産が不可能になると、M50は次第に消滅からその姿を消す事となりました。



US Thompson M1928A1 Sub Machinegun
(with flip-up adjustable Lyman rear sight)
¥291,600 ~ ¥442,800 (税込)
トンプソン M1928A1 短機関銃
(Lyman製アジャスタブル・リア・サイト付)

トンプソンM1928A1短機関銃は、米陸軍によってそれまで限定的に運用が行われていたトンプソンM1928短機関銃を1938年に標準調達品として制式採用したモデルです。ハンドガードの従来のバーティカル・フォア・グリップ付の物からストリートタイプになった他、ハンドガード及びストローク下部にスプリング・シイベルが追加されました。M1928A1は米国以外にもライセンスに基づき各国に供給されました。



US Thompson M1A1 Sub Machinegun
(with triangular sight guard wings)
(No.547878) ¥129,600 (税込)
トンプソン M1A1短機関銃
(リア・サイトガード付)

トンプソンM1928A1短機関銃の製造コストを下げるために各部を改良したトンプソンM1短機関銃に対して、さらに撃針の固定化等の追加改良を加えたモデルです。M1A1ではリア・サイトの形状を変更する為、三角形のリア・サイトガードが標準装備されるようになりました。また、元々はM1と同一で製造された物の中には、後にM1A1に準じた改修を受けてA1射印を追加された個体も存在します。



US Caliber .30 M1918A2 Browning Automatic Rifle
(No.500709) ¥367,200 (税込)
BAR M1918A2
ブローニング オートマチックライフル

1918年米軍制式となったM1918 BARの最終発展型で、セミリコイルオートマチック射撃の初速・精度・信頼性が向上し、代わりには射撃速度が低下し高速度で切り替え可能となりました。また、M1918の改修型であるM1918A1から追加された、二脚がフロント・サイト前方に移された他、トリガーガード前方にマガジン・ガードが追加され、ハンドガード等の形状も変更されています。この改良に伴って、両者のM1918やM1918A1もA2仕様へ改修が行われました。



BAR キャリング・ハンドル
(別定) ¥21,600 (税込) [7699]

BAR ハンドガード
(別定) ¥21,600 (税込) [6913]



(写真から)
US Springfield M1903 Rifle
(No.28609) ¥345,600 (税込)
スプリングフィールド M1903 ライフル

1903年にアメリカ軍制式となったボルト・アクション・ライフルで、米西戦争で敵側のスペイン軍が使用していたモーゼル系小銃を参考に、独自の設計を加えて開発されました。使用弾薬の30.06口径は現在でも、頻りに使用されているほどの傑作カービン銃で、後のM1ガーランド等でも採用されています。

US M1 Rifle
Sold

M1 ガーランドライフル
1936年に米軍制式となったボルト・アクション・ライフルで、特徴的な銃身を有する。弾薬の供給の途に給弾が難しい事など、過渡期の自動小銃ならではのとも言える個性的なメカニズムを備えていました。スプリングフィールド工廠とウィンチェスター社の2社で大量生産が行われ、大戦終了までに400万挺以上が製造されました。

US M1 Carbine
(No.3847136) ¥162,000 (税込)

US M1 Carbine (BM社製)

1941年に米軍制式となった自動小銃で、軽便で射撃も速く射撃威力が有り、射撃時の反動も小さかった事から、軍用や土俗の自動用武器として広く使われる事となりました。1943年に改良型が追加された他、リア・サイト及び安全装置の改良やプレス加工部品の導入等が行われました。

US M1A1 Paratrooper Carbine
(No.2800579) ¥54,000 (税込)

US M1A1 パラトルーパー カービン

M1カービンの空挺部隊用モデルで、通常の木製銃床の代わりに本体側面に折り畳む事が可能なワイヤー・ストックが装備されており、グリップもビストル・グリップ形状となっています。M1A1カービンはゼネラル・モーターズ傘下のインランド社で約15万挺が製造されました。



写真の銃はすべて無断複製禁止です。



British Firearms Pre-1945



Vickers-Berthier Mk I Light Machinegun
(No.2539) ¥302,400 (税込)
ビッカース・バーンシェー Mk I 軽機関銃

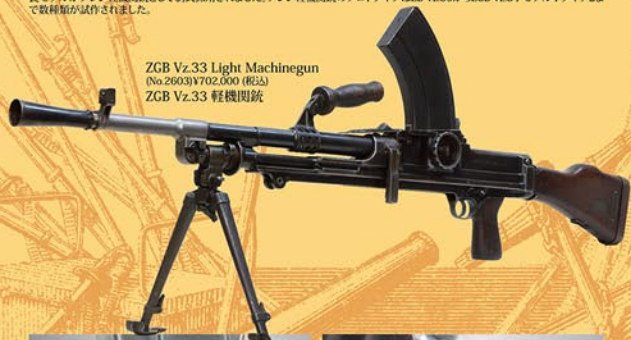
フランス人のベルンシェーが設計し、イギリスのビッカース社で生産された軽機関銃です。本銃はイギリス軍では制式採用されなかったものの、その後インド防衛軍において引き続き使用され、インパール遠征戦では1945年までMK3の量産が用いられていました。また、イギリス軍においても極少数の特殊部隊や偵察部隊で使用されたといわれています。本銃の機構は後にビッカース・Kガンに受け継がれました。



Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.1 Mk III*
(No.V5184) ¥194,400 (税込)
SMLE No.1 MkIII* 小銃



Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.4 Mk I*
(No.43L5922) ¥18,800 (税込)
SMLE No.4 Mk I* 小銃



ZGB Vz.33 Light Machinegun
(No.2603) ¥702,000 (税込)
ZGB Vz.33 軽機関銃



リアサイトの新型ダイヤルはマガジンハウジング上面に設けられています。



レシーバー前面には「ZBROJOVKA BRNO, A.S.」の烙印が入っています。



Sten Mk I Machine Carbine
(No.3L3235) ¥75,600 (税込)
ステン Mk I 短機関銃

第二次世界大戦中にイギリスが開発したステン短機関銃シリーズの最初の量産モデルです。本銃のハンドガードと可動式(ベテカル・クリップ)大型のフラスコ・パイプが特徴ですが、これらは後のモデルで変更されています。MK I 特有の装備となっています。MK Iは採用後まもなく各型番のMK IIに置き換えられますが、それでも10万挺近くが量産され、ダンケルクからの撤退後営地にあったイギリス軍を武装しました。



Sten Mk II Machine Carbine
(No.F893365) ¥140,400 (税込)
ステン Mk II 短機関銃



Sten Mk II Machine Carbine
(No.81837) ¥97,200 (税込)
ステン Mk II 短機関銃



Sten Mk V Machine Carbine
(No.58915) ¥259,200 (税込)
ステン Mk V 短機関銃



Bren Mk III Light Machinegun
(No.LB17107) ¥140,400 (税込)
ブレン MKIII 軽機関銃

1944年に採用されたブレン軽機関銃の軽短縮モデルで、元々はジャングルでの戦術や空挺部隊向けとして開発されました。銃身が短縮された他、レシーバーにも軽量化加工が施されています。また、マガジン・ウェル・カバーや排弾口カバーについても簡略化された他、バット・ストックも新型の物に変更されています。MK IIIは大量中に約57,600挺が製造され、戦後はその多くが7.62mm NATO弾仕様の9A1や9A2に改修されました。

Williamson Gun Camera, Vickers K-Gun Type
(No.28348) ¥151,200 (税込)
ウィリアムソン社製 ビッカース Kガン タイプ
ガン・カメラ



ビッカース Kガンに似た訓練用のガン・カメラです。本品は航空用短縮機関銃の訓練用として生産された品で、当初より発射機能は全く備えておらず、内部に電動式のカメラが内蔵されています。引き金を引く事によってシャッターが押され、引いた標的がフィルム内に収まっているかを訓練後に確認しました。本体にブルーグレー塗装が施されており、艦載機の後部銃座で使用されたものと考えられます。

Berthier Bolt Action Carbines & Rifles

ベルチエー小銃は1890年にフランス軍制式となったボルトアクション・ライフルで、当時既に旧式化していた騎兵や砲兵部隊が装備するグリス Mle 1874 単発騎兵銃を更新する目的で採用されました。



ベルチエー Mle 1892 騎兵銃
¥108,000 ~ ¥129,600 (税込)

ベルチエー小銃はレベル Mle 1886 小銃の作動機構を改良し、チューブ式弾倉に代わってマンリッカー方式のエンプロック・クリップによる装填方式が組み込まれています。この改良はフランス領アルジェリアの鉄道技術者であったエミール・ベルチエーによって行われました。

ベルチエー小銃は第二次世界大戦初期までフランス陸軍で使用された他、戦後もフランス外部隊や植民地軍、騎兵部隊等で使用が続けられました。また、フランス国内の法執行機関等でも騎兵銃モデルが1960年代まで使用されました。

ベルチエー小銃のボルト周辺の構造はグリス小銃やレベル小銃に類似していますが、ボルトのロッキング・ラグがレベル小銃ではレシーバーと水平位置で噛み合うのに対し、ベルチエー小銃では垂直位置で噛み合う構造となっているなど異なる点も見られます。また、レシーバーからボルトを引き抜く際には、ボルト・ヘッドをレシーバー内部で事前に取り外しておく必要があるなど、独特の構造となっています。フランスはドイツが同じマンリッカー方式のGew.88小銃を採用した事もあり、ベルチエー小銃の採用に踏み切ったと言われています。

ベルチエー小銃は当初 Mle 1890 騎兵銃や Mle 1892 騎兵銃といった騎兵銃モデルのみが制式採用され、1900年代に入ってからようやく Mle 1902 や Mle 1907 等の歩兵銃モデルがインドシナやアフリカといったフランスの植民地軍向けに採用されました。ベルチエー歩兵銃はレベル Mle 1886/M93 歩兵銃に比べて軽量で取り回しが良く弾薬の装填も容易であった他、メンテナンス性が高かった事から熱帯地での使用に適していました。ベルチエー小銃で採用されたマンリッカー式の装填方式はレベル小銃のチューブ式弾倉に比べて馬上での再装填操作が迅速に行えるメリットがありました。また、装弾数が3発と他国の主力小銃と比較して少ないという欠点がありました。そのため第一次世界大戦中の1916年には、マガジン下部に金属製のエクステンションを追加して装弾数を5発に増やした改良型である Mle 1916 小銃が採用されました。



(写真上) 初期の3発用弾倉
(写真下) Mle 1916タイプの5発用弾倉

ブ排出孔から砂塵や異物が入り込み、装弾不良を起こす可能性が有るという弱点も存在しました。このため、Mle 1916 小銃ではクリップ排出孔に手で開閉できるダスト・カバーを設け、異物の侵入を防ぐ措置が取られました。

ベルチエー Mle 1916 小銃の登場により、装弾数についての問題は一応の解決を見ましたが、装弾数の変更に伴う銃本体の改修や新型クリップへの移行が間に合わず、現場では装弾数が異なる銃やクリップが混在する事となり混乱を招きました。

また、ベルチエー Mle 1890 小銃には通常の騎兵銃モデルの他、胸甲騎兵モデルやジャンダルムリ (国家憲兵隊) モデル、Mle 1892 騎兵銃など用途に応じて細かなバリエーションが多数作られました。

Mle 1892 騎兵銃は、Mle 1890 騎兵銃の銃身を僅かに延長して着剣装置を追加したモデルです。

Mle 1892 騎兵銃にはモデル名末尾にMDという文字が追加されたタイプが存在しますが、このMDの刻印はフランス語で「Modifié Desaleux」を表しており、リア・サイトが1898年に採用された尖頭弾である「Carrouche Modèle 1886 a Balie D (通称: Balie D弾)」に対応した物に換装されている事を意味しています。

尚、上記の Mle 1890 騎兵銃の各バリエーションについても、Mle 1916 小銃に準じて装弾数を5発に改修したタイプが存在します。ベルチエー Mle M1916 騎兵銃は、当初からマガジン内に5発装填可能なモデルとして製造されたベルチエー Mle M1916 歩兵銃の騎兵銃モデルですが、刻印以外は Mle 1892 騎兵銃の装弾数を5発に改修したタイプとはほぼ同一です。



(写真上) ベルチエー Mle 1916 歩兵銃
¥324,000 (税込) [4103]
(写真下) ベルチエー Mle 1916 騎兵銃
¥108,000 ~ ¥140,400 (税込)

1915年以前は全てのベルチエー歩兵銃及び騎兵銃において下方に折れ曲がったボルト・ハンドルが装備されていたが、1915年以降は歩兵銃モデルのみボルト・ハンドルがストレート・タイプとなりました。また、Mle 1916以降に製造されたベルチエー小銃には木製のアッパー・ハンドガードが追加されているのも特徴です。尚、Mle 1916 騎兵銃は歩兵銃とは異なる銃剣を使用するため、着剣装置の形状も異なります。

ベルチエー Mle 1907/15 騎兵銃は、ベルチエー Mle 1907 歩兵銃の改良型であるベルチエー Mle 1907/15 歩兵銃の騎兵銃仕様です。



ベルチエー Mle 1907/15 騎兵銃
¥108,000 (税込) [5211]

Mle 1907/15 小銃は当初フランスの植民地軍向けや他の連合国への援助向けに製造されていましたが、1916年以降はレベル小銃の不足を補うためフランス本国軍にも支給された事となり、帝政ドイツ軍と激戦を繰り上げる西部戦線にも多数が投入されました。また、Mle 1907/15 小銃はフランス本国の他、アメリカのレミントン社でも製造が行われました。Mle 1907/15 騎兵銃についても当初装弾数は3発でしたが、その後 Mle 1916 と同様に装弾数を5発に増やし、クリップ排出孔にダスト・カバーが追加された改修型も作られました。また、第一次世界大戦後の1934年には新型の7.5mm×54弾が撃てるよう改修された Mle 1907/15 M34 と呼ばれるタイプも作られました。



Soviet Russian Firearms Pre-1945

第二次世界大戦時のソ連を代表する短機関銃で、戦後も東欧各国でライセンス生産や改良型の製造が行われました。本銃はその生産期間を通してリアサイトの簡略化や専用のボックス・マガジンの採用の他、内部部品の仕様変更といった細かな改良が続けられました。中弾型はリア・サイト・ガードが付かない大型のフリップ型のリア・サイトが特徴で、初期型同様に変更らしい仕様となっています。



PPSh41 Sub Machinegun,
Middle Type
(No.1122) ¥194,400 (税込)
PPSh41 短機関銃 (中期型)



PPS43 Sub Machinegun
(No.884) ¥108,000 (税込)
PPS43 短機関銃



Tokarev SVT 1940 Self-loading Rifle
(No.6222) ¥270,000 (税込)
トカレフ SVT 1940 自動小銃

SVT38自動小銃を改良した7.62mm×54R弾を使用するガス圧利用型の半自動小銃です。狙撃銃としても使用出来るよう、当初は全ての銃身に装填可能となっていました。アタッシュ・ハーダーのボルト形状は前期型ではスリット状でしたが、後期型は正方形となりました。本銃は使用弾薬に由来する装弾不良など幾つかの欠点を抱えていましたが、その後ドイツ製の自動小銃開発にも影響を与えたと言われています。



Tokarev AVT 1940 Selective-fire Rifle
(No.2519) ¥302,400 (税込)
トカレフ AVT 1940 自動小銃

トカレフSVT1940自動小銃にフル・オートマチック射撃機能を追加した珍しいモデルです。トリガー後方のレバーはSVTではセーフティとしての機能のみでしたが、AVTではセレクト・レバーも兼ねており、レバーを右側に回転させる事によりフル・オートマチック射撃が可能となります。AVT1940は連射時の強い反動により制御が難しく、銃床が破損する等の問題があった為、生産数は極少数に留まりました。



Mosin Nagant M1891/30 Infantry Rifle
(No.79134) ¥75,600 (税込)
モシンナガン M1891/30 歩兵銃



Mosin Nagant M1944 Carbine
(No.2506) ¥97,200 (税込)
モシンナガン M1944 騎兵銃

マキシム機関銃をロシアでライセンス生産したM1905の改良型で、基本構造はそのままに各部の内部を見直して軽量化を図っている他、冷却水と車輪を備えたコロフ銃架により移動も容易となっています。水冷システムは生産時期により各種存在し、後期型ではジャケット上部に設置する大型の蓋が追加されており、冷却水の代わりにも直接やめる事が出来る、ロシアらしい設計がされています。



Maxim M1910
Heavy Machinegun
(No.513) ¥302,400 (税込)
マキシム M1910 重機関銃



DS39 Heavy Machinegun
(No.23) ¥864,000 (税込)
DS39 重機関銃

1939年にマキシムM1910の後継としてソ連軍制式となった口径7.62mmの水冷式重機関銃です。1939年から1941年にかけて約1万挺が製造されましたが、実戦使用において作動不良が頻発した為、期間中で製造が中止される事となりました。当時ドイツ軍の反攻であったソ連軍にはDS39を改修する余裕がなかったため、DS39を製造していた工場では、旧式ながら信頼性の高いマキシムM1910の製造への切り替えが行われる事となりました。



フィード・カバー上面には五光星及び製造年を示す1940の刻印が入っています。

写真の銃はすべて機可動版です。

シカゴレジメンタルズ在庫品に見る 軍用小銃の歴史

1800年代



ブランドバス 前装弾打式騎兵銃
¥540,000 (税込)

1860年代



スベンサー M1860 カービン
¥540,000~¥756,000 (税込)

1900年代



スナイダー・エンフィールドライフル
¥302,400~¥540,000 (税込)



SMLE No.1 MkIII 小銃
¥194,400~¥205,200 (税込)



三八式騎兵銃 Sold

1940年代



M1 ガーランドライフル Sold



US M1 カービン ¥151,200~¥248,400 (税込)



Gew.3 自動小銃
¥75,600~¥334,800 (税込)

1960年代



M16A1 自動小銃
¥194,400~
¥313,200 (税込)



FA-MAS 自動小銃
¥529,200~
¥1,026,000 (税込)

1980年代



ステアー AUG 自動小銃
¥313,200~¥648,000 (税込)

2000年代



タホル TAR 21 自動小銃
¥648,000~¥702,000 (税込)

1870年代



レミントン・ローリング・ブロックライフル
¥151,200 (税込)

1930年代



モシナガン M1891/30 歩兵銃
¥75,600 (税込)



Kar.98k 小銃 ¥97,200~¥324,000 (税込)

1950年代



AK-47 自動小銃 II 型
¥183,600~
¥194,400 (税込)



ベレッタ BM59 自動小銃
¥248,400~¥291,600 (税込)

1970年代



AKS-74u 自動小銃
¥172,800~
¥194,400 (税込)



ガリル 自動小銃
¥162,000~
¥194,400 (税込)

1990年代



FN P90 短機関銃
¥810,000 (税込)



SR88A カービン
¥345,600 (税込)

2010年代



FN SCAR 自動小銃
¥1,404,000 (税込)



写真の銃はすべて真実な銃です。

シカゴレジメンタルズ在庫品に見る 重機関銃の歴史

1895年
(十九世紀末)



コルト M1895
重機関銃
¥1,026,000 (税込)

1900年～
1910年代
(第一次世界大戦)

マキシム
M1910
重機関銃
¥302,400 (税込)



マキシム MG08
重機関銃
¥1,296,000～
¥2,376,000 (税込)

1920年
1930年代
(戦間期)



Vz.37 重機関銃
¥410,400～
¥594,000 (税込)



ブローニング 50口径
M2 重機関銃
¥1,188,000～¥1,296,000 (税込)

1939年
1945年
(第二次世界大戦中)



DS39 重機関銃
¥864,000 (税込)



MG42 汎用機関銃
(ラフエツト三脚別売)
¥324,000～
¥507,600 (税込)
MG42 ラフエツト 三脚
¥324,000～¥464,400 (税込)

1945年



中国
五七式 重機関銃
¥540,000 (税込)



FN MINIMI
7.62mm 汎用機関銃
¥1,836,000 (税込)

KKK 汎用機関銃
¥410,400 (税込)

20世紀は人類の歴史・兵器発展の歴史であったかも知れません。
機関銃の原型は当初銃身手動式のガトリング・ガンで、連射機能は備わっていたものの、敵の完全制圧までは出来ませんでした。19世紀末に登場したコルト M1895 機関銃を始めとするガス圧式機関銃は当時の戦法を一変させるほどの威力を持っていました。銃身の冷却機能を備えていませんでした。
その後、水冷式のマシン系と空冷式のホッチキス系(三年式重機関銃など)が登場し、長時間の連射が可能となりました。
これらによって(重)機関銃の用兵上の戦法が確立し、それ以後はより威力の大きな 50口径、使用用途の広がった 30口径や、特殊な機能を備えた Vz.37 などが出現しました。第二次大戦中は威力と機動性をもった DS39 の他、現代でも性能的に通用する汎用機関銃としての完成形と言える MG42 が登場しました。第二次大戦後は重機関銃の新たな進歩はあまり見られず、大戦中の改良型が中国(五七式)などの第三国で生産された他、重機関銃を軽機関銃として設計し直したのも登場し、世界の紛争地域で使用されました。それ以降は携帯性を重視した重機関銃とは呼べない MINIMI などの分隊支援火器の時代となりました。

写真の価格はすべて税別価格です。

Yugoslav Military Rifles and Sub Machineguns Post-1945

ツァスタバ・アームズはセルビア(旧ユーゴスラビア)の銃器メーカーで、1853年にセルビア公国のクラグイェヴァツ(Kragujevac)に設立され、今日に至るまでユーゴスラビア及びセルビアにおける小火器の製造・開発に大きく関わってきました。ツァスタバは第二次世界大戦中に甚大な被害を受けましたが、1944年10月21日にクラグイェヴァツが解放されると、同年には早くも9mm口径のM1944 B2短機関銃が開発され、銃器生産が再開されました。第二次世界大戦後、ユーゴスラビアではドイツのKar.98k小銃やモーゼルM24小銃のデザインを基に独自の改良を加えて7.92mm×57(8mmモーゼル)弾を使用するM48と呼ばれるボルトアクション・ライフルが開発されました。M48小銃は外観的にはKar.98k等に類似していますが、ボルトや機関部などの部品の互換性が殆ど無くなっています。また、アッパー・ハンドガードがKar.98kとは異なり薬室前部まで伸びているのが外観上の特徴となっています。バット・ストックは槍もしくはブナ製になっており、ステンレス製のカップ型バット・プレートが装着されています。M48小銃には製造時期の違いにより複数のバリエーションが存在します。



1950年から1952年にかけて製造された最初期のM48小銃ではマガジンのフロア・プレートが削り出し製となっている他、薬室上部のモデル名刻印も「M48」となっています。続く1952年から1956年にかけて製造された改良型のM48Aと呼ばれるモデルでは、生産性の向上及び製造コストの低下を狙ってマガジンのフロア・プレートがプレス製に変更された他、薬室上部のモデル名刻印が「M48A」となっています。1956年から1965年にかけて製造されたM48Bでは更なるプレス製部品の導入が行われており、バンドやマガジン・フォロアーがプレス製に変更されています。また、M48Aでは削り出し製であったトリガー・ガードやマガジン・ウェルについてもプレス製部品を組み合わせた物に変更されており、トリガー・ガード両側の周囲にリブが設けられているのが外観上の特徴となっています。尚、M48BはM48Aの改良型ではあるものの、薬室上面のモデル名は「M48A」のままとなっており、その他の刻印についても変更は見られません。M48系小銃は、1956年以降は主に輸出用として製造されたと言われており、アルジェリアやエジプト、イラク、シリア等に輸出が行われました。



1959年にツァスタバは旧ソ連のSKSカービンを国産化したPAP M59自動小銃の生産を開始し、1966年にはその独自改良型であるPAP M59/66自動小銃が開発されました。PAP M59/66では銃口部にライフル・グレナード装着用のアダプターの他、ガス・カットオフを兼ねたグレナード用サイトが追加されているのが特徴です。また、PAP M59/66にはフロント・サイト及

びリア・サイトに夜間用サイトを追加したM59/66A1と呼ばれるタイプも製造されました。



PAP M59小銃の生産開始とはほぼ同時期の1959年以降、ツァスタバではAKタイプの自動小銃の開発を開始し、M64と呼ばれる削り出しレシーバーを持つ初期の試作モデルを軍のトライアルに提出しました。M64自動小銃にはライフル・グレナードの発射機能が追加されていた他、ボルトのホルダー・オープン機能も内蔵されており、ハンドガードやレシーバーの形状についてもオリジナルのAKとは異なっていました。また、M64では銃身がレシーバーにねじ込み固定されていました。M64自動小銃は性能的には問題なかったものの、歩兵用の通常装備としてユーゴスラビア軍に採用される事はありませんでした。



1970年に入ると、ようやくユーゴスラビア軍向けにAKタイプの自動小銃の生産が開始され、固定ストック・モデルがM70自動小銃、折り畳みストック・モデルがM70A自動小銃として制式採用されました。その後、製造コストを削減するため、M70自動小銃では本体に組み込まれていたボールド・オープン機能がマガジン・フォロアー側へと移された他、銃身の本体への固定方法がねじ込み式からピンによる固定へと変更されたモデルが開発されました。これらの改良が加えられたモデルは、固定ストック・モデルがM70B自動小銃、折り畳みストック・モデルがM70AB自動小銃と呼ばれました。更なるコスト削減モデルであるM70B1自動小銃(固定ストック)及びM70AB1自動小銃(折り畳みストック)は、それまで削り出し製であったレシーバーが厚さ0.9mmの鉄板を使用したプレス製へと変更されました。また、トリガー機構にボルトが完全に閉鎖するまでハンマー・リリースのタイミングを遅延させるための部品が組み込まれた他、従来のマズル・リングに代わってマズル・ブレイキが装備されるようになりました。しかしながら、これらのモデルはその後、最終改良型であるM70B2自動小銃(固定ストック)及びM70AB2自動小銃(折り畳みストック)が登場した事から比較的小数の生産に終わりました。

M70B2自動小銃及びM70AB2自動小銃ではグレナード発射時の衝撃に対する耐久性を向上させるため、レシーバーの鉄板の厚みが1.5mmとなった他、薬室周辺のレシーバー側面に強化リブが設けられています。M70B2自動小銃及びM70AB2自動小銃はM70シリーズ中最も生産数の多いモデルとなり、ユーゴスラビア陸軍で広く使用された他、1990年代のユーゴスラビア内戦でも様々な武装組織によって使用されました。



写真の銃はすべて無動可動銃です。

M70系自動小銃は基本的にライフル・グレネードの発射機能及びガス・カットオフを兼ねたグレネード・サイトを備えており、ハンドガードは一般的なAKとは異なる側面の放熱孔が3箇所あるやや長いタイプの物が装備されています。また、フロント及びリア・サイトにはフリップ・アップ式の夜光サイトが装備されています。この夜光サイトは当初は蓄光タイプでしたが、後にトリチウムを使用した物に変更されました。レシーバー左側面にはライフル・グレネード発射時の衝撃でレシーバー・カバーが外れるよう、ロック・ボタンが装備されています。また、セレクター表示は「R (Rafalna: 連射) 及び「J (Jedinačna: 単射)」のアルファベット表記となっています。尚、銃身内には一般的なAKに見られるようなクローム・メッキ処理は施されていません。



M77B1 自動小銃
(No.17351) ¥280,800 (税込)

M70自動小銃には派生モデルとして、使用弾薬を西側で一般的な7.62mm×51弾としたツァスタ・M77B1自動小銃と呼ばれるモデルも存在します。1977年に登場したM77B1は使用弾薬の変更に伴いレシーバーが大型化されている他、銃口部にバード・ケージ・タイプのフラッシュ・バイパーが装備されているのが特徴です。M77B1自動小銃では本製の固定式バット・ストックが装備されていたが、折り畳み式ストックが装備されたM77AB1と呼ばれるモデルも製造されました。M77B1自動小銃はユーゴスラビア軍で使用されていた他、キプロスやマリ等でも採用されました。



M21 自動小銃
ショート・バレル
(No.1024) ¥280,800 (税込)



M21 自動小銃
スタンダード・バレル
(No.5637) ¥280,800 (税込)



M21 自動小銃
ロング・バレル
(No.16515) ¥280,800 (税込)

1997年に入ると、旧ユーゴスラビア連邦共和国において新型自動小銃の使用弾薬を従来の7.62mm×39弾から西側諸国で一般的な5.56mm×45弾へ更新する事が決定し、この5.56mm弾を使用する自動小銃の開発が開始されました。M21自動小銃と呼ばれるこの新型小銃は、2002年に同名がセルビア・モンテネグロへと変わる直前にユーゴスラビア軍の性能評価試験に合格し、2004年に正式配備が開始されました。2006年にセルビア・モンテネグロが解体した後も、M21自動小銃はセルビア共和国軍において引き続き使用されています。M21自動小銃ではハンドガードやサイド・フォールディング・ストックにポリマー素材を使用している他、ピカティニー・レールも装備可能となっており、銃身下部にグレネード・ランチャーを装着可能とする等の近代的な改良が行われています。また、M21自動小銃は用途に応じ

てショート・バレル、スタンダード・バレル、ロング・バレルという銃身長の異なるモデルが用意されているのも特徴です。M21自動小銃は現在も7.62mm×39弾を使用するM70自動小銃や7.62mm×51弾を使用するM77自動小銃等と共に生産及び輸出が続けられています。

第二次世界大戦後、ユーゴスラビアでは国産短機関銃の独自開発を進め、1949年にM49と呼ばれるモデルが開発され、ツァスタバで製造が開始されました。M49短機関銃の外観は旧ソ連のPPSh-41短機関銃に類似しており、弾倉も互換性が有りましたが、円筒形一体型の機関部やバッテリー、左側に開いたエジェクション・ポート等にはイタリアのベレッタM1938系短機関銃の影響が見られます。また、銃床下部にはクロス・ボルト・セーフティが追加されているのも特徴です。さらにフロント・サイトにはドイツのKar 98k小銃に類似したH字型の保護カバーが装備されている他、円形のコッキング・ハンドル形状など特徴の多い短機関銃となっていました。M49/57短機関銃はM49短機関銃に小改良を加えたモデルで、複雑な構造であったボルト・ユニットが一般的なボルト・トリコイル・スプリングの組み合わせに変更されています。M49/57短機関銃は、後継のM56短機関銃が登場した後も一定数の製造が続けられました。



M49/57 短機関銃
¥118,800~¥129,600 (税込)



M56 短機関銃
¥59,400~¥70,200 (税込)

M49短機関銃の後継として1956年に登場したのがM56短機関銃です。M49短機関銃では固定式の木製バット・ストックが装備されていたが、M56短機関銃では本体下方に折り畳み可能なフォールディング・ストックが装備されており、よりコンパクトに携行する事が可能となっています。ストックや樹脂製のバンドガード等にはドイツのMP40短機関銃の影響を強く受けていますが、コッキング・ハンドルは本体右側に配置されており、銃身下部に斜着ラグが追加されています。コッキング・ハンドルはマニュアル・セフトを兼用しており、ボルトが前進もしくは後退した位置で回転させる事により、ボルトを固定する事が可能です。作動方式はオープン・ボルトのプロローバック方式で、ロア・レシーバー側面に設けられたセレクター・ボタンでセミ・フル・オートマチック射撃の切り替えが可能です。セレクターは右方向へ押し込むとフル・オートマチック射撃、左方向へ押し込むとセミ・オートマチック射撃へと切り替わります。

この他、ユーゴスラビアではチェコスロバキアで開発されたVz.61スコピーオン短機関銃も軍や警察向けに採用され、当初チェコスロバキアから約3万挺を輸入して使用していたが、1984年からはユーゴスラビア国内でのライセンス生産も開始されました。ユーゴスラビアでライセンス生産されたモデルはM84短機関銃と呼ばれ、仕上げや刻印の違いを除けば、外観および内部機構等はオリジナルのチェコスロバキア製Vz.61スコピーオンと同等で、マガジンや独特な形状のホルスターも共用が可能です。尚、グリップは黒色樹脂製の物が取り付けられています。M84短機関銃は、1984年から1992年までユーゴスラビア社会主義連邦で製造が行われ各国に輸出された他、ユーゴスラビアの崩壊後もセルビアのツァスタバ・アームズで製造が続けられました。また、民間向けとしてセミ・オートマチック射撃に限定したM84AやM84Bといったバリエーションの製造も行われました。



M84 短機関銃
(No.31537)
¥86,400 (税込)

Crvena Zastava Automat M49/57

7,62mm Samopal 24

ユーゴスラビアで国産化された短機関銃で、1948年からソリス・バウラグ・グエヴァツ兵器廠で製造されました。外観はPPSh41短機関銃に類似しており、弾倉も互換性が付きますが、円筒形一体型の機関部やバンプ・グリップ、左側に開いたエジェクション・ポート等にはイタリアのサブマシンガンM1938系短機関銃の影響が見られます。また銃床下部にクロス・ボルト・セーフティが追加されているのも特徴です。さらにドイツのKar 98k小銃に類似したリブ型のフロント・サイトと照準力カーが装備されている他、U形のコッキング・ハンドルの形状など特徴の多い短機関銃です。



Czech Vz 24 Sub Machinegun
(No. T484330 ¥75,600(税別))
Vz 24 短機関銃

チェコスロバキアで開発されたSa Vz 23シリーズと呼ばれる短機関銃の一つで、テレスコーピング・ホルトと呼ばれる、銃身を包み込むようにホルトが配置された構造により、全長の短縮化が図られています。Sa Vz 23シリーズではトリガーを引く量に応じてセミフル・オート・マチック射撃の切り替えが可能となっています。Sa Vz 23シリーズの内、7.62mm弾仕様で固定ストックのモデルはVz 24、折り畳みストックのモデルはVz 26と呼ばれます。7.62mm弾仕様はマガジンがクリップごと若干前に傾いて装着されているのが外観上の特徴です。



コッキング・ハンドルはボルト頭位置及び後退位置でロックする事が可能です。



トリガー・後方にはセーフティ・レバーが設けられており、安全位置でトリガーがロックされます。



ハンドガード右側面にはマガジン・ローダーとして使用可能なレールが設けられています。



リア・サイトは100mから400mまでの4段階で回転させて調整する事が可能です。



レシーバーにはチェコ国営ヘルス・プロト工廠を示す「she」のコードが打刻されています。

写真の銃はすべて写真撮影です。

Direct Impingement Gas System Self-loading Rifles



Ljungman m/42B Self-loading Rifle
¥345,600 (税込)
リュンガン m/42B 自動小銃

1942年にスウェーデン軍制式となったAg m/42自動小銃の改良型です。銃身上部のガス・チューブから導いた発射ガスによりボルト・キャリアを直接後退させるという、当時としては斬新なガス・オペレーション・システムを採用しています。スウェーデンでは1960年代半ばにGew.3自動小銃の改良型であるAk 4自動小銃により更新されるまで使用されました。



ボルト・キャリア・カバーにはコッキング・ハンドルの他、カートリッジレックナー、クリップ・ガイドが設けられています。



レシーバー後端にはセーフティ・レバーが設けられています。



マガジン後方のマガジン・キャッチを押した後、前部の転がりを押し込みながらマガジンを取外します。



リア・サイトはダイヤル式で、矢印弾及びラウンド・ノーズ弾で弾道補正の切り替えが可能です。



Rasheed Self-loading Carbine
(No.8167)¥399,600 (税込)
ラシード 自動小銃

Ag m/42を基にエジプトで開発されたハキム自動小銃に改良を加えて7.62mm×39弾仕様とした半自動騎兵銃です。SKSカービンと同様の折り畳み式の銃剣を備えており、ハキム自動小銃で不評だったコッキング・ハンドルも通常の形状となり、本体右側面に移されました。ラシード自動小銃は1960年代に僅か8,000挺程度が生産されたに留まりました。



本体右側面に設けられたコッキング・ハンドル。



ボルト・キャリア・カバー前部にはクリップ・ガイドが設けられています。



マガジン・キャッチ・レバーはマガジン後方に設けられており、折り畳み式となっています。



ハンドガード上面にはガス・レギュレーターが設けられています。

Derivatives of Kalashnikov Rifle

ツァスタ・M70に始まる、ユーゴスラビアで独自に改良されたAKバリエーションの1つです。ソ連のAKS-74uのコンセプトに近いショート・カービン・モデルですが、使用弾薬は従来の7.62mm×39弾となっています。また、冷抑孔が3本設けられた長めのハンドガードや樹脂製のグリップ、下方折り畳み式のストックなど、外観的にもユーゴ独自のものとなっています。



Zastava M92 Assault Carbine
(No.116646)¥194,400 (税込)
ツァスタバ M92 自動小銃



セレクトーレバーにはボルトを後退位置で固定するための切り欠きが設けられています。



フラッシュ・ハイダーはマズル・ブラスターとして機能する、ガス拡散室を備えたタイプが装備されています。



ハンドガードは木製で、前面に冷抑孔が3本のやや長・形状となっています。



フロント及びリア・サイトには夜間用サイトが組み込まれています。



Vektor LM6 Assault Rifle
(No.103012)¥378,000 (税込)
ベクター LM6 自動小銃



フロント及びリア・サイトには折り畳み式の夜間用サイトが装備されています。



サイドフォールディング・ストックは南アフリカでの体験に合わせて短縮されています。



マガジンは傾斜表の背が付属しています。



銃口部には四又のフラッシュ・ハイダーが装備されています。

南アフリカ軍用としてガリル自動小銃をライセンス生産したRシリーズから派生した、民間市場向けのセミオート・モデルです。LM6の軍用バージョンであるR6はマイクロ・ガリルに相当するコンパクト・モデルです。親指で操作可能なセーフティ・レバーはガリルと同様の物となっていますが、ストックはガリルに比べて延長されています。

Beretta Fucile Automatico Leggero BM 59



Beretta BM59 Mark Ital
Self-loading Rifle
(No.4343685) V248.400 (税込)
ベレッタ BM59 Mark Ital 自動小銃



Beretta BM59 Mark Ital TA
Self-loading Rifle
(No.607776) V291.600 (税込)
ベレッタ BM59 Mark Ital TA 自動小銃



Mark Ital TA自動小銃では、本体右側にストックを折り込む事が可能です。



既存のM1ガーランドを改修した創体及びベレッタ社で製造された創体が存在します。



1959年にイタリア軍が制式採用した自動小銃で、M1 ガーランドの使用弾薬を7.62mm×51弾に変更し、フル・オートマチック射撃も可能としたモデルです。当初はイタリア軍に配備されていた既存のM1ガーランドを改修する形で生産がなされましたが、その後はベレッタ社による新規製造に移行しました。Mark Italはイタリア海軍や空軍が採用したモデルです。消火器及び制退器を兼ねた榴弾発射機が取り付けられているのが特徴で、それに伴いガス・カットオフ・スイッチ兼用のライフル・グレナード・サイトが追加されています。Mark Ital TA (Truppe Alpine) は山岳部隊用に設計されたモデルで、携行しやすいように金属製の折り畳み式ストックに変更され、それに伴いバレル・グリップが追加されているのが特徴です。BM59は1990年にベレッタAR70/90(自動小銃)に更新されるまでイタリア軍で使用された他、警察やカラビニエールの配備も行われました。また、本国イタリア以外にアルゼンチンやインドネシア、モロッコ、ナイジェリアといった国々でも採用されました。



ガス・カットオフ・スイッチ兼用の折り畳み可能なライフル・グレナード・サイトが装備されています。



BM59では通常のトリガーの他に、ウィンター・トリガーも装備されています。

Beretta Pistola Mitragliatrice 12

1961年にイタリア軍が制式採用した短機関銃です。作動方式はL型ボルトを用いたオープン・ボルト方式のシングル・ブローバックで、セミフル・オートマチックの切り替えが可能です。プレス加工と溶接による生産性に優れた設計がなされている他、前述のボルト・システムの採用により全長の短縮を図っています。また、引き金をロックするマニュアル・セーフティやグリップ・セーフティ、ボルトの前進を防止するコッキング・ハンドルのセーフティと3重の安全装置が組み込まれているのも特徴です。



Beretta M12 Sub Machinegun
V172.800 (税込)
ベレッタ M12 短機関銃



レシーバーを側面にはメーカー名や口径、シリアルNo.が打刻されています。



レシーバー後面には折り畳みストックのロック・ボタンが設けられています。



マニュアル・セーフティ及びセレクターはそれぞれ独立した円筒式のボタンとなっています。

Suomi Konepistooli M/31

Sterling Sub-Machine Gun 9-mm. MK 4 (L2A3)



Suomi M31 Sub Machinegun, Early Type
(No. 35091) Y162,000 (税込)
スオミ M31 短機関銃 (前期型)

Suomi M31 Sub Machinegun, Late Type
(No. 63068) Y129,600 (税込)
スオミ M31 短機関銃 (後期型)

ラハティL35拳銃やラハティ対戦車ライフルの設計者として有名なアイモ・ラハティによって設計された短機関銃で、スオミとはフィンランド語で「フィンランド」を意味します。本銃の前身であるKP/-26短機関銃は当時としては画期的な短機関銃でしたが、大きくカブたマガジンによる送弾不良等の問題が生じたため、新たにドラム・マガジンを採用し、セレクトーにも改良を加えて1931年に制式となりました。ドラム・マガジンの他、50連や20連の箱型マガジン等も使用されました。フィンランド軍は本銃で武装しノ連との冬戦争で多大な損害を与え、ソ連では本銃を参考にPPD1934/38やPPSh41等の短機関銃を設計しました。

大戦末期に試作品が完成したバセット短機関銃の発展型で、バセットMK2 (L2A1) 及びスターリング Mk3 (L2A2) を経て、1956年に最も生産数の多いL2A3が採用されました。高い信頼性とオープン・ボルト方式の短機関銃としては良好な命中精度を誇った他、ステン短機関銃の生産設備や工具類を流用できるよう設計されていました。英陸軍では制式小銃のL1A1がセミ・オートマチック射撃のみだった事もあり、近接戦闘用に大量配備され、40万挺以上が生産されました。また、英連邦でも多くが採用され、インドやカナダではライセンス生産が行われました。



マガジン・ハウジング上面にはシリアルNo.の他、「STERLING SMG 9MM MK4 (L2A3)」のモデル名が刻印が入っています。



バレル・ジャケット左側面には着剣ラグが設けられています。



独特の折り畳みシステムを持つ
フォールディング・ストックは、本体
下部に折り込む事が可能です。



Sterling MK4 (L2A3)
Sub Machinegun
(No. S21234) Y108,000 (税込)
スターリング MK4 (L2A3) 短機関銃



専用の21連ドラム・マガジンが付属します。



レシーバー後部にはバルトと独立したコッキング・ハンドルが装備されています。



リア・サイト右側面には「SUOMI Tikkakoski」の刻印が入っています。



リア・サイト右側面には「PATENT 1932」のハント刻印が入っています。

5,45 mm Karabinek wz. 1988 Tantal

ポーランドで1980年代後半に開発された5.45mm×39弾を使用する自動小銃で、AK-74自動小銃をベースに、3点バースト射撃機能を追加するなどポーランド独自の改良が加えられています。通常のAK系自動小銃ではセレクターに相当するレシーバー右側面のレバーはセーフティとしての機能のみとなり、セレクター・レバーはレシーバー左側面に独立して設けられています。ポーランドは民主化後の1996年に5.56mm NATO弾を使用するベリルを採用したため、本銃の生産期間は実質数年間と短くもなりました。本銃は生産時期によりハンドガードやグリップといった樹脂部の色が異なる他、マガジンの材質についても前期型では金属製でしたが、後期型では樹脂製に変更されています。



Polish Kbk wz. 1988 Tantal Assault Rifle,
Early Type
Sold
Kbk wz.1988 タンタル 自動小銃(前期型)



Polish Kbk wz. 1988 Tantal Assault Rifle,
Late Type
(No.752808 ¥162,000 (税込))
Kbk wz.1988 タンタル 自動小銃(後期型)



本体右側面のレバーはセーフティ・レバーとしてのみ機能します。



リア・サイトには低照度下での使用を想定し、発光カプセルが組み込まれています。



マズル・ブレーキにはライフ・グレネードを装着可能となっています。



折り畳み式のワイヤーストックは東ドイツのMPi AKS-74(NE)動小銃とは形状が異なります。



セレクター・レバーはセーフティのオン/オフに関係なく操作可能となっています。



マガジンは前期型・後期型ともに一般的なAK-74用の30連マガジンと互換性があります。

Ultimax 100 Mark III Section Assault Weapon, Cal. 5.56mm Mfg. by Chartered Industries of Singapore



CIS Ultimax 100 MK3
Light Machinegun
(No.106260 ¥594,000 (税込))
CIS Ultimax 100 MK3
軽機関銃



シンガポールのCIS (IBSTキネティクス) 社が設計・製造している5.56mm NATO弾を使用する分隊支援火器です。Ultimax 100軽機関銃の開発にはMini14やM16自動小銃の設計に関わった事で知られる米国の銃器設計者ジェームズ・サリバンも参加しています。Ultimax 100の本体重量は4.9kgと非常に軽量ですが、CIS社が独自開発したConstant Recoilと呼ばれるシステムにより、ボルトの反動全てをリコイル・スプリングが吸収する為、射手の負担が非常に少なくなっています。MK3はUltimax 100軽機関銃の中で最も多く運用されているバリエーションで、迅速な銃身交換が可能となっています。



本体左側面にはボルトと独立したコッキング・ハンドルが設けられています。



本体右側面にはマガジン・キッチ及びダスト・カバーの付いた排莖口が設けられています。



ガス・シリンダー前方には3段階で調整可能なガス・レギュレーターが装備されています。



アモ・パウチ及びクリーニング・キット一式が付属致します。

写真の銃はすべて写真撮影用銃です。

Singapore Rifle 88A, Cal. 5.56mm Mfg. by Chartered Industries of Singapore



CIS SR88A Self-loading Rifle
(No.600522) ¥291,600 (税込)
SR88A 自動小銃



ガス・シリンダー前部には3ポジションのガス・レギュレーターが装備されています。



通常モデルにはスケルトン型の固定ストックが標準装備されていますが、伸縮式ストックも装着可能です。



レシーバー左側に配置されたコッキング・ハンドルは折り畳み式となっています。



通常モデルの銃口部にはバード・ケージ・タイプのフラッシュハイダーが装備されています。



CIS SR88A Self-loading Carbine
(No.600338) ¥345,600 (税込)
SR88A カービン



カービン・モデルにはFN MINIMI パストルーバー・タイプに類似した伸縮式ストックが装備されています。



ストックのバット・プレート部には疑問用のロック・ボタンが設けられています。



カービン・タイプには11.6インチの短銃身が装備されています。



カービン・モデルはハンドガードの形状も通常モデルと異なります。

シンガポールのCIS社が開発し、SR80の後継として1988年に制式採用された自動小銃です。基本的な設計は前身のASAR80に類似していますが、作動方式がロング・ストローク・ピストンに変更されています。また、上下プレス製だったレシーバーについても、ロー・レシーバーが折り出しのアルミ製になりました。SR88はライフル・グレネードが使用可能で、フラッシュ・ハイダーもライフル・グレネードに対応した物が装備されています。スケルトン型の固定ストックが装備された通常モデルの他、伸縮式のストックを装備したカービン・モデルも存在します。

FN P90 Personal Defense Weapon

FN P90 Personal Defense Weapon
(No.FN9027736) ¥810,000(税込)
FN P90 短機関銃



ベルギーのFN社が開発したPDW (Personal Defense Weapon=個人防衛火器) と呼ばれる特殊なカテゴリの小火器で、ラッフル弾を小型化したような特殊な弾薬を使用し、低反動でありながら高い貫通力を実現しています。また、そのコンセプトから他の銃とは異なるコンパクトなデザインとなっています。特にマガジン・システムは特異で、本体上部に弾薬数50発のマガジンを装着し、排莖は本体下部から行われます。また、トリップやセクター・レバー等にも人間工学に基づいた設計がなされており、他に類を見ない特殊な形状となっています。



本体上部に取り付けられたドット・サイトのレティクルは外光を取り込む事で発光します。



本品のドット・サイトには、上部に緑色のドットを発光させるための集光レンズが設けられています。



本体下部には排莖口及び排莖口カバーが設けられています。



セクター・レバーは人差し指で操作が可能となっています。



マガジン及びマガジン・リリース・レバーは本体上部に設けられています。



ストック内部には機関部及びクリーニング・キットが収納されています。

写真の価格はすべて税別価格です。

Steyr Armee Universal Gewehr A3



Steyr AUG A3 Assault Rifle
No.3043255/V048.000 (R22)
ステアー AUG A3 自動小銃

オーストリアのステアー社が開発したブルパップ方式のアサルトライフルです。当時としては幾つもの斬新な試みが盛り込まれ、ポリマー部品の広範な使用や、最小限のモジュール交換によりカービン、分隊支援火器、短機関銃、狙撃仕様に変更可能である点など、早くからシステム・ウェポンとしてのコンセプトを確立した銃とも言えます。A3はAUGをさらに近代化した最新モデルで、銃身長を短縮した他、アップバー・レシーバーにピカティニー・レール・システムが追加されており、各種光学機器を搭載する事が可能となっています。



本モデルでは通常のマガジン・リリース・レバーに加えて、レシーバー側面にもマガジン・リリース・ボタンが設けられています。



付属のスコープはマウント部分のスクリューを緩める事により簡単に着脱が可能です。



スコープのレティクルは円形に十字線を組み合わせたデザインとなっています。



ピカティニー・レール上面にはバックアップ用のフロント・サイト及びビザ・サイトが設けられています。



銃身基部側面にはガス・レシープラーが設けられています。



マガジン・ハウジング前方のティクダウン・ボタンを右方に押し出す事でレシーバーを前後に分解する事が可能です。

Heckler & Koch MR223A1 Self-loading Rifle



コッキング・ハンドルのロック・レバーは左右で付け替え可能な構造となっています。(無可動状態では左右の交換は出来ません)。



セーフティ・レバーは左右両面に設けられたアンビタイプで、セーフティ表示は弾丸のイラストとなっています。



レール・マウント上にはバックアップ用のフロント・サイト及びリア・サイトを装着可能です。



伸縮式のバットストックは6つのポジションでロックする事が可能です。



バット・プレートは90度回転させる事により逆の向きが可能で、内部には八角レンチが収納されています。



ボルト・キャリア表面にはHK MRの刻印が入っています。



HK MR223A1 Self-loading Rifle
HK MR223A1 自動小銃



HK MR223自動小銃は、HK416自動小銃をセミオートマチック射撃のみとした民間市場向けモデルです。ベースとなったHK416は米陸軍がHK社にM4カービンの改修を依頼して開発されたモデルで、作動の確実性や耐久性を向上させる為、M4カービンのダイレクト・インピンジメント式からショートストローク・ピストン式へと作動機構が変更されています。また、ピカティニー・レール・システムが標準装備されている他、マガジンがスチール製となっています。尚、MR223はヨーロッパ及びカナダ市場向けモデルの名称で、アメリカ市場向けモデルはMR556と呼ばれています。

B+T AG, Thun, Switzerland The Swiss Quality Firearms

B&T MP9-N Sub Machinegun, Cal. 9mm Para
B&T MP9-N 短機関銃
エムポイント Micro TL フットサイト付 & QD サイレncer付

B&T

B&T APC556 PDW
Assault Rifle,
Cal. 5.56mm×45

B&T APC556 PDW 自動小銃
エムポイント Micro TL フットサイト付 & Rotex RA サイレncer付
短機関銃

B&T APC556 Assault Rifle,
Cal. 5.56mm×45

B&T APC556 PDW 自動小銃
エムポイント Micro TL フットサイト付
短機関銃

B&T APC9 SD
Sub Machinegun,
Cal. 9mm Para

B&T APC9 SD 短機関銃
エムポイント Micro TL フットサイト付、新式握りストックモデル

B&T MP9-N Sub Machinegun,
Cal. 9mm Para
B&T MP9-N 短機関銃
B&T MP9-N ホルスター付

ストックは用途に応じて交換が可能なシステムとなっています。

B&T社はスイス・トゥーンの銃器メーカーで、創業当初は主にサイレンサー等を手掛けていましたが、近年ではその技術力を生かして軍・特殊部隊向けに独自開発した小火器の生産もしています。B&T MP9短機関銃は、元々オーストリアのステアー社が生産していたTMP短機関銃の製造権をB&T社が取得し、直ちに改良を加えたコンパクトな短機関銃です。MP9-Nはその最新モデルで、セーフティ及びセクターがレバー式に変更されているのが特徴です。APC (Advanced Police Carbine) はB&T社が独自に開発した軍・法執行機関向けのシリーズで、短機関銃から自動小銃まで使用弾薬により幾つかのパリエーションが存在します。9mm×19弾を使用するAPC9短機関銃は、同じ弾薬を使用するMP5短機関銃よりも軽量かつコンパクトなデザインとなっており、オーストリアの特殊部隊コブラ等により採用されています。また、APC9では本体内部に油圧バンプアップを内蔵する事により、体感反動を軽減する事に成功しています。APC9には通常モデルの他、APC9 SDと呼ばれるパリエーションが存在し、内蔵されたサイレンサーによって発射音が127dBにまで抑えられています。APC556はAPCシリーズの内、5.56mm×45弾を使用する自動小銃で、APC9と同様にレール・システムが装備されている他、ハンマー・フォワード・セーフティが組み込まれているのが特徴です。また、コッキング・ハンドルやセクター・ボルト・リリースはいずれもアンビ・タイプとなっています。APC556自動小銃にはAPC556 PDWと呼ばれる銃身長を280mmまで短縮したコンパクト・モデルが存在し、NATO加盟国の幾つかの軍やヨーロッパの警察機関等に採用されています。

B&T APC9 Sub Machinegun, Cal. 9mm Para
B&T APC9 短機関銃



ドイツ HK33 A2 自動小銃
German HK33 A2 Self-loading Rifle



ロシア AKS-47 自動小銃 II 型
Russian AKS-47 Assault Rifle Type II



第二次世界大戦中にトンプソンMIA1の供給不足を解消する為、ハーリントン&リチャードソン社が米海兵隊向けに開発した軽量の短機関銃です。



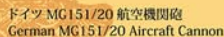
1938年にフランス軍制式となった短機関銃で、銃身軸に対して機関部が傾斜したデザインとなっている等、奇抜なアイデアが盛り込まれています。



元々潜水士向けに製造された短機関銃で、水中から取り出した直後でも射撃が可能でしたが、メーカーの倒産により生産数は少数に留まりました。



1941年に英国海軍制式となった短機関銃で、ドイツのMP28短機関銃の設計を流用して開発されましたが、ストックや射撃装置等に違いが見られます。



モーゼル社で開発された航空機関銃で、当初は口径が15mmでしたが、1941年以降は口径を20mmへと再設計したモデルが製造されるようになりました。

Revolving Pistols of the U.S. Civil War 南北戦争の回転式拳銃

南北戦争中は兵器の発展が著しい4年間でしたが、拳銃においてはSmith & Wesson社が録打式金属薬莖のバテントを独占しており、戦前からあった管打式回転拳銃が主流となりました。南部諸州には主要な銃器メーカーはなく、南軍は開戦後にはヨーロッパからの輸入拳銃に頼り、ルフォーショー式のカニ目打式拳銃を多数使用しました。



Colt M1849 Pocket
Percussion Revolver, 6in. Barrel
(Serial No. 253677) ¥2,484,000 (税込) [4917]
コルト M1849
ポケット・リボルバー 6インチ・モデル
(登録証付古式銃)



US 21st Volunteer Infantry, B Company Canteen
¥32,400 (税込) [7558]
US 第201 義勇歩兵隊 B中隊 水筒
南北戦争後からインディアン戦争で使用されたモデルです。



Savage M1861 Navy Percussion Revolver
(Serial No. 1027) ¥3,024,000 (税込) [3800]
サベージ M1861
ネイビー・リボルバー
(登録証付古式銃)



Starr M1858
Double Action Percussion Revolver
(Serial No. 21818) ¥3,024,000 (税込) [2591]
スター M1858
ダブル・アクション・リボルバー
(登録証付古式銃)

Whitney Pocket Model Percussion Revolver, 2nd Model, 3rd Type
(Serial No. 14802) ¥3,024,000 (税込) [5203]
ホイットニー ポケット・リボルバー 2ndモデル 3rdタイプ (登録証付古式銃)



Rogers & Spencer Army Model
Percussion Revolver
(Serial No. 329) ¥3,780,000 (税込) [3463]
ロジャース & スペンサー アーミー・モデル リボルバー (登録証付古式銃)



Manhattan Bar Hammer Pepperbox
(Serial No. 527) ¥1,404,000 (税込) [4500]
マンハッタン バールハンマー ペッパーボックス
(登録証付古式銃)



Colt M1860 Army Shoulder Stock
¥540,000 (税込) [8042]
コルト M1860 アーミー ショルダー・ストック



Allen & Thurber Bar Hammer Pepperbox
(Serial No. 342) ¥1,080,000 (税込) [4757]
アレン & サーバー バールハンマー ペッパーボックス
(登録証付古式銃)



Remington New Model Army Revolver
(Serial No. 52453) ¥2,484,000 (税込) [5711]
レミントン ニュー・モデル アーミー リボルバー
(登録証付古式銃)



Lefauchaux-Francotte 6 shot Pinfire Revolver
(Serial No. 58912) ¥1,620,000 (税込) [3755]
ルフォーショー・フランコット 6連発 リボルバー
(登録証付古式銃)



Beaumont-Adams M1856
Double Action Revolver
¥1,206,000 (税込) [3700]
ボーモント・アダムス M1856 ダブル・アクション・リボルバー
(登録証付古式銃)

US Remington New Model Army Percussion Revolver

PATENTED SEPT. 14, 1858
E. REMINGTON & SONS, ILION, NEW YORK, U.S.A.
NEW MODEL
銃身刻印が3行になっている後期生産型です。

シリアルNo.52453から1864年
1月製であることが判ります。

E. Remington and Sons
社で製造されたシングル・アクションのパーカッション・リボルバーで、コルトM1860等と共に南北戦争では主力拳銃として使用されました。スリッド・フレームを採用しており、耐久性や精度が同

時代のコルト社製リボルバーに比べて優れていた。運搬時にはシリンドー上のセイフティ・スロットと呼ばれる溝にハンマーを下ろしておく事により、弾薬を装填した状態でも安全に搬行する事が出来ました。銃身下のローディング・レバーを下方に回転させる事により、シリンドー輪を前方にスライドさせてシリンドーを取り外し、装填済みの予備シリンドーと迅速に交換する事が可能でした。

米国五連発管打式拳銃
レムントン「ニューモデル」
アーミーリボルバー
US Remington New Model
Army Percussion Revolver
Cal. .44in. 8in. Barrel,
Circa 1864
(銃身刀剣照査録証付古式銃
(復刻本箱も復刻付風品付)
(Serial No 52453)
¥2,484,000(税込) [5571]

US Whitney Pocket Model Revolver, 2nd Model, 3rd Type

本品は南北戦争中に製造されたホイットニー ポケットリボルバー後期生産品の中でもコルト型のローディング・レバー・ラッチに変更された品で、シリアル No.が12,000番以降の2ndモデル、3rdタイプと呼ばれる品です。3rdタイプではライフリングが7条でしたが、最終モデルである4thタイプではライフリングが7条から5条に減りました。本品は6インチのオクタゴン・バレルで31口徑の5連発モデルです。ホイットニー ポケットリボルバーの1stモデルではシリンドーを外すのに時間がかかる欠点がありましたが、2ndモデルになってからはその問題点が解消され、製造数は少ないものの南北戦争では非常にポピュラーなリボルバーになりました。

米国五連発管打式拳銃
ホイットニー ポケットリボルバー、2ndモデル、3rdタイプ
US Whitney Pocket Model Revolver, 2nd Model, 3rd Type
Cal. 31in. 6in. Barrel, Circa 1860
(銃身刀剣照査録証付古式銃)
(Serial No 14802) ¥3,024,000(税込) [5203]

E. WHITNEY N. HAVEN

Carbines of the U.S. Civil War

南北戦争の騎兵銃 -Part 1-

1861年に勃発したアメリカの南北戦争(1861-65年)は、一つの戦争の中で最も兵器の発展が見られた戦いであったと言われています。特にその戦いの要であった騎兵装備の進歩には目を見張るものがありました。これは第二次世界大戦における花形兵科であった戦車兵や戦車、開戦時と終戦時では大きな性能差が生じた車にも通じます。

南北戦争当時の騎兵隊にはその用兵上の特殊性から優先的に最新式の兵器が支給されており、戦争後期になると後装式の博覧会の様に各種の特殊な後装式システムを持つ騎兵銃が使用されました。本項では南北の両騎兵隊によって使用された騎兵銃(カービン)について、何回かに分けてお送りします。

ローレンツ M1842 騎兵銃

南北戦争の主要小銃の中であまり知られていないのが、オーストリア帝国がアメリカ(南部連邦)に輸出したローレンツ M1842 小銃です。一般的には北軍がスプリングフィールド M1861 歩兵銃を、南軍がエンフィールド P1853 歩兵銃を主要小銃として使用した事は知られていますが、意外にも知名度のそれほど高くないローレンツ M1842 小銃が南部連邦軍で多数使用されていました。ローレンツ M1842 小銃は前装式で銃身にライフルリングのあるライフル・マスケットです。19世紀前半頃の欧州列強の標準的な小銃でしたが、1854年にオーストリア帝国が M1854 小銃を主力小銃としてからはやや時代遅れになっていました。ローレンツ M1842 小銃には歩兵銃(全長約132cm)と騎兵銃(全長約76cm)の二種類があり、南軍騎兵隊には短い騎兵銃が支給されました。



ローレンツ M1842 騎兵銃(登録証付古式銃)
¥540,000(税込) [3509]

ホール・ノース M1843 騎兵銃

騎兵隊は各種兵科の中で最初に後装式小銃を支給された兵科で、南北戦争開戦時には配備数こそ少なかったものの、開発してから既に20年近く経っていたホール・ノース M1843 騎兵銃が一部の騎兵隊で使用されていました。本銃は古参兵の如く10年以上も使用され続けられており、その長所や短所が熟知されていた為、開発年代は古いものの有効活用されていました。戦争末期になると軍によるトライアルも十分なまま導入される新型騎兵銃も多く、実際に騎兵隊に配備してから欠点が見える事例も多くなりました。



ホール・ノース M1843 騎兵銃(無可動古式銃)
¥1,080,000(税込) [5289]

シャープス M1852 騎兵銃

1840年代に開発された殆どの騎兵銃が戦後姿を消したのに対して、シャープス小銃は19世紀後半までの半世紀の間は騎兵隊のみならず、一般歩兵用から民間用大口徑狩猟用小銃(バッファロー・ライフルとして有名)に至るまで各種のバリエーションが使用されました。単発であり

ながらその耐久性と後部から容易に装填可能な操作性に優れた後装方式により、南北戦争時の最も成功した騎兵銃として先ず最初に名前が挙げられます。初期型はブリーチが斜めに取り付けられていたことから Slant Breech (斜めブリーチ) と呼ばれ、南北戦争ではリネン薬莖を使用する管打式のモデルが主に使用されました。



シャープス M1852 騎兵銃(スラント・ブリーチ、無可動古式銃)
¥1,080,000(税込) [4559]

シャープス M1863 騎兵銃

その後、斜めブリーチから垂直ブリーチに代わり、より耐久性が高くなったのがシャープス M1863 騎兵銃です。M1863 騎兵銃の多くの個体では不評だったローレンス・パテントのベレット・プライマー・システムは取り外されていました。



シャープス M1863 騎兵銃(登録証付古式銃)
¥2,700,000(税込) [4438]

シャープス M1863 メタリック・コンバージョン 騎兵銃

戦争後期には金属薬莖を使用するリム・ファイアのシャープス騎兵銃も出現しましたが極少数に留まりました。南北戦争で使用された M1863 騎兵銃の多くは、戦後に管打式から M1866 トラップドア小銃用に開発されたセンター・ファイアの .50-70 Government 弾を使用できる様に改造されました。これらはシャープス M1863 メタリック・コンバージョン 騎兵銃と呼ばれました。当初から金属薬莖用として生産されたモデルはフル・ロードの .50-70 弾を使用しましたが、コンバージョン・モデルは .45 グレインの減装弾を使用したと言われています。初期型の Slant Breech (斜めブリーチ) はセンター・ファイアへの改造が強度的に難しかった為、管打式のまま南北戦争終結と共に姿を消し、現在では希少価値の高い品となっています。



シャープス M1863 メタリック・コンバージョン 騎兵銃(無可動古式銃)
¥864,000(税込) [3018]

スタール M1858 騎兵銃

シャープス騎兵銃と同じく機関部下部に設けられたレバーによって薬室が開放される単発後装式の騎兵銃としてはスタール 騎兵銃があります。スタール社は騎兵銃ではあまり多くのシェアを占める事は有りませんでした。軍用リボルバーの生産数はレミントンやコルトに次いで三番目に多く、当時の著名な銃器メーカーの一つでした。スタール 騎兵銃の撃発機構もシャープス騎兵銃と同じく当初は管打式でしたが、その後リム・ファイアとなり、最終的にセンター・ファイアへと進化を遂げました。管打式のスタール 騎兵銃は Model 1858 と呼ばれた他、金属薬莖式は M1864 と呼ばれました。



スタール M1858 騎兵銃(登録証付古式銃)
¥3,240,000(税込) [3930]

スタール M1865 騎兵銃

スタール M1865 騎兵銃はリム・ファイアとセンター・ファイアはブリーチ・ブロックのみが異なるだけで、リム・ファイアとセンター・ファイアを区別する個別のモデル名は設定されませんでした。日本国内ではリム・ファイア式のみが古式銃の登録

写真の銃は無可動銃もしくは教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。

対象となっています。詳しくは本ガゼット P.60 のスタール 騎兵銃の項目をご参照ください。スタール 騎兵銃はシャープスやスペンサー以外の後装式騎兵銃の中で成功を取った数少ない一挺です。



スタール M1865 騎兵銃 (登録証付古式銃)
¥3,240,000(税込)【3504】

バーンサイド M1864 騎兵銃

北軍の将軍でもあったバーンサイド准将が開発したバーンサイド M1864 騎兵銃は、北軍の騎兵隊に愛用された騎兵銃です。後装式ではありますが、ブリーチ・ブロックの前方が機関部下部のレバーを引き下げる事により持ち上げる特殊な構造を持っています。その為、金属製のコーン型弾薬をブリーチ・ブロックの先端から装弾する仕組みになっています。バーンサイド 騎兵銃の多くは南北戦争後期で使用された他、特殊な構造の割には操作が容易な為、その後も末に日本国内にも一定数が輸入されて使用されました。日本国内に登録証付古式銃として残る品の多くは米国と日本の大きな内戦で実際に使用された可能性が高い個体です。



バーンサイド M1864 騎兵銃 (登録証付古式銃)
¥2,700,000(税込)【4604】

メル M1863 騎兵銃

一見普通の前装式打に見えるメル 騎兵銃は機関部後部のレバーを持ち上げる事により薬室が開く特殊な騎兵銃で、歩兵銃モデルは生産されず、騎兵隊用に特化した珍しい品です。機関部上部のブリーチ・レバーのロックを解除し、レバーを上部後方に大きく起こして装填する特殊な構造となっています。ブリーチ・レバーを完全に解放すると、ブリーチから弾薬を押し込むブランジャーも連動して後退し、装填が可能になります。装填後、再度ブリーチ・レバーを前方に戻すとブランジャーが前方に移動して弾薬がチャンバーに送り込まれます。メル 騎兵銃を製造した Merrill Patent Fire Arms Manufacturing Company は他の中小銃器メーカーと同様に南北戦争終結後の 1866 年に倒産しており、メル 騎兵銃の後継モデルが南北戦争後に作られる事は有りませんでした。



メル M1863 騎兵銃 (無可動古式銃)
¥972,000(税込)【3290】

ジョスリン M1864 騎兵銃

多くの単発後装式騎兵銃は銃身後部の上から何らかの方法でブリーチを開放し装弾する構造ですが、ジョスリン 騎兵銃は銃身の後端が直接開く特殊な構造になっています。最も単純で合理的な後装式システムに思われますが、銃身後端が開放できる構造は発射ガスの吹き戻しが最も強く影響する為、強度的に問題が多く実用化はされませんでした。シャープス 小銃では銃身後方の頑強なブリーチ・ブロックが、発射ガスの吹き戻しを抑える仕組みになっていますが、ジョスリン 騎兵銃にはブリーチ・ブロックに相当するものが無く、ヒンジにより固定された大型の回転式カバーによって吹き戻しを防ぐ構造となっており、これが特徴的な

外観を形成しています。しかしながら、やはり強度的な問題があったのか、この回転式カバーには改良が加えられ、幾つかのバリエーションが存在します。試験段階で実際に投入された後装式騎兵銃は大半が南北戦争終結と共に姿を消しました。投入された騎兵銃では銃身の長い歩兵銃は存在せず、騎兵銃のみが製造されたものが殆どでした。しかしながらジョスリン 騎兵銃は、スペンサーやシャープスのように大成功を取った騎兵銃以外としては珍しく歩兵銃も生産されました。



ジョスリン M1864 騎兵銃 (無可動古式銃)
¥756,000(税込)【5288】

スペンサー M1860 騎兵銃

スペンサー 連発銃はクリストファー・スペンサーが開発した後装内火式の 7 連発レバー・アクションライフル/カービンで 1860 年から 1869 年の間に生産されました。トリガー・ガードを兼ねたレバーを下方向に引く事によってブリーチ・ブロックが降下し、バット・ストック内の管状弾倉 (Tube Magazine) から弾薬を薬室に送り込むと同時に空焚炎を上部から排気します。スペンサー 連発銃は天成功を取ったばかりで、短い生産期間とは対照的に多くのバリエーションがあります。M1860 騎兵銃のほぼ全てが北軍によって使用されました。シャープスのように戦前から生産されていた騎兵銃は開戦前に南部諸州でも販売されており、南北戦争が勃発してからも南軍で使用されましたが、北部(マサチューセッツ州)に所在していたスペンサー社の製品は、南北戦争の勃発後に量産が始まった事もあり、北軍騎兵隊にのみ支給されました。



スペンサー M1860 騎兵銃 (無可動古式銃)
¥756,000(税込)【4554】

スペンサー M1863 騎兵銃 (米国南部連邦軍用)

スペンサー M1860 騎兵銃の一部は捕獲品として南軍によっても使用されましたが、工業力の劣る南部連邦では銃器メーカーが独自のモデルを設計/生産するのは難しかった事から、捕獲品を模倣した品も生産されました。弊社在庫品のスペンサー M1863 騎兵銃は南部連邦で生産されたと思われる珍しい品で米国では「Confederate Spencer」と呼ばれる珍重されています。



スペンサー M1863 騎兵銃 (米国南部連邦軍用、登録証付古式銃)
¥1,944,000(税込)【3281】

スペンサー M1865 騎兵銃

M1860 騎兵銃は 22 インチ・バレルに 56-56in 口径でしたが、南北戦争終結の年に改良された M1865 騎兵銃は 2 インチ銃身が短い 20 インチ・バレルの 50in 口径となりました。スペンサー 騎兵銃とシャープス 騎兵銃はスプリングフィールド M1873 騎兵銃が正式となるまで合衆国騎兵隊の主要火器となっていました。M1865 騎兵銃は南北戦争終結年 (1865 年) に生産が始まった為、南北戦争には実質的には間に合いませんでした。



スペンサー M1865 騎兵銃 (登録証付古式銃)
¥3,240,000(税込)【3872】

写真の銃は無可動実銃もしくは教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。

US Winchester M1866 Carbine, 2nd Model

米国十一連発緑打式騎兵銃
ウィンチェスター M1866 イエローボーイ カービン 2nd モデル
US Winchester M1866 Carbine, 2nd Model
Cal. 10.7mm, Overall Length 1,002mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No.18332) ¥6,480,000(税込) [5207]

ヘンリーライフルの欠点であった弾倉を改良し、フレーム右側面のローディング・ゲートから装填可能とした他、ハンド・ガードの追加等の改良を施したレバー・アクション・ライフルです。カービン(騎兵銃)モデルは1866年から98年にかけて1st ~ 4thの4モデルが生産されました。本品は2nd Modelで、シリアルNo.はバット・ストックを切り外したローアー・タンク側面に刻印されており、これは製造番号が19,000番台以前の品に見られる特徴です。本銃は幕末の日本にも少数が輸入されましたが、当時最新型で非常に高価であったため、他の後装銃に比べて通かに現存数が少ない品です。本品は元々銃身上部に刻印が入っていない事から、献上品として生産された個体であると考えられます。



US Starr M1865 Carbine



ブリーチはハーフ・コックの状態
で閉鎖が可能です。

米国単発緑打式騎兵銃
スタール M1865 カービン
US Starr M1865 Carbine
Cal. 13mm,
Overall Length 960mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No.37651)
¥2,160,000(税込) [5208]

1858年にエンベンザー スタール (Ebenzer Starr) が考案し、南北戦争で使用された単発の後装式騎兵銃です。製造はニューヨーク州ヨンカースのスタール・アームズ・カンパニー (Starr Arms Company) によって行われました。スタール・アームズ社は南北戦争中には5番目に大きな騎兵銃の納入元でした。本品の機関部後部上方には、「STARR'S PATENT, SEPT. 14TH 1858」の刻印が入っている他、サイド・プレートや銃身上面にも「STARR ARMS CO. YONKERS, N.Y.」の刻印が入っています。スタールカービンは当初紙薬英またはリネン薬英を使用する管打式として製造されましたが、後期型のM1865カービンでは使用弾薬がリムファイア方式の金属製薬英に変更されました。

薬室左側面 S.T.B

機関部後部上方
STARR'S PATENT,
SEPT. 14TH 1858

銃身上面
STARR ARMS CO. YONKERS, N.Y.

STARR ARMS CO.
YONKERS, N.Y.

サイドプレート
STARR ARMS CO. YONKERS, N.Y.

ストック基部 左側面 ESA Cartouche

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が貼付された可動する実物の古式銃です。(偽可動実銃ではありません)

US Starr Breech Loading Carbines

米国単発緑打式騎兵銃
スタール M1865 カービン
US Starr M1865 Carbine
Cal. 14mm, Circa 1865
Overall Length 957mm
(銃剣刺剣登録証付古式銃)
(Serial No.37429)
¥3,240,000(税込) [3504]



米国単発管打式騎兵銃
スタール M1858 カービン
US Starr M1858 Percussion Carbine
Cal. 14mm, Circa 1861-64
Overall Length 965mm
(銃剣刺剣登録証付古式銃)
(Serial No.10235)
¥3,240,000(税込) [3930]



米国単発緑打式騎兵銃
スタール M1865 カービン
US Starr M1865 Carbine
Cal. 14mm, Circa 1865
Overall Length 965mm
(銃剣刺剣登録証付古式銃)
(Serial No.39237)
¥2,160,000(税込) [4525]

スタール・カービンは、シャープス・カービンと同様に機関部下部にトリガー・ガードを兼ねたアンダー・レバーが装備されていますが、ブリーチ・ブロックが前部と後部の二つの部品に分かれているのが特徴です。スタール・カービンは1858年の陸軍造兵廠での性能試験において、ガス漏れの欠点はあるものの不発が少なく、精度面でも当時の平均を上回っていると評価されました。その後、ガス・シール部分に改良を施されたスタール・カービンは1858年にM1858としてアメリカ陸軍によって制式採用され、1861年から1864年の間に約20,000挺が北軍に納入されました。また、1865年には金属製薬莖を使用するM1865が北軍に3000挺納入され、その後さらに2000挺の追加発注が行われましたが、以降は追加注文がないまま南北戦争が終結しました。スタール・カービンは南北戦争終結と同時に米政府からの発注が途絶え、南北戦争終結二年後の1867年にはスタール・アームズ社も倒産してしまっただけで、現存数がシャープス・カービンやスペンサー・カービンに比べ遥かに少なくなっています。

紙薬莖またはリネン薬莖を使用する管打式のスタール M1858 カービンでは、前部ブリーチ・ブロックの上面にパーカッション・ニップルが装備されており、ブリーチ・ブロック前部まで火穴が通っています。薬室後端のリング状の部分がブリーチ・ブロック前面の円形の溝に嵌まり込み、発射ガスの漏出を防止する形状になっています。



リムファイア方式の金属製薬莖である50.56スペンサー弾を使用するスタール M1865 カービンでは、ブリーチ・ブロック前面のやや右寄りの位置に撃針が設けられています。ブリーチ・ブロック前面が平坦な形状となった他、薬室後端部分がM1858カービンに比べて強化されています。また、使用済みの薬莖を引き抜くのにエキストラクターが新たに追加されている他、撃発方式の変更に伴いハンマーの形状も変更されています。M1858カービンではハンドガードを固定するバンドに真鍮が用いられていましたが、M1865カービンでは鉄製に変更されています。



(参考画像) スタール・カービンには、リムファイア方式のM1865をセンターファイア方式に改修したコンバージョン・タイプも存在します。基本的な構造はリムファイアと同様ですが、撃針の位置がブリーチ・ブロック前面の中心へと移されています。



写真の図は教育委員会発行の「銃剣刺剣登録証」に付いた可動する実物の古式銃です。(機可動表記ではありません)

Spencer Repeating Rifles

スペンサー連発銃

スペンサー連発銃(Spencer Repeating Rifle)はクリストファー・スペンサー(Christopher Miner Spencer, 1833年6月20日-1922年1月14日)が開発した後装内火式の7連発レバー・アクションライフルです。南北戦争中に登場した小火器の中で最も新しい技術と性能を兼ね備えた米国防史に名を残す名銃で、1860年から1869年の間に生産されました。クリストファー・スペンサーは元コロムビア社の社員で、そこで銃器の設計技術を学び、26歳の若さでスペンサー連発機構の特許を取得しています。

レバーを下方に引くことによってブリーチが下がり、バット・ストック内の管状弾倉(Tube Magazine)から弾薬を薬室に送り込むと同時に空薬莖を上部から排棄します。当時スペンサー銃に対抗できる連発銃はヘンリーライフルのみでしたが、ヘンリー弾は.44RFという拳銃弾程度の威力しかなく、軍用としてのストップ・パワーではスペンサーがヘンリーに勝っていました。しかしながらスペンサーが7連発に対し13連発という装弾数の多さと、同じレバー操作式でありながらハンマーも同時に起すことのできるヘンリーライフルの方に性能的には軍配がかりました。スペンサー銃はレバー操作とは別に旧式小銃と同じサイド・ロックの側面に付いたハンマーを親指で起す必要がありました。



スペンサー M1865 騎兵銃のレバーを引いてブリーチ・ブロックが下がった状態の機関部



スペンサー M1865 騎兵銃のバット・ストック内の管状弾倉(Tube Magazine)

スペンサー M1860 連発銃

スペンサー銃の最初のモデルはM1860で南北戦争(1861年-1865年)において主に北軍によって使用されました。M1860 歩兵銃は騎兵銃に先駆けて1862年のSharpsburgの戦いで初めて支給されました。なおM1860 騎兵銃の銃身長は22インチで、歩兵銃は30インチでした。



スペンサー M1860 騎兵銃 (無可動式銃) ¥756,000(税込) [4554]

弾薬は.52口径のスペンサー銃用に1860年に開発された.56-56in Spencer弾で、一般的にはスペンサー銃専用のイメージがありますが、バラッド騎兵銃(Ballard Carbine)やジョスリン騎兵銃(Joslyn Carbine)も同じ弾薬を使用しました。この当時の弾薬表示方法は現在とは異なり、.56-56inの前の数字は薬莖後部(バット)の直前部分の直径値である.56インチ(14.2mm)、後の数字は薬莖前部直径値である.56インチ(14.2mm)を示していました。弾丸直径は.54から.555インチで、薬莖の長さは.875インチ(22.2mm)でしたが、後に.50口径の.56-52inまたは.56-50in(この二つの弾薬は互換性あり)に変更されました。上記の弾薬表示から、

.56-52inと.56-50inは薬莖前部と後部の径が異なる僅かにテーパのある薬莖となっていました。

スペンサー弾は南北戦争の主要小銃であった.58口径施条前装小銃(Rifled musket)とほぼ同じ威力がありましたが、1866年に米軍標準軍用小銃弾となったスプリングフィールドトラップ・ドアライフル用の.50.70 Government弾(Springfield M1866用)に比べ威力が少なかった事が、南北戦争後スペンサー銃が軍用として使用されなかった要因の一つでした。反対にスペンサー銃とよく比較されるシャープス銃が単発ながら口径を変更しつつ米軍用として残ったのは強力な弾薬を使用できるように改造できたからだと言われています。軍内における南北戦争中の最も大きな課題の一つは弾薬の供給で、特定の弾薬しか使用できない金属薬莖弾は大きなマイナス点になっていました。戦地でも装薬があり弾頭を鋳造すれば使用できる前装式銃の方が弾薬の供給の問題もありませんでした。



Blakeslee Cartridge Box



スペンサー .56-56in. Spencer弾

スペンサー銃を装備した兵はBlakeslee Cartridge Boxと呼ばれる弾薬入れに7発の予備弾を収納した弾薬筒を6本から13本入れて携行していました。南北戦争中の最大の激戦地Gettysburgの戦いで当時北軍騎兵旅団司令官であったカスター將軍率いる第5ミシガ騎兵隊からスペンサー銃を捕獲した南軍の兵士が「load in the morning and fire all day (スペンサー連発銃は)朝装弾したら一日中射撃する」と言った言葉が後世に伝わるほど、当時は装弾に時間を必要としない連発銃のイメージがありました。

南北戦争中だけでも10万挺以上のスペンサー銃が製造され、戦後も生産が続けられました。合衆国政府からの注文が途絶えた上に戦後の余剰火器が民間に溢れたため1868年にスペンサー社(Spencer Repeating Rifle Company)は倒産しました。1869年にはスペンサー社の資産はウィンチェスター社のオリバー・ウィンチェスター(Oliver Fisher Winchester, サムエル・ウィンチェスターの息子)に20万ドルで売却されました。戦後多くのスペンサー銃は退役軍人に払い下げられて米国西部で使用され、1920年頃までスペンサー弾は製造が続けられました。また合衆国政府造兵廠が戦後供出したスペンサー銃の多くは1870年に勃発した普仏戦争(プロシア・フランス戦争)や南米のブラグアイに対してアルゼンチン・ブラジル・ウルグアイの三国同盟軍との間で行なわれた南米史上最も大きな三国同盟戦争(1864年-1870年)時にブラジルに輸出され相当数が使用されました。日本でも幕末に薩摩藩を始め佐賀藩や黒羽藩が輸入して戊辰戦争(1868年-69年)において使用しました。日本はフランス、ブラジルに次いで大量にスペンサー銃を使用した国です(日本におけるスペンサー銃は下記を参考)

戦後軍用銃として採用されなかった大きな要因としては、スペンサー弾が軍用として威力が弱かった事が考えられますが、他に当時の標準的な前装銃と比べ10倍近い発射速度が兵による弾薬の無駄使いと軍首脳部において弾薬の補給の問題が重要視されたのが原因とも、言われています。南北戦争開戦時にはすでにスペンサー銃は開発されていたが、新型弾を大量に消費する新参であるスペンサー社の小銃を採用することは、当時の合衆国陸軍首脳部には抵抗がありました。ヘンリーライフルやウィンチェスター社のエイローボーイが軍用として採用されなかったのも弾薬の威力を含め同じ理由とされています。1863年当時30歳であったクリストファー・スペンサーがエイブラハム・リンカーン大統領に直談判を行い、大統領を

写真は銃は無可動式銃もしくは教育委員会発行の「銃刀法別開登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。

始め、陸軍省長官たちの前で試射会をしてリンカーン大統領からの直々の採用命令を得るといふ荒業を行いました。リンカーン大統領崩壊後(1865年暗殺)の南北戦争後の制式軍用銃の採用には多くの軍関係者とコネクションを持つスプリングフィールド国営造兵廠製の強力な軍用小銃が使用できる単発のトラップ・ドア小銃が採用されたのは自然の成り行きだったでしょう。

スペンサー M1865 連発銃

スプリングフィールド国営造兵廠でテストが一年近く行われた結果、1864年秋に陸軍軍需局(Army Ordnance Department)は合衆国騎兵銃の制式弾薬の統一を決定しました。新型騎兵銃用の弾薬はスプリングフィールド、50口径騎兵銃弾(56-50 Spencer弾)で、1864年5月24日に陸軍軍需局がSpencer社に発注した分なら新しい口径に変更するように要請されました。それ以降、新規で50口径騎兵銃弾を使用するモデルは「M1865」として新しいモデルとなり、銃身後部上方にモデル名を意味する「1865」の刻印が打たれています。M1865は他にリアサイトの形状にも変更があり、M1860はリアサイトのラダー上部が大きくV字型に切れ込みがあるのに対し、M1865はラダー上部が丸く仕上げられて、その中央に小さくV字型ノッチが入っています。M1865の多くはStabler Magazine Cut-offと言う「マガジン(弾倉)からの給弾を止め、ブリーチを開いた状態で単発で弾を装填できる機能」を追加した改良モデルもあります。また銃身長がM1860は22インチであったのが、M1865は20インチと5cmほど短くなっているのが外見上の相違です。



スペンサー M1865 騎兵銃 (登録証付古銃)
¥3,240,000(税込) [3872]



スペンサー M1865 歩兵銃 陸軍用 (無可動古銃)
¥972,000(税込) [4308]

スペンサー M1867 連発銃

1866年秋にSpencer社の社員であったThomas W. Laneによって新しいエキストラクターのシステムが考案されました。そのシステムは精密な回転する装置(Rotating Device)が空薬莢の下部に突き刺さり薬室から抜き取る方法でしたが、それを取り付けるにはあまりにもコストがかかり過ぎ、すでに高価な商品であったスペンサー銃をより高価かつ複雑なものになるため実用化はされませんでした。Laneの考案したエキストラクターは現存していませんが、特許を取得した際の図案は残されています。その後Laneはこの特許についての全ての権利をスペンサー社に譲りました。その後Laneのシステムを簡略化し、既存のブリーチ・ブロックに簡単に取り付けられる別のエキストラクターがスペンサー社で開発されました。Laneのオリジナルのシステムに比べるとかなり簡素で構造も異なりますが、爪が空薬莢の下部に突き刺さり薬室から抜き取るアイデアはそのまま活かされて多くのM1867に装備されました。現在ではこの簡易新型のエキストラクターもLaneエキストラクターと呼んでいます。M1867騎兵銃は約12,000挺が、M1867歩兵銃は僅か約1,000挺のみ1867年に生産されました。



スペンサー M1867 歩兵銃 陸軍用 (登録証付古銃)
¥3,780,000(税込) [3969]

スペンサー New Model 連発銃

1868年にブリーチ・ブロックに付けられた短いナイフ型のエキストラクターの形状が変わり、エキストラクターの隠れた部分に小さな内部バネが付いてエキストラクターを常に前方に押す機能が追加されました。この改良が加えられたモデルには「New Model」を意味する「N.M.」の刻印が銃身後部上方に打たれています。外見上の変更がないこのモデルにわざわざ「New Model」の名称を冠したのは、1868年の時点でスペンサー銃が旧式なイメージになるのを払拭する意味合いが強くありました。スペンサー社の記録がないため正確な「New Model」の生産数は判りませんが、現存する品のシリアル No.(103,000-109,000)から1868年に騎兵銃が約5,000挺、歩兵銃が約1,000挺生産されたと考えられています。使用弾薬は、56-50 Spencer弾、または、56-52 Spencer弾です。



スペンサー New Model 歩兵銃 海軍用 (無可動古銃)
¥1,080,000(税込) [4363]

南北戦争中にはバーンサイド(Burnside)社が3条ライフル(スペンサー社製は6条ライフル)のM1863モデルのスペンサー騎兵銃をライセンス生産しており、1869年にスペンサー社の資金を引き継いだウィンチェスター社でも生産が行われたと言われています。スペンサー社製の歩兵銃は銃身を留めるバンドが3個ありましたが、バーンサイド社製のスペンサー騎兵銃をスプリングフィールド造兵廠で歩兵銃に改造したモデルは、ハンドガードを留めるバンドが2個になっています。

1867年初頭に「Kirk and Snider's Loading Tube」と呼ばれる「マガジン(弾倉)を完全に引き抜かずに、途中で止めた状態でマガジン内に給弾する機能」なども考案されましたが、正式にはスペンサー銃には装備されませんでした。

歩兵銃は着剣装置の有無で海軍用と陸軍用に分れます。海軍用は銃身の下(フロントサイトの反対側)に着剣装置が付いてヤタガン式銃剣を装着できるようになっています。陸軍用は南北戦争当時の主力小銃のM1855やM1861と共用のスバイク銃剣を装着するため追加の着剣装置の必要はありませんでした。



スペンサー New Model 歩兵銃 海軍用

ヤタガン式銃剣用の着剣装置が銃身下に付いています。



スペンサー New Model 歩兵銃 陸軍用

着剣装置が無く銃身を包み込むソケット型の着剣装置が銃剣側に付いています。銃身長は同じですが海軍用よりストック前部が4cmほど長くなっています。

元込め七連発銃

日本には幕末に佐賀藩によって約8,000挺が輸入されたのが最初です。戊辰戦争(慶応4年/明治元年/明治2年)で使用されました。大河ドラマ【八重の桜】で主人公の「新島八重(新島襄の妹)」がスペンサー銃を使用して会津若松城(鶴ヶ城)籠城戦で奮戦する場面が多くあります。実際は会津藩にはスペンサー銃はその一挺しかなく、攻撃をした新政府軍(薩摩軍)に多くのスペンサー銃が支給されていました。当時日本国内でもスペンサー銃は最新兵器で「元込め七連発銃」と呼ばれて恐れられました。

写真の銃は無可動状態もしくは教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。

US Lindner Carbine, Early Production

米国軍発管打式騎兵銃
リンダー カービン 初期型
US Lindner Carbine,
Early Production
Cal. 14mm, Circa 1863
Overall Length 990mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥864,000(税込)【5036】



1859年にEdward Lindnerが取得した特許を基に、Amoskeag社が製造したカービンで、南北戦争中に北軍に採用されたものの、実際に納入されたのは僅か892挺のみでした。薬室前方に駐筒と呼ばれるカバーが付いており、駐筒右側面のハンドルを左方向に回転させる事によって薬室のロックが開放され、薬室前方に撃発を軸にこぎ起して薬室前方から装弾が可能となります。弾薬はペーパー・カートリッジ式で、撃発はサイド・ハンマーによる雷管外火式となっています。本品はリンダーカービンの初期型で、騎兵用のサドル・リングが本体左側面に装備されており、リア・サイトがアップバー・タング上に取り付けられているのが特徴です。



English Green Brothers Patent Breech Loading Percussion Carbine



1862年に英国のグリーン兄弟が特許を取得した特殊な後装式システムを利用した管打式騎兵銃で、機関部後方に現在のボルトに相当する部品が付いており、左側面に別部品でボルト・ハンドルが取り付けられています。1864年にエンフィールド小銃の後継主力小銃を選定する英陸軍のトライアルに提出された47種類の中で、本銃は最終トライアルまで進んだ9挺に選ばれましたが、結果的にはスライドル小銃が採用されました。雷管と一体型のボクサー式弾薬を使うスナイドル小銃に比べ、後装式であっても雷管を別に装着しなければならぬ構造はトライアルでは不利でした。本銃は英軍将校の私物として極少数が生産されました。

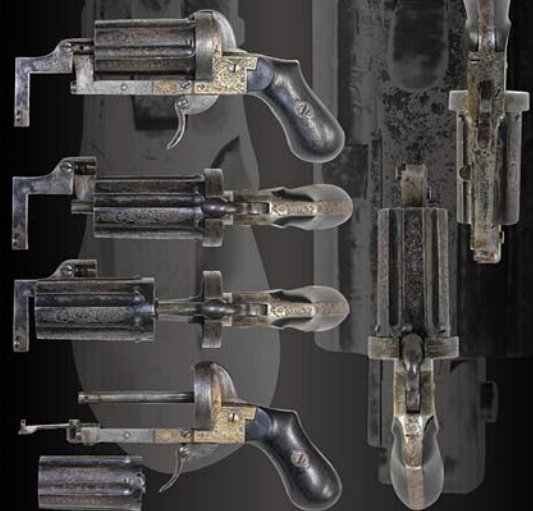
英国軍発後装管打式騎兵銃
グリーンブラザーズ 特許
管打式騎兵銃
English Green Brothers
Patent Breech Loading
Percussion Carbine
Cal. 12mm, Circa 1864
Overall Length 1,013mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥1,404,000(税込)【4639】

Belgian made Pinfire Fist Pistol by J. Chaineux



白銅五連発罫目打式拳銃
ピン・ファイア フィスト・ピストル
(J. Chaineux パテント)
Belgian made Pinfire Fist Pistol
by J. Chaineux
Cal. 7mm, Circa 1864
Overall Length 135mm
(銃剣刀剣類登録証付古式銃)
¥1,404,000(税込) [5197]

ヨーロッパにおいてベーパーボックスから発展した、ピンファイア・カートリッジを使用する特殊な形状のリボルバーの一種です。フィスト・ピストルの構造自体は特許が取得されていませんでしたが、装弾方法については多くのシステムが考案され、ヨーロッパ各国で様々な装弾方法を持つモデルが生産されました。本品はベルギー・リエージュのJ. Chaineuxによって製造された品で、本体前方左側面のレバーを90度回転させる事によってシリンダーのロックが解除される構造となっています。J. Chaineuxは1863～64年頃に後装式リボルバーの特許を2件取得しており、本品の特殊な後装式システムもその一つと考えられます。



English Transitional Percussion Revolver



ベーパー・ボックス・ピストルから本格的なリボルバーへの移行期である1840年代の間に製造された回転式拳銃で、現存数が少ない希少なモデルです。本品は英国バーミンガムで製造された品で、シリンダー・バーに銃身がネジ留めされた構造となっており、シリンダー・ストップが装備されている事から、トランジショナル・リボルバーの中でも後期型に相当するモデルです。ハンマーはバー・ハンマー・タイプで、作動方式はダブル・アクションのみとなっています。また、フレーム左側面には取り外し可能なサイド・プレートがネジ留めされています。銃身やシリンダーには彫刻は施されておらず、非常にシンプルなデザインとなっています。

英国六連発移行期打式拳銃
イギリス トランジショナル
パーカッション リボルバー
English Transitional
Percussion Revolver
Cal. 9.5mm, Circa 1840-45
Overall Length 286mm
(銃剣刀剣類登録証付古式銃)
¥864,000(税込) [5206]



写真は所有の銃器を撮影したもので、銃剣刀剣類登録証を付した品を撮影したものではありません。銃剣刀剣類登録証を付した品を撮影したものではありません。

Enfield Muzzle Loaders & Breech Loaders from Pattern 1839 to Snider-Enfield

英国では1722年以降、前装フリント・ロック式の通称「ブラウン・ベス」と呼ばれる小銃を採用していましたが、19世紀に入り雷管を使用して撃発を行うパーカッション・ロックが発明されると、1839年に従来のフリント・ロック式のブラウン・ベス小銃をパーカッション・ロック式に改造した「Pattern 1839小銃」と呼ばれるモデルが製造されるようになりました。



英国製「ブラウン・ベス」歩兵銃

Pattern 1839小銃の銃身は、それまでのフリント・ロック式と同様にライフリングのない滑腔銃身で、サイド・プレートにフリント・ロックの名義が見られました。その後、1842年には当初から前装管打モデルとして製造された「Pattern 1842小銃」も英軍制式となりました。

Pattern 1842小銃はその後、ミニエー弾を使用する新型小銃が登場するとすぐに旧式化してしまいましたが、1838年にPattern 1842小銃でも使用可能なブラウン・ベス小銃用の滑腔銃身が30,000挺分注文されていた為、これらを流用して生産が続けられ、主に最新式の陸上装備を必要としない海軍用小銃として使用されました。



Pattern 1842海軍用短小銃
¥324,000(税込)【4402】

Pattern 1842小銃では銃身下の銃口の近くに古いタイプのソケット型銃剣を取り付けるための独特のレバー式着剣装置が付いており、海軍兵士が前世紀から使用していたタイプの銃剣も装着する事が可能となっていました。Pattern 1842小銃の銃床はフリント・ロック時代と同じような銃床側面からピン(目釘)で銃身を留める方法となっており、銃身を留めるバンドは装備されていませんでした。



Pattern 1842小銃の
レバー式着剣装置

1847年にフランスでミニエー弾と呼ばれる新型弾が開発されると、英国でもミニエー弾を使用する小銃の開発が進められ、1851年に、702in.のミニエー弾を使用し銃身内にライフリングのある前装式小銃「Pattern 1851小銃」が開発されました。

ミニエー弾はドングリ型の鉛製弾頭(ブリチット弾)で、弾頭底部には窪みが設けられておりコルクが埋め込まれていました。発射時の圧力で押し込まれたコルクは鉛弾の底部を外側に膨張させ、弾頭周囲に設けられた溝の凸部がライフリングに食い込んで密着する事により、銃身と弾頭の隙間からの発射ガスの漏れを低減し、ライフリングによる回転を弾頭に与える構造となりました。これにより従来の滑腔式小銃では50~100ヤード(約40~90m)ほどであった有効射程が、ミニエー弾を使用するエンフィールド歩兵銃では300ヤード(約270m)となり、最大射程は1,000ヤード(約910m)にまで延長されました。射程の延長に伴い、エンフィールド歩兵銃ではリア・サイトの日鏡が1,000ヤード前後まで設定されています。尚、エンフィールド小銃ではミニエー弾を使用する事により、射距離や命中性能が向上しただけではなく、高速で回転した弾頭が体内で変形し致命的な銃創となりました。また、エンフィールド小銃の弾薬は、弾頭と装薬である黒色火薬が紙製薬筒に包まれており、薬筒の表面

は蜜蝋と動物性油脂の混合物でコーティングされていたが、汚れた動物性油脂にまみれた弾頭が負傷兵に深刻な感染症を引き起こしました。

Pattern 1851小銃が登場した2年後の1853年には、ミニエー弾に改良を加えた.577in.のエンフィールド弾を使用する、前装管打式施条銃のほぼ完成形とも言える「Pattern 1853小銃」が採用されました。



エンフィールド Pattern 1853 歩兵銃

このPattern 1853小銃では、銃身がより近代的な3本のバンドで銃床に固定された構造に変更となりました。尚、1853年から始まったクリミア戦争では小銃が不足した事から、英国陸軍部隊でもエンフィールド小銃を装備していたのは3個師団のみで、残りの多くの歩兵はPattern 1842等の滑腔銃身小銃を使用しました。

エンフィールド小銃にはサイド・プレートに「TOWER」の刻印が入っている事から通称タワーズ・ライフルとも呼ばれましたが、このタワーズ軍用刻印は当時ロンドン塔にあった英国政府の銃器検査機関で軍用として耐えうるとして品質検査が行われた証です。尚、同じエンフィールド小銃でもタワーズ刻印の代わりに民間メーカー刻印だけが入っている品も存在します。当時の英国は銃器メーカーがバーミンガムとロンドンに集中しており、バーミンガム銃器製造協会の会員であったメーカーにより製造された品には王冠の刻印が付刻されていました。一方、ロンドンにあったメーカーで作られた品には通常この王冠はなく、メーカー名が入っていました。バーミンガムで製造されたエンフィールド小銃には米国の送られて南北戦争において両軍で使用された物も多く見られます。英国国営造兵廠や国営造兵廠コントラクトの品には王冠の下に「V.R.」の刻印が入っていましたが、米国に送られた品の多くは王冠の刻印のみが入っていました。エンフィールド小銃は制式後に各種改良が続けられた他、銃身長が短い短小銃モデルやカービン・モデルを始めとする多くのバリエーションが製造されました。



900ヤードまで対応した
Pattern 1853歩兵銃の
リア・サイト



エンフィールド Pattern 1856 短小銃
¥378,000~¥486,000(税込)

「Pattern 1856小銃」は.577口径のエンフィールド小銃としては初の短小銃(2バンド)モデルで、33インチ(84cm)の銃身が装備されていました。Pattern 1856短小銃は戦列歩兵連隊や小銃旅団、第60連隊、ケープ植民地軍、王立カナダ小銃連隊といった部隊のあらゆる下士官に支給されましたが、登場時期が遅かったため当時英国が参加していたクリミア戦争には投入されませんでした。Pattern 1856小銃のライフリングや弾薬はPattern 1853小銃の物と同様でしたが、銃身がより肉薄となっており、重いヤタガン銃剣を装着すると銃身が曲がってしまう恐れがあった他、連続射撃後に銃身周囲に腐食が発生するという欠点がありました。Pattern 1856 Type IIとも呼ばれる「Pattern 1858小銃」はPattern 1856の改良型で、銃身自体はP1856と同じ物が使用されていましたがストックがより長い物へと変更された他、P1856では銃身に設けられていた着剣ラグがフロント・バンドへと移される等の強化が行われました。英国海軍は1858年にPattern 1856小銃と同様のモデルを採用しましたが、この海軍モデルでは銃身がPattern 1856小銃に比べて肉厚となった他、ライフリング条数が3条から5条となり、ライフリング・ピッチも1:48インチとなり回転の大きなものに変更されており、命中精度が向上していました。その後、英国陸軍でもこの海軍モデルと同様のモデルを1860年に採用しました。尚、1858年以降

写真的な無可動美術品もしくは教育委員会発行の「砲術刀剣登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。

に製造された全てのエンフィールド小銃については、ライフリングの深さが薬室から銃口に向かって浅くなる方式へと変更されました。

1857年に発生したインド大反乱以降、英国は植民地における現地人傭兵の反乱による脅威への対処方法として、現地人傭兵に対して正規兵の制式小銃と比較して射程や威力の劣った小銃を支給するべきであると考えました。しかしながら、当時の英国の方針により、英国正規兵と現地人傭兵の携行する小銃の外観が明らかに異なるといった状況は避ける必要がありました。その為、外観上はPattern 1853小銃に非常に良く似ているものの、実際にはライフリングのないマスケット銃を現地人傭兵専用として導入することが決定され、.6561口径の滑腔銃身を持つ「Pattern 1858小銃」が開発されました。英国正規兵が装備するPattern 1853小銃が300ヤードの有効射程を有していたのに対して、Pattern 1858小銃は僅か50ヤード（約46m）の有効射程しかありませんでした。尚、Pattern 1858小銃は極めて低い銃身強度により銃身破裂が発生しやすいという欠陥が導入後間もなく明らかとなった為、翌年の1859年には改良型である「Pattern 1859小銃」が導入される事になりました。



1864年に英国陸軍は前装式のエンフィールド小銃の後装式への改修方法を公募し、米国人のヤコブ・スナイダー（Jacob Snider）の開発した螺番式銃尾装置を使用するスナイダー・エンフィールド小銃が1866年に英軍に制式採用されました。この機構は銃身後部（薬室）の上半分を削り取り、右方向に開く螺番式ブリーチを取り付けているのが特徴です。スナイダー小銃はボクサー式紙薬莖の.577 スナイダー弾を使用し、可動式ブリーチの中に撃針が組み込まれており、既存のエンフィールド小銃の撃針による撃発が可能な構造になっています。このスナイダー小銃への改修は、エンフィールド小銃だけではなく、同じ様な構造の前装式小銃にも施されました。



量産されたスナイダー・エンフィールド小銃には製造時期によってMKIからMKIIIまで複数のバリエーションが存在します。MK II*はスナイダー小銃の中で最も一般的なモデルで、薬室後部の形状はMK I*やMK II*と同様ですが、エキストラクターやブリーチ・ブロック、撃針の形状に小改良が加えられています。MKIIIは1869年に英国で採用されたモデルで、前装式のエンフィールド銃からの改修品ではなく、当初から後装式のスナイダー銃として製造されました。

基本構造はそれまでのMKIやMKIIと同様でしたが、ブリーチ・ブロックにスプリングが組み込まれたロッキング・ラッチが追加されているのが特徴です。また、レシーバーについても従来モデルに比べて肉厚の構造となり強化されていた他、銃身はより強度の高い鋼鉄製に変更されました。

スナイダー小銃は1871年にマルティニ・エンフィールド小銃が採用されるまで英軍の主力小銃として使用された他、イギリス領インド軍では1890年代半ば頃まで使用されました。

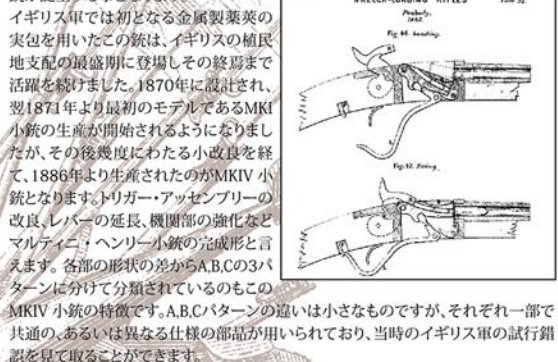


System Martini

1862年アメリカ人のヘンリー・ビーボディ（Henry O. Peabody）は、銃の作動機構に関する特許を取得しました。機関部のアンダー・レバーを操作する事により、ブリーチ・ブロックが後部のピボット・ピンを支点に上下に開放・閉鎖され、同時にエキストラクターを連動させるこの仕組みは、ビーボディ・ブリーチ・ローディング・システム（ビーボディ・アクション）と呼ばれます。

この作動機構は、南北戦争に銃を供給していたProvidence Tool Company社によって1866年にビーボディ・ブリーチ・ローディング・ファイア・アームとして製品化され、カナダやスイス、スペインなどに対してセールスを伸ばしていきました。

その後、スイスへと輸出されたことが契機となり、スイス人のフレデリック・フォン・マルティニ（Friedrich von Martini）によって、ビーボディ・アクションの外装式ハンマーをストライカーに改め、レバーを操作した際ブリーチ・ブロックの上下に連動してコッキングが行われるマルティニ・ブリーチ・アクション（マルティニ・アクション）が開発されました。



MKIV小銃の生産から遡って、1877年に派生型のカービンが登場しています。カービンは砲兵用と騎兵用に分かれ、さらにそれぞれ幾つかのバリエーションが存在します。

す。また、士官学校の訓練用銃として、より小型のものも造られました。

一方で同時期の欧米列強では、より小口径の高速弾を用いる小銃が採用され始めていました。イギリス軍でも1888年から.303口径の弾薬が段階的に採用されており、.577/450口径と言う大口徑の弾薬を用いるマルティニ・ヘンリー小銃は、もはや時代遅れとなりつつありました。MKIV小銃は1889年には新規の生産が終了しますが、リバル等々の処理によって使用弾薬を変えながら、その後も長らく使用され続けました。マルティニ・ヘンリー小銃の後継とも

言えるマルティニ・メトフォード小銃は、マルティニ・アクションはそのままだ、メトフォード・ライフルングを採用した小銃です。メトフォード・ライフルングはウィリアム・エリス・メトフォード(William Ellis Metford)によって開発され、ヘンリー・ライフルングよりも火薬の残滓が残りにくく、銃身内の清掃が容易な特徴を持っていました。よって.303ブリティッシュ弾にはこちらの方がヘンリー・ライフルングよりも適していると判断され、マルティニ・アクションにメトフォード・ライフルングを組み合わせたマルティニ・メトフォード小銃が開発されます。



マルティニ・メトフォード MKIII アーティラリー・カービン
¥432,000(税込) [4053]

マルティニ・メトフォード MKIII アーティラリー・カービンは、その殆どが既存のマルティニ・ヘンリー MKIII 小銃を改造する形で生産されました。機関部はMKIII小銃のものが、フォア・エンドや銃身が短くなっており、新型の銃剣に適合させるためにバヨネット・ラグも一新されています。その為機関部右側面にはMKIII小銃として生産された際に打たれた刻印が残っており、一方で左側面にはアーティラリー・カービンへと改造された際の刻印が打たれています。

さらにその後、無煙火薬が発明されるとマルティニ・アクションの銃はまたしてもその姿を変える事になります。

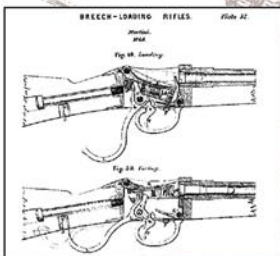


マルティニ・エンフィールド FMKII ショート・ライフル
¥432,000(税込) [4054]

.303ブリティッシュ弾は、当初発射時に黒色火薬を使用していました。より強力に燃焼する無煙火薬が発明されると、1895年に.303ブリティッシュ弾の発射薬もこれに置き換えられました。当時イギリスの小銃に採用されていたメトフォード・ライフルングでは、無煙火薬の燃焼の際に発



マルティニ・ヘンリー 機関部



生する高圧による磨耗が激しく、銃身寿命が著しく短くなるという問題が発生していました。その為浅く緩やかな溝のメトフォード・ライフルングから、より深い溝となったエンフィールド・ライフルングが開発され、このライフルングを取り入れたものがマルティニ・エンフィールド小銃となります。

マルティニ・エンフィールド小銃には大きくMKIとMKIIの2つのバリエーションが存在し、加えてカービンのバリエーションも存在します。マルティニ・エンフィールド MKI 小銃はマルティニ・ヘンリー MKIII 小銃からの改造によって生産されましたが、その後のMKIIは改造ではなく新規に生産されており、アッパー・ハンド・ガードの省略や、コッキング・インジケーターの大型化、フォア・エンドの固定方法等が変更されています。

一部が当時イギリスの保護国となっていたエジプトに渡った他、アフガニスタンではイギリス軍から徴獲したものを独自にコピーした、カイバル峠コピーなどが存在します。

場所は変わり、15-17世紀に隆盛を極めたオスマン帝国(トルコ)は19世紀には力を失い始めていました。工業力は著しく欧米に遅れていた為、依然軍事大国であったにも関わらず、軍備の潤達は列強に頼っていました。トルコは過去に、同盟国であったイギリスからエンフィールド・スナイダー小銃30万挺を輸入しましたが、その後最新式のマルティニ・ヘンリー小銃の購入を英国に打診するも成功せず、ビーボディ・マルティニ小銃をビーボディ・アクションの製造権を持っていたProvidence Tool Company社から60万挺購入しています。

また表向きはトルコ支援を行って、いなかった英国でも、全く同じ品が民間会社によって製造され、トルコ軍に支給されました。



トルコビーボディ・マルティニ MKI 歩兵銃 Type B
¥324,000(税込) [5285]

トルコからマルティニ・ヘンリー銃の生産を請け負った際、Providence Tool Company社はマルティニ・アクションのバテント使用許可を米国籍代理人から正式に得ていますが、ヘンリー・ライフルングのバテント使用料を請求したアレクサンダー・ヘンリーに対しては支払いが却下されました。そのような経緯から、本銃はマルティニ・ヘンリー MKIと基本的に全く同じ仕様ですが、ヘンリーの名をモデル名から避けビーボディ・マルティニ小銃として生産されています。ビーボディ・マルティニ小銃には大きくType AとBが存在し、マルティニ・ヘンリー MKIの試作型と同じトリガーの前にセーフティが付いた初期型のType Aと、セーフティとバット・スリング・スイベルが省略され、新型バヨネット・ラグが追加された後期型のType Bに分類されます。さらにトルコが入手したビーボディ・マルティニ小銃の一部は日本に売却され、村田銃が採用されるまでに海軍陸戦隊等で使用されています。

このように、ビーボディ及びマルティニ・アクションは優れた作動機構から多様な国で生産・使用されており、さらには民間用にカスタマイズされて使用されています。特に、反動に強い構造から、ライフル以外にも散弾銃や銃打ち銃なども生産されました。



マルティニ・アクション ハンティング・カービン
(Joh Gysi社製) ¥378,000(税込) [5286]

マルティニ・アクション クラゲット・シューティング・ライフル
(Joh Wober社製) ¥540,000(税込) [5297]

これらはアメリカ以外にも多くの国で生産され、スイスのInterlakenにあったJoh Gysi社は独自の弾薬や銃身を用いた質の高いハンティング・カービンを生産しました。

写真の銃はすべて無動機銃です。

Turkish Single Shot Flintlock Pistol



トルコで19世紀初頭から中頃に作られたオリエンタル風のフリント・ロックピストルです。欧米では1850年中頃にはすでに打撃式の撃発機構が一般的になっていましたが、トルコ等では19世紀末頃までフリント・ロックが現役で使用されていました。18世紀頃の英国やフランスの軍用フリント・ロックピストルとはほぼ同じサイズで、作りがしっかりしている事から軍用として使用された品と考えられます。ラウンド・バレルの銃身が基部部分で細やかなオクtagon・バレルになっている作りがオリエンタル風です。銃身は二重口・シルバーの通し模様を施したカバードで覆われており、その他の装飾にもトルコ工芸品の技術が生かされています。

土国単発火打石式拳銃
トルコ 単発 フリント・ロックピストル
Turkish Single Shot Flintlock Pistol
Cal. 16mm, Circa 1800-50
Overall Length 457mm
(銃身力測器付証付古式銃
270,000円税込[5201])

Spanish Miquelet Type Percussion Pistol by J.F. VERGARA

スペイン・バスク地方エイバルの銃工であるJuan Francisco Vergaraによって1855年に作られたパーカッション・ロックの単発拳銃です。本品の撃発装置は、1570年頃にスペインのマドリッドでフリント・ロック用の機関部として発明されたミュクレット式と呼ばれる物で、メイン・スプリングとシアがサイド・プレートの外側に露出しているのが特徴です。ミュクレット式はスペインを中心に製造され、パーカッション・ロックが主流になってからも、ミュクレット式の構造を流用した機関部が地中海域から中東にかけて使用されていました。本品は当時のスペイン製らしい装飾的な作りとなっており、ハンマー前方にバネ仕掛けのセーフティが装備されているのが特徴です。



西国単発火打石式拳銃
スペイン 打撃式単発拳銃 (JUAN FRANCISCO VERGARA製)
Spanish Miquelet Type Percussion Pistol
by J.F. VERGARA
Cal. 6mm, Circa 1855
Overall Length 281mm
(銃身力測器付証付古式銃
¥864,000円税込[4513])



写真の銃は教育委員会発行の「銃器の歴史と文化」に掲載されている実物の形式銃です。(許可範囲内ではありません)

Remington

Rolling Block System

レミントン ローリング・ブロック (ニュー・モデル) は、1867年から1896年までアメリカのレミントン社 (E. Remington & Sons社) で製造された。その後も20世紀初頭までアメリカ国外でライセンス生産された当時最も成功した後装式単発小銃です。



南北戦争中の1863年にレオナルド・ガイガー (Leonard Geiger) が特許を取得したシステムをレミントンのジョゼフ・ライダー (Joseph Rider) が再設計し、1864年にスプリット・ブリーチ カービン (Split Breech Carbine) またはオールド モデル (Old Model) と呼ばれるローリング・ブロックの原型を完成させました。南北戦争中には合衆国政府から合計5,000挺の注文があり、終戦直後の1865年4月に納品が行われました。これらのオールド・モデル カービンは実際にはレミントン社で製造されたものではなく、(サバージ・リピーティング・アームズ社によって行われました。

戦後レミントン社で新たに設計され1867年から生産が始まったニュー・モデルは、アメリカ国外で爆発的な人気を博しました。外観上は大きな相違は見られませんが、スプリット・ブリーチ・ブロックから右側面にレバーが付いた特徴的なブリーチ・ブロックに変更されており、ハンマーとブリーチ・ブロックのピンを大型化させて耐久性を大幅に向上させるなど画期的な改良が施されていました。

作動方法は、最初に機関部後部にあるハンマーを起し、ブリーチ・ブロックのロックを解除します。続いて右側にレバー (取っ手) が付いたブリーチ・ブロックを後方に約45°回転させ、薬室を開いて弾薬を装填します。その後、親指でレバーを前方に押す事によってブリーチ・ブロックを前方に回転させ、薬室を完全に閉鎖します。射撃後は再びハンマーを起してブリーチ・ブロックを開く事で、連動したエキストラクターによって空薬莢が後方に引き抜かれます。ここまでの工程は、右手をグリップしたままの状態でも親指一本だけで操作が可能となっています。空薬莢は完全には排出されないため、指で取り出す必要がありますが、熟練した射手は一連の作動を親指一本で行いました。待撃すべき点として、発射時に後方にかかる圧力をブリーチ・ブロックとハンマーによって外部からロックし、機関部内部においてもハンマーとブリーチ・ブロックの基部同士が結合してロックされ、ブリーチ・ブロックの破損及びガス漏れを防ぐ構造となっています。このような構造では当然ながらブリーチ・ブロックとハンマー双方の基部に大きな負担がかかりますが、直径が12mmもある太い2本のピンによってブリーチ・ブロックとハンマーが固定されているため強度が保たれています。

ニュー・モデルは、約半世紀の間に世界各国の軍隊で使用されたため、多くの口徑バリエーションが存在します。単発式ではあるものの、独特なロー

リング・ブロック・システムは高い耐久性を持ち、設計上も異物や砂塵の侵入が少なく、万が一異物が入り込んだ場合でも問題なく作動しました。また、部品点数が少なくシンプルな構造等、軍用銃としても多くの長所を持っていた。このニュー・モデルは、明治初期に兵器貿易会社「大倉組商会」によって日本にも輸入された他、同時期に日本国内でも鉄砲鍛冶によって少数が模倣されました。



南北戦争後の小火器メーカーの多くは、縮小した米国内市場で生き残る為に、軍に対しては絶えず売り込み競争を繰り返していました。当時大手であったレミントン社も米陸海軍に対してローリング・ブロックの売り込みを図りましたが、大量発注が見込める米陸軍主力小銃の座は、前装式を安価に後装式に改造可能なスプリングフィールド造兵廠のトランプ・ドラライフルに奪われました。ローリング・ブロックは、1867年のフランスで開催されたパリ万博においてヨーロッパ諸国の注目を浴びましたが、依然として米国内ではスプリングフィールド造兵廠の力が強く主力小銃に選定される事はありませんでした。その為、レミントンは海外へ積極的に市場を求め、ロイヤリティ (特許使用料) を得るために海外の銃器メーカーや造兵廠にライセンス生産権を与えました。

海外の軍隊で最初に主力小銃として採用されたローリング・ブロックは、スウェーデンとブルウェー両軍が採用したM1867 歩兵銃でした。米軍ではM1867 海軍銃とM1867 海軍候補生用小銃が少数採用されましたが、現存している完全品が殆ど無いほど僅かな数量に留まりました。1870年には海軍がM1870 海軍銃を、翌1871年に陸軍がM1871 歩兵銃を採用しましたが、製造はレミントン社ではなくスプリングフィールド造兵廠で行われました。また、レミントン社では輸出用に大量のローリング・ブロックを生産しましたが、需要に供給が追いつかず、スウェーデンでは総生産数の80%がスウェーデンの国営造兵廠及び民間企業一社によって生産されました。

ローリング・ブロック小銃をコレクションする魅力の一つとして、レミントン社製の品については製造時期によってハンマー後方のアップパー・タングにあるバレット刻印から製造時期が特定できる他、海外製は各国のブルーパイン刻印から製造国が判明する点が挙げられます。レミントン社製の輸出モデルには製造国の特徴ある刻印が入っており、それらのバリエーションを集める楽しみがあります。



(写真上) ベルギー製 ローリング・ブロック 歩兵銃
V432,000 (RGS) [5274]
(写真下) ベルギー製 ローリング・ブロック 候補生用小銃
V151,200 (RGS) [2730]



南米諸国は当時ローリング・ブロックのライセンス生産を行うだけの技術がなく、総じてレミントン社製の品を輸入したため、一見同じように見えても使用国によって若干の差異が見られました。ローリング・ブロックにはフルサイズのライフルとカービンの他、候補生小銃と呼ばれるスモール・ダウンスしたモデルも少数ながら作られました。海外におけるライセンス生産品としてはスウェーデン製が最も多く占めましたが、当時品質に定評のあったベルギー製も少なからず存在しました。

Swiss Breech Loading Rifles of the 19th Century

19世紀のスイス軍用 後装式小銃

スイス連邦軍で小火器の統一がなされたのは1817年ですが、その後も1867年まで多くの種類の前装式打撃小銃が使用されていました。またその間に、前装式から後装式へのコンバートも行われたため、更に多くの種類の軍用小銃が混在する事になりました。本格的な後装式小銃への統一が完了したのは1869年で、この時点でようやくヨーロッパ列強と肩を並べることができたと言えます。そしてその後のスイス独自の小火器開発における意匠的歴史が、今日のスイスを世界有数の銃器産業を持つ国にまで発展させました。

M1817/42/59/67 後装式歩兵銃

1817年にスイス連邦軍が統一歩兵銃として最初に採用したのが滑腔銃身のM1817 歩兵銃です。1842年に施条銃身へと換装されてM1817/42となった後、M1859年には固定照門から起倒式の変照門に改良されてM1817/42/59となりました。そして1867年に線付式金属薬莖を使用するミルバンク・アムスラー・コンバージョン(Milbank-Amsler Conversion)システムを用いた後装式に改良されたのがM1817/42/59/67 後装式歩兵銃です。ミルバンク・アムスラー・コンバージョンとは、アメリカ人のIsaac Milbankが発明したシステムをスイスのRudolf Amslerが完成させたスイス軍独自のコンバージョン・システムです。



M1817/42/59/67 後装式歩兵銃 ¥378,000(税込) [5254]

ビーボディ M1867/77 工兵銃

ビーボディ M1867 工兵銃は、米国のプロビデンス・ツール・カンパニーで製造され、スイス軍によって1867年に採用された外国製の銃です。1867年はスイス軍で前装式から後装式のミルバンク・アムスラーへの転換期にあたり、新たに開発されたスイス・ベテュエリの問題改善が完了するまでの仮制式としての採用でした。ビーボディ小銃はトリガー・ガードを兼ねたレバーを下げることでブリーチ・ブロックが降下して装填可能となり、レバーを上げる事でブリーチ・ブロックが閉鎖される仕組みになっています。1877年には米国のビーボディ M1867にスイス製の銃身を取り付けたM1867/77 工兵銃が採用されました。本銃はモデル名の通り、工兵部隊に対して限定的に支給されました。



ビーボディ M1867/77 工兵銃 ¥432,000(税込) [5282]

ベテュエリ M1870 警察騎兵銃

ベテュエリ小銃は1869年から1889年までスイス軍の制式小銃としてスイス軍の中支えを支えた。シュミット・ルビン小銃の二世代前の主力小銃です。特殊なロッケンダー・ラグを持つボルト・アクションとチューブ型弾倉を合わせた独特のシステムは先進的で、高且つ軍用としては比較的早い時期に登場した連発銃でした。ベテュエリ M1870 警察騎兵銃は、Gendarmerieと呼ばれる戦時には戦闘にも参加する武装警察の騎馬隊用として1870年に採用された騎兵銃です。装弾口カバーや遊底覆が付くなど初期のベテュエリ小銃の特徴をよく残しています。



ベテュエリ M1870 警察騎兵銃 ¥540,000(税込) [5568]

ベテュエリ M1870 候補生小銃

士官候補生用に若干スケール・ダウンした単発モデルで、ボルトの構造はベテュエリ連発銃と同様ですが、単発式のため連発銃の特徴である給弾エレベーター機能は備えていませんでした。本銃はベテュエリが1866年に発表した単発のボルト・アクションライフルと非常に似通った形状となっていました。



ベテュエリ M1870 候補生小銃 ¥324,000(税込) [518]

ベテュエリ M1881 歩兵銃

M1881はベテュエリ小銃の最後期型で、前モデルのM1878より射程が伸びた事からリア・サイトに引き出し式のサイト・リーフが取り付けられています。1881年から1887年までの間に16,000挺が生産され、ベテュエリ小銃の歴史に幕が下されました。



ベテュエリ M1881 歩兵銃 ¥324,000(税込) [4483]

シュミット・ルビン IG89 歩兵銃

1889年にスイス軍制式となった歩兵銃です。スイス軍はそれまでベテュエリ小銃を長年使用していましたが、チューブ型弾倉の欠点である装弾の不便さと弾薬数の変化による銃のバランス移動などは最後まで解決されませんでした。シュミット・ルビン IG89 (Infanteriegewehr 1889) 歩兵銃は、スイス軍のシュミット大佐(銃担当)とルビン大佐(弾薬担当)が共同で開発したスイス独自のストレート・プル式ボルト・アクション・ライフルで、1931年に採用されたK31小銃にまで受け継がれるスイス軍小火器の代名詞ともなるシュミット・ルビンシリーズの最初のモデルです。機構はストレート・プル方式ですが、マンリッシャー方式とは異なり、ボルトとそのカバー(筒)部分を引くとカバー内のボルト部分のみが90度回転する独特の構造になっています。ストック下部に飛び出した弾倉には12発のスイス制式7.5mm×54弾が装填可能です。このルビン大佐が開発した7.5mm×54弾は世界で初めての貫通力の高い鋼被甲弾(フルメタル・ジャケット弾)でした。



シュミット・ルビン IG89 歩兵銃 ¥131,760(税別付、税込) [5149]

マンリッシャー M1893 騎兵銃

M1893 騎兵銃はオーストリア人のマンリッシャー技師によって設計されたスイス陸軍の騎兵銃です。マンリッシャー方式のストレート・プル機構を採用しているが、オーストリアハンガリー帝国の主力小銃であったM1895小銃の機関部に極めており、スイスの軍用銃とは思えない形状をしていました。19世紀末期にスイス軍はシュミット・ルビン M1889 歩兵銃を騎兵用に短縮化したM1889 騎兵銃を採用していましたが、構造上ボルト操作のストロークが長く、馬上では操作が難しい事が判明し、コンバートでボルト・ストロークの短いマンリッシャー型が選ばれ騎兵だけに支給されました。



マンリッシャー M1893 騎兵銃 ¥378,000(税込) [4488]

20世紀初頭にスイスは主要小銃の統一が遅れ、シュミット・ルビン M1889 小銃の後継であるM1896/11小銃からM1911小銃までは歩兵銃と騎兵銃が併用されていました。その後、1931年に採用されたシリーズ最終モデルのK31により、全兵科における小銃の統一が達成されました。

Austrian Breech Loading Rifles of the 19th Century

オーストリアの19世紀後装式ライフル

オーストリア軍は他の列強と同様に19世紀の前半は前装火打石式から、その撃発機構を発展させた前装管打式の小銃を使用していました。1867年に前装式のローレンツ小銃を後装式に改造したウェンツェル・コンバージョンを臨時で採用しましたが、それと同時期に全く新しい構造の後装式であるヴェルンドル・システムの小銃を採用しました。1880年代にはステアー社のクロバチェックが設計したチューブ弾倉式を用いる連発銃も検討されましたが、弾倉を含む機能が斬新なものではなく制式採用には至りませんでした。1886年にはオーストリア独自の機能を持つマンリッカー M1886 歩兵銃が制式となり、その発展型で第二次世界大戦終結まで主力小銃となったM1895小銃とその派生型が約350万挺も生産されました。そのような意味でも19世紀後半にオーストリアで開発された二種類の小銃がオーストリア軍の主力火器を一世紀近く支えてきた事になります。またオーストリアでは一民間会社が軍の需要を一手に請け負い、結果的に国内有数の巨大コンツェルンにまで成長し現在に至っています。

ウェンツェル M1862/67 歩兵銃

オーストリア軍は、1866年に勃発し「7週間(で終結した)戦争」と言われた普仏戦争(プロイセン＝オーストリア戦争)でドライゼ小銃を使用したプロイセン王国軍に惨敗し、前装式を後装式に改造する事が急務となりました。ウェンツェル・コンバージョンはウィーンのガンスミスであったウェンツェルが当時の制式小銃であった前装式のローレンツ小銃を後装式に改造するシステムを開発し1867年に採用されました。ウェンツェル・コンバージョンを用いてオーストリア軍の保有していたローレンツ小銃の多く(約7万挺)が後装式に改造されました。弾薬は新しく制式となった14mm×33ウェンツェルリム・ファイア弾で、オーストリア全軍にM1867ヴェルンドル小銃が行き渡るまで使用されました。ブリーチ・ブロックが前部のヒンジを軸に上方に開く一種のトラップ・ドア方式となっており、ハンマーと連動したビンがハンマーをリリークした際に銃身と同じ軸方向に前進してブリーチ・ブロック後部をロックする仕組みになっています。他のトラップ・ドア系との大きな違いは、レシーバー左側面に設けられた強力なV字バネによってブリーチ・ブロックが閉じられている点です。ブリーチ・ブロックの右後方の「beavertail」と呼ばれるビーバーの尾のような取っ手を強く引き上げる事によって、ブリーチ・ブロックが90°持ち上がった状態(ブリーチ・ブロックが垂直に立った状態)となり、ここから更に前方に倒れる際に、持ち上げる時に負荷が掛かった分だけ前方に勢よく倒れ、素早くブリーチ・ブロックを全開/固定させられる利点がありました。このバネを用いた仕組みはウェンツェル独自のものです。



ウェンツェル M1862/67 歩兵銃
¥432,000(税込)[5263]

ヴェルンドル M1867 歩兵銃

前装式のローレンツ小銃を後装式にコンバートしたウェンツェル小銃が採用されたのと同時期に、新しくオーストリア軍に制式採用された主力小銃です。当時の後装式は薬室部分が上部または側面に開く構造でしたが、ヴェルンドル小銃のドラム式ブリーチは後部が大きく開くシンプル

な構造にも拘らず、非常に堅牢であり腔圧によってブリーチが吹き飛び恐れもない優れた構造でした。またドラム式ブリーチを回転させて開く際には、エキストラクターが非常にシンプルな構造によって運動し、スムーズに排莖する事が可能でした。撃発機構は当時でも旧式になりつつあった前装式小銃と同様のバック・ロックのサイド・ロックシステムを用いていました。1867年から1874年の間にOEWG社は独断的に約60万挺のM1867歩兵銃を製造しました。その後M1867、M1867/77、M1873、M1877の改良派生型が作られた他、各々歩兵銃モデルに加え全長が異なるバリエーションがあります。銃身が僅かに短くトリガー・ガードに指掛けが付いた猟兵銃や、乗馬部隊用に短い銃身を備えた騎兵銃等がその代表的なものです。M1873小銃はOEWG社のアントニー・スピアスキーによってハンマーの位置がサイド・ロックからセンター・ハンマーに改良されたモデルで、OEWG社で1873年から1878年の間に約30万挺製造されました。それ以降も改良が繰り返され、M1877を最後に単発式の時代は終わりました。オーストリア軍はチューブ・マガジンを持つ連発銃であるクロバチェック M1881小銃を一部使用しただけに留まり、マンリッカー M1888小銃の本格的な採用をもっとオーストリア軍の制式小銃の歴史がヴェルンドルからマンリッカーの時代へと引き継がれました。ヴェルンドル M1867歩兵銃は、もう数百年の登場が早ければ1866年の普仏戦争でプロイセン軍に惨敗する事はなかったと言われるほど当時としては優れた小銃でした。1877年に軍部はM1867が使用した11mm×42Rと同一口径で、全長が144mm長くボルト・ネック型のシャルプ・パロネンM77弾(11.5mm×58R弾)を制式弾とし、それに合わせてヴェルンドル M1867小銃もリチャンバーされました。これに伴いリア・サイトに伸縮式のラダー・サイトを取り付け、200-1,400mであった射程が200-2,100mにまで延長されました。リチャンバーされた品はM1867/77小銃となり、新しく11.15mm×58R弾用として製造されたモデルはM1877小銃となりました。M1877小銃は1878年から1885年の間に歩兵銃が約30万挺、騎兵銃が約1万挺OEWG社のみにより製造されました。



ヴェルンドル M1867 歩兵銃
¥270,000(税込)[4514]

ステアー M1886 クロバチェック 歩兵銃

ステアー M1886 クロバチェック歩兵銃は、オーストリアの銃器設計者アルフレッド・フォン・クロバチェックがウィンチェスター社のチューブ式弾倉をボルト・アクションに取り入れ、ステアー社で製造された軍用銃です。軍用ボルト・アクションライフルにチューブ式弾倉を取り入れた物は、スイスのベテリリ小銃やドイツのモーゼル M1871/84小銃、日本の二十二年式村田銃等があります。使用弾薬は当時開発されて間もなかった8mmの小口径弾薬(黒色火薬)を使用しました。新しく開発された小口径弾薬は従来型の弾薬に比べて初速や射程、貫通力に優れ、小口径弾薬と殺傷力には変わらないという利点がありました。クロバチェックのシステムは黒色火薬用に設計されたにも拘らず、強力な無煙火薬にも対応できる強度がありました。しかしながらチューブ型弾倉を有する小銃全般の欠点でもある装弾の不便さや、弾倉内の残弾数の変化により銃のバランスが移動するといった問題は解決されませんでした。そしてチューブ型弾倉内では前方の弾薬の雷管を後方の弾薬の先端が強く叩くと暴発する恐れがあり、丸弾頭を使用しなければならないという軍用銃としては致命的な問題点がありました。クロバチェックが設計した一連の連発銃は、一部がオーストリア軍に採用されたものの主力小銃にはならず、11mm口径のクロバチェック M1881騎兵銃がオーストリア武装警察の騎馬部隊に採用された他は、8mm口径のM1893海軍用小銃がオーストリア海軍の魚雷艇乗組員用に採用されただけに留まりました。ステアー M1886 クロバチェック歩兵銃はステアー社で製造され、ボルトガル軍で制式採用された11.5mm(8mm×60R弾)の小銃です。



ステアー M1886 クロバチェック 歩兵銃
¥216,000(税込)[5074]

写真の銃はすべて無効動装銃です。

ステアー・マンリッカー M1888 歩兵銃

1886年に制式となったマンリッカー M1886 歩兵銃は、軍用銃としては世界初のストレート・ブルのボルト・アクションライフルです。マンリッカーライフルの発明者として有名なフェルディナント・マンリッヒャー(マンリッカー)は、1884年にストレート・ブル・アクションを開発した後、翌1885年には固定式の弾倉にマンリッカー・エン・ブロッククリップと呼ばれる5発装填したクリップごとレシーバー上部から挿入し、最終弾が薬室に送り込まれると同時に空になったクリップが弾倉底部から自動的に排出されるシステムを開発しました。この二つの新しい機構を備えた新型のM1886 歩兵銃は、量産が始まるとすぐに使用する口径11mm(11mm×58R弾)が旧式化しつつあるという問題に直面する事となりました。翌年の1887年にベルギー製の8mm口径のPattern 1887 マンリッカー弾が代替弾として候補に上がり、1888年には8mm口径の8mm×52R マンリッカー弾を使用するマンリッカー M1888 歩兵銃が制式小銃となって1896年までの間に約110万挺も生産されました。M1886 歩兵銃とM1888 歩兵銃の相違点は口径の他、新型弾薬を使用するため1,800~2,500mの射程を持つロング・レンジ・サイトがリア・サイトの右側面に追加され、センター・バンドの右側面にも突起を設けてロング・レンジ用のフロント・サイトが追加された点です。1886年と1887年にすでに約1万挺のマンリッカー M1886 歩兵銃が生産されており、その約95%が8mm×52R弾を使用できるように改造され、マンリッカー M1886/88 歩兵銃となりました。M1888 歩兵銃は1890年に更に新しい8mm×50R マンリッカー弾を使用するM1888/90となり、その後通常のストリッパー・クリップを使用するM1888/24へと改良されました。またM1895 小銃が制式となった後は多くの国に輸出されて世界各国の戦場で使用されました。



ステアー・マンリッカー M1888 歩兵銃 (参考品) [5579]

ステアー・マンリッカー M1895 歩兵銃 (カット・モデル)

第一次大戦におけるオーストリア＝ハンガリー帝国陸軍の主力小銃で、マンリッヒャーによって設計されたM1886から始まるM1890までの制式小銃を基にボルトを改良・完成させた品です。M1888 小銃がボルト下方のみでボルトを閉鎖するのに対し、M1895 小銃では、ボルト・ヘッドが回転する構造になっており、ボルト閉鎖機能においては格段の向上が見られました。ボルト・ヘッドには2ヶ所のラグがあり、これらが薬室後部で90°回転しロックするようになっていました。モーゼル系以外では最も強力な閉鎖方式の一つとなっていました。ボルト・ヘッドが短いためモーゼル系のボルトの閉鎖機能には及びませんでした。M1895 小銃は1895年から製造が始まり、オーストリア帝国ではステアー社、ハンガリー王国ではズダペストのF.G.G.Y.社で合計350万挺以上が製造されました。コッキング・ストロークが短く速射性の高いM1895のストレート・ブル・ボルト・アクション方式が災いしてオーストリアにおける主力小銃の自動化が遅れたとも言われています。オーストリア軍はM1895 小銃を小改良しつつ、第二次大戦まで主力小銃として使用しました。



ステアー・マンリッカー M1895 歩兵銃 (カット・モデル)
¥162,000(税込) [4019]

現代でもSteyr AUGという独自のブルバップライフルを開発／製造しているステアー社の歴史は、この19世紀後半に確立されました。オーストリア＝ハンガリー帝国亡き後も、世界に名だたる銃器メーカーとして生き延びたステアー社の歴史に触れて、銃器製造業がオーストリアの主要産業の一つになった事情について見てみましょう。

ステアー社の始まりは1867年にヴェルンドル・ホーラブ 小銃がオーストリア軍制式となったことが大きな転機となりました。ヴェルンドル・ホーラブ 小銃はステアー生まれのヨーゼフ・ヴェルンドル(1831年-1889年)とカレル・ホーラブ(1830年-1903年)の共同設計でしたが、後にヴェルンドルが全ての権利を買取って、ヴェルンドルが経営するステアー社「Oesterreichische Waffenfabriks-Gesellschaft」(OEWG、オーストリアン武器製造会社)が独占的に製造／販売しました。その為、ヴェルンドル・ホーラブ 小銃は単にヴェルンドル 小銃と呼ばれました。元々ステアーの街はオーストリアのエルツベルグ族領から伸びる「鉄の道」に位置する兵器の生産が盛んな地域であり、三十年戦争の際には多くの小火器を生産しました。そこで鍛冶屋をしていたヨーゼフ・ヴェルンドルの父エバルド・ヴェルンドル(1797年-1855年)が1821年より銃の部品を作り始めました。父の他界後に25歳のヨーゼフが家業を継ぎ、1864年にJosef und Franz Wernndt & Co.社を設立しました。ヨーゼフ・ヴェルンドルは1867年のヴェルンドル・ホーラブ 小銃の開発の後、ヴェルンドル・ホーラブ 小銃の権利を独占し、1869年には会社を株式化(AG)するなどビジネス・センスに長けていました。更なる転機は1880年にOEWG社のエンジニアであったフェルディナント・マンリッヒャーの発明したパテントを使用した小銃がまたオーストリア軍の主力小銃となった事で、ヨーロッパ最大の銃器製造会社と言われるまでに発展しました。1889年にOEWG社の創業者ヨーゼフ・ヴェルンドルが亡くなると、共同経営者であったマンリッヒャーが経営権を得てSteyr-Mannlicher社となりました。その後マンリッヒャーのパテントを改良したM1895 小銃がオーストリア＝ハンガリー帝国やブルガリア王国を始めバルカン半島諸国で採用され、約350万挺も生産されました。

マンリッヒャーの発明したパテントはオーストリア軍用のマンリッカー 小銃だけではなくヨーロッパ各国の軍用銃としても採用されました。その中でもオランダ軍は1895年よりマンリッカー系の小銃(オランダ軍用は基本的に騎兵銃のみ)を9種類も採用し、第二次大戦まで使用しました。



オランダ マンリッカー No.1 NEW MODEL 騎兵銃(改)
¥237,600 (税込) [1980]

スイス軍でも1893年より一時期、騎兵用にマンリッカー M1893 騎兵銃を採用しました。詳しくは本誌P.80をご参照ください。



スイス マンリッカー M1893 騎兵銃
¥378,000(税込) [4488]

「鉄の道」として製鉄業で栄えた都市の一鉄砲鍛冶が約130万挺とも言われるオーストリア帝国主力小銃の独占的製造利権を一挺のシンプルなドラム式ブリーチのパテントによって獲得し、その後マンリッヒャーのパテントが膨大な利益をもたらして現在に至る兵器産業の歴史は非常に興味深いものです。

European Sporting Rifles ヨーロッパのスポーツ・ライフル

19世紀の特猟用や精密射撃用のスポーツ・ライフルは無骨な軍用銃に比べ、特権階級だけが使用しただけであり高級で質の高い品が多いのが特徴です。

オーストリア システム・アイデ
精密射撃小銃
Austrian System Aydt Schuetzen
Single Shot Target Rifle
¥432,000(税込)【5298】

スイス ウォパー
マルティニ・アクション 精密射撃小銃
Swiss Martini Action Schuetzen Rifle
made by Joh. Wober
¥540,000(税込)【5297】

スイス ギシ
マルティニ・アクション 特猟用小銃
Swiss Martini Action Hunting Rifle made by Joh Gysi
¥378,000(税込)【5286】

オーストリア ジャスト
水平二連中心打散弾銃/小銃
Austrian Combination Shotgun/Rifle
made by Josef Just
¥540,000(税込)【5299】

イギリス リグビー
サイド・レバー
特猟用小銃(スコープ付)
English Single Shot
Side Lever Rook Rifle
made by John Rigby
¥432,000(税込)【5287】

イギリス
ウェストリー・リチャーズ
水平二連側行式 散弾銃
English Side-by-side
Flintlock Shotgun
made by Westley Richards
¥540,000(税込)【5296】

イギリス 8番 単発散弾銃
English Single Shot 8-Gauge Shotgun
¥540,000(税込)【4389】

オーストリア ヴェルンドル M1877 特猟用騎兵銃
Austrian Werndl M1877 Custom Hunting Carbine
¥324,000(税込)【4562】

Helmets of the World 世界のヘルメット

US Personnel Armor System
for Ground Troops Helmet
¥21,600 (税込) [8020]
米軍 PASGT (地上部隊兵員個人
防護システム) ヘルメット

US Airborne Helmet Liner
for M1C Helmet, Post-war Type
¥19,440 (税込) [7378]
米軍 M1C 空挺ヘルメット用 ライ
ナー 戦後型

South African M87
Kevlar Helmet
w/ MD7479
Type 1 Cover
¥27,000 (税込) [7539]
南アフリカ軍 M87
ケブラーヘルメット
(MD7479 Type 1 カバー付)

US M1 Helmet, WW2 Swivel Bale /
Front Seam Model w/ Duck Hunter
Pattern Camouflage Cover
¥43,200 (税込) [6981]
米軍 M1 ヘルメット 大戦型 スイベル・
ペイル/フロント・シーム モデル (ダック
ハンター迷彩カバー付)

US M1 Helmet, WW2 Swivel Bale /
Rear Seam Model w/ Camouflage Net
¥14,040 (税込) [7028]
米軍 M1 ヘルメット 大戦型 スイベル・
ペイル/リア・シーム モデル
(カモフラージュネット付)

GAF Guéneau-Geno Type 316 Flight Helmet
w/ MBU-5/P Oxygen Mask
¥129,600 (税込) [7852]
西独空軍 Guéneau-Geno Type 316
フライトヘルメット (MBU-5/P 酸素マスク付)

US M1 Helmet, Post-war Type
w/ Mitchell Pattern Camouflage Cover
¥21,600 (税込) [8019]
米軍 M1 ヘルメット 戦後型
(ミッチェル迷彩カバー付)

Swedish Army M26 Helmet
¥10,800 (税込) [7975]
スウェーデン陸軍 M26 ヘルメット

US M1917A1 Helmet
¥54,000 (税込) [6782]
米軍 M1917A1 ヘルメット

US M1 Helmet, WW2 Swivel Bale /
Front Seam Model
¥48,600 (税込) [6982]
米軍 M1 ヘルメット 大戦型 スイベル・
ペイル/フロント・シーム モデル

UK Mk 6 Helmet
w/ Disruptive Pattern
Material Cover
¥16,200 (税込) [7939]
英軍 Mk 6 ヘルメット
(DPMカバー付)

US M1 Helmet,
Post-war Type
¥19,440 (税込) [7030]
米軍 M1 ヘルメット
戦後型

徳川幕府の終焉をもたらした

戊辰戦争から 日本最後の内戦 西南戦争

その勝敗を左右したのは洋式兵器だった

～当時の実物銃砲を所蔵する贅沢～

銃砲刀剣類登録証付実物古式銃

www.regimentals.jp



米国製 スペンサー M1860 騎兵銃
(無可動古式銃)
(No.34438) ¥756,000(税込) [4554]

米南北戦争で使用された元込め(後装式)七連発銃。幕末に日本にも輸入された当時の最新式騎兵銃でNHK大河ドラマ「八重の桜」で主人公の八重が使用しました。



米国製 スター M1858 騎兵銃
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(No.24336) ¥1,620,000(税込) [3542]

米南北戦争で使用された単発後装式騎兵銃です。幕末に輸入された本鋼体は美作郡山瀬(現岡山県東部)によって使用された裏付けがある歴史的価値のある品です。



英国製 エンフィールド P1856
2バンド短小銃(1868年製)
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥488,000(税込) [3928]

英国製の単発前装式の歩兵銃で、西南戦争では西郷軍の主要小銃でした。戊辰戦争～西南戦争期に日本で最も多く使用された外国製の小銃です。



和製 管打式ゲベル銃
在銘江州岡友藤市郎
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥324,000(税込) [4327]

下記のオランダ製歩兵銃を日本国内で倣作した品で、オランダ語で小銃を意味する「ゲベル銃」と呼ばれ戊辰戦争で多数使用されました。15万円(税別)から各種取り揃えています。



オランダ製 M1842 管打式歩兵銃
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥432,000(税込) [5110]

19世紀半ばにオランダから長崎を経て輸入され、火縄銃に代わる諸藩の最新兵器となりました。オランダからはこの小銃と共に洋式訓練を学びました。



英国製
スナイダー・エンフィールド MKII**
3バンド歩兵銃
(無可動古式銃)
¥302,400(税込) [5268]

英国製の単発後装式の歩兵銃で、西南戦争では明治政府軍の主要小銃でした。幕末に於いては唯一備前産のみ特殊な来英式のボクサー弾薬の大量生産が可能でした。その弾薬製造機械を明治政府が掠奪する事件が西南戦争の発端の一つとなりました。当時日本ではオランダ語読みでスナイドル銃と呼ばれました。

2018年1月よりNHK大河ドラマ「西郷どん」の放送がスタートします。西郷隆盛の時代(1828-1877年)に使用された実物の古式銃を東京と大阪の両店舗にて200挺以上展示販売しています。実際に戊辰戦争や西南戦争で使用された可能性のある品もあります。

Dummy Cartridges and Gun Maintenance Supplies



50口径 ダミーカート105発&
アモボックス・セット (リンク付)
¥280,800 (税込) [7061]



8mm モーゼル
アモベルト&ダミーカート
50発セット
¥86,400 (税込)【5940】



「KYNOC」社製 7mmモーゼル弾 ダミーカート
50発セット (オリジナル紙箱付)
¥32,400 (税込) [7983]

8mm モーゼル弾 ダミーカート15発セット
(オリジナル鉄葉英、紙箱付)
¥32,400 (税込) [4297]



ステアー・マンリッカー M95 8mm×56R
 ダミーカート 10発セット (クリップ&紙箱付)
 ¥32,400 (税込) [7905]



ブローニング M1919
30口径機関銃
アモベルト&ダミーカート セット
¥27,000 (税込) [7890]



① 454CP ダミーカート.....	¥864(税込)	⑦ 308 WIN (7.62mm×51) 銃兼美 ダミーカート...	¥432(税込)
② 300マグ(7.62mm×33) ダミーカート.....	¥432(税込)	⑧ モニッパ(ドラッパ)7.62mm×51(5発)ダミーカート.....	¥432(税込)
③ 7.62mm×39 ロシアダミーカート(旧銃兼美).....	¥432(税込)	⑨ 8mm モーゼル(7.92mm×57) ダミーカート.....	¥540(税込)
④ 7.62mm×39 ロシアダミーカート(旧銃兼美).....	¥432(税込)	⑩ 30 06(7.62mm×63) ダミーカート.....	¥432(税込)
⑤ 223 Rem (5.56mm×45) ダミーカート.....	¥432(税込)	⑪ 300WIN MAG(7.62mm×67)ダミーカート.....	¥432(税込)
⑥ 308 WIN (7.62mm×51) ダミーカート.....	¥432(税込)		



308 WIN (7.62mm×51 NATO)
ダミーカート&ベルトリンク
50発セット
¥16,200 (税別)【5679】



.223 Rem (5,56mm×45)
 ダミーカート 50連 セット
 (アモリンク付)
 ¥19,440 (税込)【6839】



RPD用 7.62mm×39 ロシアン ダミーカート
50発&アモベルト セット (真鍮薬莪)
¥19,440 (税込) [4418]



Chicago Regimentals

古式銃・無可動実銃
本部専用メンテナンス液

クリーナー / ツヤ出し / 保護剤としてお使い頂けます。

●上記以外の用途でのご使用はお控えください。
●ご使用前に一度目立たない部分でお試ください。

¥2,000 (税別) 火気厳禁

12345678910111213141516171819202122232425262728293031323334353637383940414243444546474849505152535455565758596061626364656667686970717273747576777879808182838485868788899091929394959697989910010110210310410510610710810911011111211311411511611711811912012112212312412512612712812913013113213313413513613713813914014114214314414514614714814915015115215315415515615715815916016116216316416516616716816917017117217317417517617717817918018118218318418518618718818919019119219319419519619719819920020120220320420520620720820921021121221321421521621721821922022122222322422522622722822923023123223323423523623723823924024124224324424524624724824925025125225325425525625725825926026126226326426526626726826927027127227327427527627727827928028128228328428528628728828929029129229329429529629729829930030130230330430530630730830931031131231331431531631731831932032132232332432532632732832933033133233333433533633733833934034134234334434534634734834935035135235335435535635735835936036136236336436536636736836937037137237337437537637737837938038138238338438538638738838939039139239339439539639739839940040140240340440540640740840941041141241341441541641741841942042142242342442542642742842943043143243343443543643743843944044144244344444544644744844945045145245345445545645745845946046146246346446546646746846947047147247347447547647747847948048148248348448548648748848949049149249349449549649749849950050150250350450550650750850951051151251351451551651751851952052152252352452552652752852953053153253353453553653753853954054154254354454554654754854955055155255355455555655755855956056156256356456556656756856957057157257357457557657757857958058158258358458558658758858959059159259359459559659759859960060160260360460560660760860961061161261361461561661761861962062162262362462562662762862963063163263363463563663763863964064164264364464564664764864965065165265365465565665765865966066166266366466566666766866967067167267367467567667767867968068168268368468568668768868969069169269369469569669769869970070170270370470570670770870971071171271371471571671771871972072172272372472572672772872973073173273373473573673773873974074174274374474574674774874975075175275375475575675775875976076176276376476576676776876977077177277377477577677777877978078178278378478578678778878979079179279379479579679779879980080180280380480580680780880981081181281381481581681781881982082182282382482582682782882983083183283383483583683783883984084184284384484584684784884985085185285385485585685785885986086186286386486586686786886987087187287387487587687787887988088188288388488588688788888989089189289389489589689789889990090190290390490590690790890991091191291391491591691791891992092192292392492592692792892993093193293393493593693793893994094194294394494594694794894995095195295395495595695795895996096196296396496596696796896997097197297397497597697797897998098198298398498598698798898999099199299399499599699799899910001001100210031004100510061007100810091010101110121013101410151016101710181019102010211022102310241025102610271028102910301031103210331034103510361037103810391040104110421043104410451046104710481049105010511052105310541055105610571058105910601061106210631064106510661067106810691070107110721073107410751076107710781079108010811082108310841085108610871088108910901091109210931094109510961097109810991100110111021103110411051106110711081109111011111112111311141115111611171118111911201121112211231124112511261127112811291130113111321133113411351136113711381139114011411142114311441145114611471148114911501151115211531154115511561157115811591160116111621163116411651166116711681169117011711172117311741175117611771178117911801181118211831184118511861187118811891190119111921193119411951196119711981199120012011202120312041205120612071208120912101211121212131214121512161217121812191220122112221223122412251226122712281229123012311232123312341235123612371238123912401241124212431244124512461247124812491250125112521253125412551256125712581259126012611262126312641265126612671268126912701271127212731274127512761277127812791280128112821283128412851286128712881289129012911292129312941295129612971298129913001

木部専用メンテナンス液
¥2,160 (税込)【6657】

弊社と欧州の古式装束者が本製品の使用のメンテナンスタップに使用している商品です。古式装束や無動式装束の木製品のお手入れに最適で、クリーナー/ツヤ出し/保護剤としてお使い頂けます。ご使用前にメンテナンスする部分の埃や油分などを取り除いた後、本商品を原液のまま適量（2〜3滴）布に含ませ、木部を磨く感覚で拭いてください。2〜3滴でバット・ストック片面積度のメンテナンスが可能です。最後にやわらかい布で拭き上げるとより効果的です。

内容量60ml

弊社協力記事掲載
専門誌のご案内

Gun Professionals

銃・射撃の専門誌



本誌は、「月刊アームズマガジン」の増刊として発売、2012年8月号より独立創刊し月刊誌となりました。Turk Takano氏、Toshi氏をはじめとする、実銃専門誌で活躍してきた海外ライターが一挙集結し、日本では見ることのできない海外の銃器に関する最新情報を毎月発信する銃と射撃の専門誌です。
 ≪メインコンテンツ≫★海外実銃レポート★上記ライター陣による各地での取材レポート★国内トイガンレポート★アームズマガジン誌とはコンセプトの異なる角度から、国内製品や実銃をインプレッション★国内シューティングレポート★日本国内の実銃射撃、銃砲の情報を掲載。



連載100回を超える無可動実銃に見る20世紀の小火器シリーズはGun Professionals編集部Associate EditorのSatoshi Matsuo氏が執筆する、資料的価値が高い人気の連載です。弊社の在庫品から毎月ジャンルの異なる銃を選んで開発の過程から歴史的背景まで解説した、国内唯一・流行に左右されない記事となっています。特に無可動実銃として国内にある銃にスポットを当てているだけあって、現実的にコレクション可能な品が紹介されているのが嬉しいですね。弊社にてお買い上げ頂いた銃が紹介されているのは、マニアックな解説も一層楽しくなるのではないのでしょうか。またその解説を読んで、欲しいと思えば手に入られる可能性がある事も楽しみの相乗効果を生み出しています。

下記リストでSOLD OUT表示以外の商品は、本ガゼット発行時点で在庫のある品です。ご希望の個体が御座いましたらお気軽にお問い合わせください。なお、リストの名称・価格につきましては本ガゼット発行時点のものとなります。

ご注文・問い合わせの際は「ガンプロフェッショナルズ掲載品」と必ずご指定ください。ご対応時にダブル・チェックさせていただきます。

2018.2月号	カナダ ロス ライフル MkIII	No.5055567	¥378,000
2018.1月号	M3 グリースガン 短機関銃	No.0243518	SOLD OUT
2017.12月号	MAS Mle 1938 短機関銃	No.F92358	¥259,200
2017.11月号	FN P90 短機関銃	No.FN027736	¥810,000
2017.10月号	ベレッタ BM59 Mark IIa ITA 自動小銃	No.2520588	¥291,600
2017.9月号	PPSh41 短機関銃 (中咽壁)	No.8422	¥194,400
2017.8月号	カルカノ M1891/38 TS 騎兵銃	No.G727	SOLD OUT
2017.7月号	トンプソン M1928A1 短機関銃	No.S-402324	¥442,800
2017.6月号	P14 小銃	No.W82193	¥280,800
2017.5月号	Charter Arms AR7 自動小銃	No.A145229	SOLD OUT
2017.4月号	シャム モーゼル 46/66式 小銃	No.857	¥345,600
2017.3月号	M1A ライフル (Norinco社製)	No.N140038	¥216,000
2017.2月号	FA-MAS G2 自動小銃	No.A00769	¥594,000
2017.1月号	イスラエル FN FALO 軽機関銃	No.00927	SOLD OUT
2016.12月号	スター モデル 2-70/B 短機関銃	No.ET61726	¥129,600
2016.11月号	MGV-176 短機関銃	No.0210	¥291,600
2016.10月号	M1 カービン	No.4881042	SOLD OUT
2016.9月号	スティー M1886 Kropatscheck 歩兵銃	No.1949	¥432,000
2016.8月号	オランダマンリッカー No.1 NEW MODEL 騎兵銃 (20)	No.7800N	¥237,600
2016.7月号	RP46 軽機関銃	No.118	SOLD OUT
2016.6月号	SMLE No.1 MkIII 小銃	No.L67215	SOLD OUT
2016.5月号	モーゼル Gew.71 歩兵銃	No.63305	SOLD OUT
2016.4月号	K2 自動小銃	No.K000777	¥356,400
2016.3月号	マルティニ・メトロフォード M303 アーティラリー・カービン	No.8152	¥432,000
2016.2月号	ウィンチェスター M73 ライフル	No.318409B	¥864,000
2016.1月号	Kar.98k 小銃 (復刻品 ZF39 スコープ搭載)	No.4677	SOLD OUT
2015.12月号	マイクロバル 自動小銃 (Mepro21 リフレックス・サイト付)	No.37880147	¥648,000
2015.11月号	XM16E1 自動小銃	No.572499	SOLD OUT
2015.10月号	和製管打式 ケーメル銃 (鉄砲刀剣登録証付古式銃)	No.無	¥248,400
2015.9月号	POF製 MP5K 短機関銃	No.A13434	SOLD OUT
2015.8月号	CZ スコピオン EVO3 短機関銃	No.B440446	SOLD OUT
2015.7月号	ホッチキス Mk I * No.1 機関銃	No.E34912	SOLD OUT
2015.6月号	MG42 汎用機関銃	No.5642b	¥388,800
2015.5月号	ワルサー MPL 短機関銃	No.10583	¥162,000
2015.4月号	スオミ M44 短機関銃	No.5838	¥108,000
2015.3月号	モーゼル C96 カービン	No.686909	SOLD OUT
2015.2月号	ユーゴ ZB30J 軽機関銃	No.00555	SOLD OUT
2015.1月号	M16A1 自動小銃	No.9488521	SOLD OUT
2014.12月号	エルマ EMP 短機関銃 (ラ・ロルナ造兵廠製)	No.D-7544	SOLD OUT
2014.11月号	M16G 短機関銃	No.6944	¥140,400
2014.10月号	Stgw.57 自動小銃	No.A335033	SOLD OUT
2014.9月号	PTRS 1941 対戦車ライフル	No.288	SOLD OUT
2014.8月号	FBP m/948 短機関銃	No.14190	¥129,600
2014.7月号	ステアー・マンリッカー M95 騎兵銃	No.18241	SOLD OUT
2014.6月号	ステン MkV 短機関銃	No.03954	¥194,400
2014.5月号	セドメ モデル 58 自動小銃	No.18042	SOLD OUT

弊社協力記事掲載
専門誌のご案内

Arms MAGAZINE



トイガン&ミリタリー最新情報誌「月刊アームズマガジン」

「アームズマガジン」は各国各分野にわたる銃器の世界を取材し、正しい銃の知識を読者に報道する。玩具銃銃の編集構成については日本の銃刀法を遵守し、かつ不当な製品並びに改造銃等の出現を排除する。われわれは銃を健全な趣味領域の対象として位置づけ、当誌をホビー誌として刊行する。

月刊アームズマガジンは、本誌冒頭に掲げた編集方針に基づいて刊行を重ね、本誌トイガン・ファンの様々な課題・ニーズに取り組み、最新のトイガン情報を発信してきました。そして今後も変わらず、トイガン&ミリタリーを基軸に、最新の情報を常に新しい視点で発信します。毎月、トイガン&ミリタリー業界の新境地を切り拓く「月刊アームズマガジン」にどうぞご期待ください!



アームズマガジンに平成24年から掲載された、弊社の在庫品を使った多彩なキャラクターで有名なモロ☆氏執筆の楽しい記事です。

平成24年6月号から平成27年8月号までは無可動実銃に特撮技術を施し、いかにも実際に射撃を行っているように見せた「空想射撃場」。平成27年9月号から平成28年10月号までは女性モデルを使っての斬新なビジュアルと内容を兼ね備えた「Real Armory」。平成28年11月号から始まった新しい切り口で無可動実銃を紹介する「主を失った世界の名銃たち」。「主を失った世界の名銃たち」は取り上げた無可動実銃の生産国と同じ国のレストランを紹介したり、掲載された銃の個体についての来歴を推測するなど姉妹誌の「無可動実銃」に見る20世紀の小火器とは一線を画した内容です。同じく弊社の在庫品を使っている記事ですので、微しいと思えば有名誌で紹介された品を手に入れる可能性があります。

下記リストでSOLD OUT表示以外の商品は、本ガゼット発行時点で在庫のある品です。ご希望の個体が御座いましたらお気軽にお問い合わせください。なお、リストの名称・価格につきましては本ガゼット発行時点のものとなります。

記載のシリアルNo.と実際の掲載品が異なる場合がございますので「アームズマガジン掲載品」と必ずご指定ください。確認のうえご案内させていただきます。

2018.2月号	M16A2 自動小銃	No.8118391	¥453,600
2018.1月号	AK-47 自動小銃 II型	No.980986	¥183,600
2017.12月号	SR88A カービン	No.600604	¥345,600
2017.11月号	CIS Ultimast 100 MK3 軽機関銃	No.106260	¥594,000
2017.10月号	Gew.3A3 自動小銃 (EN組立品、二脚無)	No.6902766	¥108,000
2017.9月号	バレット M12 短機関銃	No.F1164	¥172,800
2017.8月号	M16A1 自動小銃	No.9172013	¥194,400
2017.7月号	M1 ガーランド ライフル	No.5887363	SOLD OUT
2017.6月号	ステン MK II 短機関銃	No.FP22035	SOLD OUT
2017.5月号	トカレフ AVT 1940 自動小銃 後期型	No.2519	¥302,400
2017.4月号	SIG SG510-4 自動小銃	No.20568	¥756,000
2017.3月号	HK33 A3 自動小銃	No.001981	SOLD OUT
2017.2月号	ハンガリー AMP69 自動小銃	No.KP0895	¥194,400
2017.1月号	セトメ モデル L 自動小銃	No.L105998	¥108,000
2016.12月号	M1 カービン (IBM社製)	No.3847136	¥162,000
2016.11月号	AKM 自動小銃	No.3426	SOLD OUT
2016.10月号	ボーランド Wz.63 短機関銃	No.BM04688	¥205,200
2016.9月号	MP44 突撃銃	No.1981/44	SOLD OUT
2016.8月号	FA-MAS F1 自動小銃	No.A25040	SOLD OUT
2016.7月号	LMT LM308MWS 自動小銃	No.LMS16942	¥1,080,000
2016.6月号	タール TAR 21 自動小銃 (MARS フレックス・サイト付)	No.37801780	¥702,000
2016.5月号	MP28 短機関銃 (ベルギー製 M34 Schmeisser-Bayard)	No.23	SOLD OUT
2016.4月号	MP5A3 短機関銃	No.C205612	¥453,600
2016.3月号	モーゼル C96 カービン	No.293	SOLD OUT
2016.2月号	SIG SG551-J 自動小銃	No.140417	SOLD OUT
2016.1月号	マイクロ UZI 短機関銃	No.30407555	¥540,000
2015.12月号	バレット M70/223 自動小銃	No.M31403	SOLD OUT
2015.11月号	MP5A2 短機関銃	No.31208	SOLD OUT
2015.10月号	CZ スコーピオン EVO3 短機関銃	No.B440446	SOLD OUT
2015.9月号	FN SCAR-L 自動小銃 CQCモデル	No.L011050	¥1,404,000
2015.8月号	MAC11 短機関銃	No.001998	¥723,600
2015.7月号	PK 汎用機関銃	No.RE-186	SOLD OUT
2015.6月号	七九式 狙撃銃	No.700970	SOLD OUT
2015.5月号	UZI 短機関銃 本製ストック付	No.2031965	SOLD OUT
2015.4月号	M16A1 自動小銃	No.9515828	¥302,400
2015.3月号	M3 グリンスガン 短機関銃	No.366865	¥345,600
2015.2月号	ガリル ARM 自動小銃 本製ハンドガード 着弾装置無	No.2007620	SOLD OUT
2015.1月号	ミニ UZI 短機関銃	No.05722	¥270,000
2014.12月号	三九式短機関銃 (台湾製グリスガン)	No.017107	SOLD OUT
2014.11月号	HK33 A3 自動小銃	No.001981	SOLD OUT
2014.10月号	Stgw.57 自動小銃	No.A526814	¥237,600
2014.9月号	ステアー AUG 1F ライフル	No.1F536	¥313,200
2014.8月号	Kar.98k 小銃	No.24228	SOLD OUT
2014.7月号	マイクロガリル MAR ショート・カービン (MODEL 699)	No.331014321	SOLD OUT
2014.6月号	MP41 短機関銃	No.21698	¥378,000
2014.5月号	バレット M82A1 狙撃銃	No.3098	SOLD OUT



ANNIVERSARY

Chicago *Regimentals* Co., Ltd.

◆社歴

1979年: 英国Londonにて軍装品の取り扱い開始
 1981年: 米国Los Angelesにて軍装品の取り扱い開始
 1983年: 米国ChicagoにてChicago Regimentalsを設立
 1991年: 米国Kansas Cityに移転
 1993年: 大阪ショールーム オープン(大東市)、無可動実銃の取り扱い開始
 1994年: 東京ショールーム オープン(日暮里)
 2000年: 長野倉庫/事務所開設
 2005年: スコープ専門webshop Chicago Regimentals Zeroin開設
 2009年: 東京本店 The Chicago ビル購入
 2010年: 東京ショールーム 上野へ移転、東京上野本店オープン
 2011年: 大阪本社 瓦町一丁目ビル購入
 2012年: 大阪ショールーム 中央区へ移転、大阪店オープン
 2014年: 英国工場開設
 2015年: 東京上野本店一階に古式銃専門店 The Chicago Gallery オープン
 2016年: 長野県軽井沢に2,000坪(合計3,000坪)の長野本部(仮称)用地追加購入
 2017年: 長野本部(仮称)、倉庫、事務所 完成

はじまりは25年前の冬だった。

1993年に日本上陸を果たしたシカゴ レジメンタルスは今年で25周年。
 弊社はたくさんのお客様からご愛顧を賜り、
 25周年の節目を迎えることができました。

無可動実銃というに限られた商品しか手に入らなかった時代に、
 100種類を超える商品を当時の相場額の1/4から半額以下の価格で提供できた事は
 弊社の挑戦の始まりでした。

挑戦の結果が「あたりまえ」になる度に、次の「あたりまえ」でないことの実現に向けて
 一つひとつ挑戦するのが弊社の使命と考えています。

世界一のCOLLECTORS' FIREARMS DEALERになることを目指して。

シカゴ レジメンタルスはお客様とともに進化し続けます。

ご住所をご登録いただいているお客様へ

25th 謝恩キャンペーン

———— キャンペーン期間は2018年6月30日までです ————

Q: 買取り/下取り品の査定後のキャンセルは可能なのでしょうか?

A: 弊社による正式査定額の有効期間は1ヶ月間です。正式な査定額をご承知いただいた後は、お客様の都合による買取り/下取りのキャンセルはご遠慮いただきますようお願い致します。また、買取り成立後のキャンセルは出来ませんので、あらかじめご了承下さい。

Q:

シカゴのHPやブログに掲載されているテキストや画像を出版物や個人のHPなどで使用する事は可能ですか?

A: 弊社ウェブサイトやブログ、印刷物等に掲載しているテキスト及び画像の著作権は、既に販売済みとなった商品の情報も含めて全て弊社に帰属し、無断での転載・転用は固くお断りしております。弊社ウェブサイト並びに印刷物からのテキストや画像の利用をお考えの方は、弊社まで必ず一度お問い合わせください。

Q: 無可動実銃や登録証付古式銃で気になる商品

有るのですが、東京店から大阪店(もしくは大阪店から東京店)に商品を移動した上で現物を確認する事は出来ますか?

A: ご希望商品の店舗間の在庫移動についても承っておりますので、お近くの店舗で現物を確認した上でお買い求めいただけます。尚、商品移動につきましては通常は一週間以内でお時間をいただく可能性がございます。

Q: 買取り/下

取り品は直接店頭へ持ち込んでも大丈夫でしょうか? **A:** 買取り品を店頭へ直接お持ちいただく事も可能ですが、当日に買取り担当者不在の場合には、お客様に長時間お待ちいただく場合やお品物を査定のためお預りする場合もございますので、ご来店日時が決まりましたら可能な限り事前にご連絡いただけますようお願い致します。

Q: シカゴ以外のお店やオークションで購入した無可動実銃や登録証付古式銃の買取りは可能ですか?

A: 弊社以外でご購入された商品についても買取り/下取りは可能です。但し、正式な査定額につきましては現物を確認後のご提示となりますので、予めご了承願います。尚、他社から購入された品につきましては弊社査定30%保証の対象外となります。

買取ります!

ステップ1

まずはお電話ください。03-5818-1123

弊社よりお買い上げ頂いた品は状態が販売時と同じであれば
販売価格の最低30%を保証します。

宅配便での送品、お持ち込みどちらでもOKです。
梱包材料の無い方には専用段ボール箱をお送り致します。

ステップ2

査定をさせて頂きます。

今まで弊社で査定した品のほぼ100%の高額が
成立しています。それだけ弊社の査定には満足
頂いております。※査定の有効期間は1ヶ月です。

ステップ3

買取・下取前提の査定は
無料です。お気軽にお電話ください。

即日、貴方の銀行口座にお振込致します。

大量にある場合は
全国どこでも
出張買取致します。

◇買取/下取りのご案内◇

買取・下取りの際は身分証明書のコピーを頂きます。ご来店の際は、必ず身分証
明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配・郵送にて商
品をお送りいただく場合は、身分証明書のコピーとお買い代金のお振込口座情報
(名義人、銀行名、支店名、口座の種類、口座番号)を明記のうえ同封してください。

●買取について

- 弊社よりお買い上げいただいた無可動美術は状態が販売時と同様であれば無条件で
販売価格の最低30%を保証し、最高200%以上で買取致します。平均買取価格は、
種類や市場相場によって変わりますが、最近はやや50%程度です。お電話での大まかな
査定も出来ます。お気軽にお問い合わせください。
- 他店から購入された品であっても、正規輸入品であれば買取可能です。他店からの購入
品は品を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額はそれを約束もなく
保証するものではありませんのでご了承ください。その際は購入店名(輸入業者名)をお
知らせいただき、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参く
ださい。宅配・郵送で弊社へ直接送られる方は身分証明書のコピーを同封してください。
- アクセサリ、軍装品、書籍のみの場合は買取が出来ない場合もございますので、
事前にお問い合わせください。
- 正式査定には品を宅配便でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。
梱包材料がお手元が無い方には専用段ボール箱をお送り致します。この場合、査定
品を弊社までお送りいただく際の送料はご負担していただきます。
- 買取が成立した後(代金の振込み後)のキャンセルは出来ません。あらかじめご了承ください。

●下取りについて

- 下取りの条件は基本的に買取りと全く同様ですが、査定と買取価格よりも5%高く評
価させていただきます。ご購入予定の品によっては10%から30%買取価格よりも高
く評価出来る事もありますので、ご相談ください。
- 下取り品の代わりに購入される品が下取り品の価格より低い場合は、買取価格
と同額になります。
- 下取り品の代わりに購入される品の返品は、弊社規定の返品期間内であれば他の品との
交換が可能です。但し、返品してキャンセルになった場合の査定額は買取価格と同額に
なります。

ご来店のお客様へ

- ※弊社は世界で最も多種の小火器を展示販売している無可動美術の専門店です。一般的な品
は数多くの中からお選びいただけるように、一ジャンルにつき数箇所在庫を用意していま
すので、ぜひご来店いただき、ご自身の目で品をお確かめください。希少価値の高い品につ
きましては一品物もございますので、遠方よりご来店の際は予めお電話で在庫状況をご確
認ください。
- ※東京上野本店、大阪店ともに年中無休です。(大阪店はお正月休みを除く)
- 営業時間は両店ともに12:00より20:00までです。(お会計は19:30まで)
- ※各種クレジットカード(VISA, Mastercard, JCBとその提携カード(Amex, Dinersなど)、
Nicos, Orico)を取り扱っています。(分割2回、ボーナス払いはご利用いただけません。)
- ※オリエントコーポレーションの店頭決断ローン(Oricoローン)も取り扱っております。ロー
ンをご希望の方は口座番号、銀行印と身分証明書(運転免許証、健康保険証等)をお持ちく
ださい。
- ※重機銃をお買い求めのお客様で簡易包装での持ち帰りをご希望される方は、販売価
格より1万円サービスさせていただきます。(ブローニング M1919 A4機関銃など、対象
外の品もありますので、お会計の前にご確認ください。)

通信販売をご利用のお客様へ

- ①お電話(TEL.03-5818-1123)、またはメール(chicago@regimentals.jp)にてご注文
文を承っております。
- ②弊社HPからのご注文も承っております。まずご希望の商品ページにある「ご注文受付はこちら」
から「ご注文フォーム」をご送信ください。シカゴレジメンタルス <http://www.regimentals.jp>
③ご注文受付後、在庫を確認した上で折り返し弊社よりご連絡致します。なお無可動美術の
送料は弊社でサービスさせていただきます。
- ④お支払い方法は下記の通りです。ご送金またはご入金いただいた場合は確認の為に、必
ずお電話またはメールにて東京上野本店まで早急にお知らせください。
(送品業務が円滑になるとともに事故を防ぐためにも宜しくお願い致します。)

◆銀行送金の場合

三井住友銀行 江坂支店 普通口座296764 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス
ゆうちょ銀行 記号10130 番号87425981 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス

◆現金書留の場合

〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7 (The シカゴビル)
株式会社シカゴレジメンタルス TEL.03-5818-1123

◆クロネコヤマト クレコトサービス(代金引き替え)の場合

- 14:00までにご注文を頂ければ一部地域を除き翌日配達が可能です。
- ※返品の場合は送料の他に引手数料もご負担いただきますのでご了承ください。
- (注1)銀行へお振込み頂いても1500円未満と引入金となることもあり、その場合は翌日配達となります。
(注2)通常翌日には配達されますが、一部地域ではそれ以上に日数がかかる事もありますのでご了承ください。

★通信販売の送料・代引手数料について

- ※ご購入金額が3万円(税込)以上の場合は、送料・手数料ともにサービスさせてい
たします。
- ※ご購入金額が3万円(税込)未満の場合は、500円の送料をご負担いただいております。
また、コレコトサービス(代金引き替え)の場合は、送料500円+代引手数料
500円=合計1000円をご負担ください。

◆クレジットカードでお支払いの場合

通信販売でも店舗とほぼ同じ各種クレジットカードをご利用いただけますが、一部ご利用
いただけないカードがございますので、お問い合わせください。

◆Oricoローンをご利用の場合

通信販売でもOricoローンをご利用いただけます。簡単な手続きで分割払いが可能です。
また金利もクレジットカードより低くいただけます。(分割回数は、webオリコが3回~60回、
専用紙記入によるお申し込みが6回~60回となります。)

- ⑤ご注文いただいた品が店頭在庫とある場合は、ご送金・ご入金確認後、または決済完了
した後に宅配便にて発送致します。

※弊社取り扱いの商品は書籍とスコープを除き全て返品が可能ですので、通信販売でも安心してお買
い求めいただけます。もし商品にご満足いただけない場合は、商品を受け取ってから7日以内に
ご連絡の上、ご返送ください。お送りいただいた金額より送料、各種手数料(代引手数料、振込
手数料など)を差し引いた金額を返金致します。(但し、古い品ですので返品は常規的な回数でお願い
致します。)

表示価格は消費税8%を含めた価格です。

- ご不明な点がありましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

古式銃の買取り、下取りについての流れ

◆まずは、ご確認ください◆

1. 各都道府県の教育委員会が発行した「銃砲刀剣類登録証」が付いた合法的に所持ができる古式銃のみを買取り致します。

「銃砲刀剣類登録証」がない古式銃(例えのように古いタイプの銃であっても)の買取りはできません。

- * 「銃砲刀剣類登録証」を紛失された方は「再交付」、新しく発見された古式銃については「発見届」から「登録審査」までのアドバイスを致します。* 「再交付」もしくは「登録」の保証をするものではありません。
- * 「銃砲刀剣類登録証」が交付されてから弊社で買取りを行います。
- * 明治以降の品(真正拳銃に該当する物)につきましては、古くても古式銃とは見なされませんので、上記説明に沿うことはできません。

銃砲刀剣類の登録証サンプル



昭和34年交付

昭和48年交付

平成2年交付

◆ご注意ください◆

2. 稀に「銃砲刀剣類登録証」が付いていても、古式銃現物と「登録証」が一致しない場合もあります。この場合は教育委員会での「再審査」が必要となります。古式銃現物と登録証が一致しているかご確認ください。

◆お問い合わせください◆

3. 買取り可能な登録証付き古式銃であれば、お電話またはメールで、銃名(モデル名)、登録証情報、購入金額、購入時期、商品のコンディション(動作するか否か、欠品がないか)、付属品の有無、買取り希望金額をお伝えいただければ、大まかな査定が出来ます。
- また、火縄銃の場合はモデル名などがないので、写真など査定判断が出来るものを送ってください。
- まずはお気軽にお問い合わせください。

◆査定いたします◆

4. 古式銃の現物と登録証を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額は、それを約束または、保証するものではありませんのでご了承ください。
- 正式査定には品を宅配便等でお送りいただくか、大阪、東京店へ直接お持ち込みください。
- こちらからは前ページの「無可動実銃の買取り/下取りのご案内」をご参照ください。
- * 古式銃の付属品のみのお買取りは基本的には出来ませんが、品によっては可能な場合もありますのでお問い合わせください。ただし、銃と一緒に付属品(特にオリジナル木箱など)を買取りに出される場合はプラス評価をさせていただきます。
- * 古式銃現物と登録証は必ず一緒にお送りください。

●ご不明な点がございましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

無可動実銃について

無可動実銃とは実物の銃に対して発射機能を排除する加工を海外で施し、装飾用として合法的に輸入された品です。

輸入された時期によって多少の違いはありますが、下記の加工は最低限施されているのが無可動実銃の条件です。

- * 銃身内部に鉄製のインサートが銃口から薬室まで挿入されて塞がっており溶接によって抜けなくなっていること。
- * 薬室と銃身にスリットが入っていること。
- * 薬室は溶接によって塞がっており装填は出来ませんこと。
- * ボルトの一部若しくは半分を除去して使用不可能にし、機関部本体に溶接で固定されていること。
- * 引き金を除く、トリガー・メカニズムの一部、若しくは全てを取り外していること。平成10年以降に輸入された品はより厳しい加工が施されてあります。

古式銃砲について

下記の銃砲刀剣類所持等取締法第十四～十八条(抜粋)に基づき、教育委員会によって「銃砲刀剣類登録証」が交付された古式銃は合法的に所持が認められています。

第十四条 都道府県の教育委員会は、美術品若しくは骨とう品として価値のある火縄銃銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録をするものとする。

2. 銃砲又は刀剣類の所有者(所有者が明らかでない場合にあつては、現に所持する者。以下同じ。)で前項の登録を受けようとするものは、文部科学省令で定める手続により、その住所の所在する都道府県の教育委員会に登録の申請をしなければならない。
3. 第一項の登録は、登録審査委員の鑑定に基づいてしなければならない。
4. 都道府県の教育委員会は、第一項の規定による登録をした場合においては、速やかにその旨を登録を受けた銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。
5. 第一項の登録の方法、第三項の登録審査委員の任命及び職務、同項の鑑定の基準及び手続その他登録に関し必要な細目は、文部科学省令で定める。

(登録証)

第十五条 都道府県の教育委員会は、前条第一項の登録をする場合においては、登録証を交付しなければならない。

2. 登録を受けた銃砲又は刀剣類を所持する者は、登録証を亡失し、若しくは盗み取られ、又は登録証が滅失した場合においては、文部科学省令で定める手続により、速やかにその旨を当該登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届け出てその再交付を受けなければならない。
3. 登録証の様式及び再交付の手続は、文部科学省令で定める。

(登録を受けた銃砲又は刀剣類の譲受け、相続、貸付け又は保管の委託の届出等)

第十七条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続により取得し、又はこれらの貸付け若しくは保管の委託をした者は、文部科学省令で定める手続により、二十日以内にその旨を当該登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届け出なければならない。貸付け又は保管の委託をした当該銃砲又は刀剣類の返還を受けた場合においても、また同様とする。

2. 登録を受けた銃砲又は刀剣類を試験、研究、研ま若しくは修理のため、又は公衆の観覧に供するため貸付け、又は保管の委託をした場合においては、前項の規定にかかわらず、届出を要しない。
3. 都道府県の教育委員会は、第一項の届出を受理した場合においては、速やかにその旨を当該届出に係る銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。

第十八条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り渡し、貸し付け、若しくはこれらの保管を委託し、又はこれら他人をして運送させる者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならぬ。

2. 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、借り受け、又はこれらの保管の委託を受ける者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。
3. 何人も、当該銃砲又は刀剣類とともにする場合を除いては、登録証を譲り渡し、又は譲り受けなければならない。

Chicago *Regimentals*
Tokyo Ueno Headquarters

www.regimentals.jp



東京店 階段室



東京店 2F



東京店 3F



東京店 4F



東京店 エントランス

The Chicago *Gallery* (ザ・シカゴ ギャラリー)

日本唯一の登録証付古式銃の専門店です。

東京上野本店一階で古式銃だけを160挺以上取り揃えています。

各都道府県教育委員会から交付された「銃砲刀剣類登録証」付きの古式銃は
名義変更のみでどなたでも所持が可能です。

ザ・シカゴ ギャラリーは予約制になっておりますが、弊社で過去に古式銃を
お買上げいただいたお客様にはご自由にご覧いただけます。新規のお客様でも古式銃の
ご購入をお考えでしたら、東京上野本店二階受付にてお申し出ください。

*登録証付古式銃についての詳細(銃砲刀剣類所持等取締法)は小誌P.104をご参照ください。

The Chicago *Gallery*
Specializing in
Registered Antique Firearms
By Appointment Only

